



統 合 会 計

固定資産管理

インフラガイド

マニュアル構成

マニュアル構成は、次の通りです。

マニュアル名称	説明
操作マニュアル (基本操作編)	システムの基本的な操作手順に関するマニュアル
操作マニュアル	システムの操作に必要な操作手順に関するマニュアル
システム設定ガイド I (システム設定編)	システムの導入に必要な設定情報に関するマニュアル
システム設定ガイド II (個別画面仕様編)	システムの画面(入力画面、照会画面、帳票出力画面、呼出画面)と帳票の仕様に関するマニュアル
インフラガイド	システム的环境構築に必要な情報に関するマニュアル
クライアントインストールガイド	クライアントインストールに必要な情報に関するマニュアル
マイナンバーインストールガイド	マイナンバー的环境構築に必要な情報に関するマニュアル

表記・アイコン

本書では、次の表記およびアイコンを使用します。

表記	説明
「入力または設定内容」	画面上で入力または設定する内容を示す
【ボタン名】ボタン	画面やダイアログボックスに表示されるボタン名称を示す
[メニュー名]等	メニュー名、画面やダイアログに表示される項目名などを示す
『参照先』	参照先である章や節の番号や他のマニュアル名称を示す
<キー名> キー	端末のハードウェアキーの名称を示す
⇒	ある動作後の動作結果を示す

アイコン	説明
	補足内容や参考となる情報を示す
	操作上で注意しなくてはならない情報を示す
	操作の分岐を示す
	参照先を示す
<OP>	オプション操作を示す

ボタン

本書では、次のボタンについて操作内で説明を省略しています。

No.	ボタン名	説明
1	【参照】ボタン	マスタを参照する
2	【キャンセル】ボタン	操作を途中で中断する
3	【クリア】ボタン	入力した内容をクリアする
4	【条件クリア】ボタン	入力した条件をクリアする
5	【削除】ボタン	入力した内容を取り消す、もしくは登録内容を削除する
6	【解除】ボタン	ある操作を確定後、その操作を取り消す
7	【閉じる】ボタン	画面を閉じる

<注意>

1. スーパーストリーム株式会社からの書面による許諾を得ずに、本書の内容の一部または全部を無断で複製、複写、転載、翻訳、頒布することを禁止します。
2. 本書の内容は、製品の改良などにより将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の商品性、特定目的に対する適合性に関して、スーパーストリーム株式会社は保証いたしません。
4. 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一記載内容の誤りなどお気づきの点がございましたら、スーパーストリーム株式会社までご連絡ください。
5. 運用した結果の影響については、4 項にかかわらずスーパーストリーム株式会社は責任を負いかねますのでご了承ください。
6. 本マニュアルに記載された社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

目次

1. インフラ概要	1
1.1 システム要件	3
2. インストール	5
2.1 インストールの概要	5
2.2 インストールの準備	6
2.2.1 データベースサーバー	6
2.2.2 アプリケーションサーバー	8
2.2.3 クライアント	10
2.3 インストール作業	11
2.3.1 データベースサーバーの設定	11
2.3.1.1 データベースインストールガイド	12
2.3.1.2 NX 統合会計データベース初期のインストール	13
2.3.1.3 データベースの製品追加 (NX 統合会計・NX 固定資産管理)	20
2.3.1.4 データベースのアップデート (NX 統合会計・NX 固定資産管理)	25
2.3.1.5 NX オプション製品のインストール	30
2.3.1.6 データベースの個別アップデート (NX 共通・NX 統合会計・NX 固定資産管理・NX オプション)	35
2.3.1.7 インストールの中断、インストールエラー (共通)	40
2.3.1.8 インストール後の設定・確認	48
2.3.2 アプリケーションサーバーの設定	49
2.3.2.1 サーバーコンポーネントインストールガイド	50
2.3.2.2 NX 統合会計サーバーコンポーネントの初期インストール	53
2.3.2.3 サーバーコンポーネントの製品追加 (NX 統合会計・NX 固定資産管理)	63
2.3.2.4 サーバーコンポーネントのアップデート (NX 統合会計・NX 固定資産管理)	65
2.3.2.5 サーバーコンポーネントの個別アップデート (NX 共通・NX 統合会計・NX 固定資産管理)	68
2.3.2.6 サーバーコンポーネントのアンインストール	70
2.3.2.7 インストールエラー (製品追加、アップデート、個別アップデート)	72
3. 各種機能	73
3.1 バックアップ機能	73
3.2 管理ツール	88
3.2.1 ログ採取機能	90
3.2.2 ログインユーザー監視機能	95
3.2.3 オプションツール利用設定機能	96
3.2.4 非同期設定機能	97
3.2.5 法人番号登録&情報収集許諾機能	100
3.3 ログインスキップ機能	103
3.4 サーバー側の設定ファイル	106
3.4.1 システム共通設定項目	106
3.4.2 ログ関連設定項目	108
3.4.3 サービス停止設定項目	109
3.4.4 お知らせメッセージの設定	110
3.4.5 出力 CSV ファイルのフォーマットの設定	111

3.4.6 ファイルアップロード制限の設定	113
3.4.7 入出力ファイルの文字コードの設定	115
3.4.8 フリーレイアウト使用可否の設定	119
3.4.9 クライアント情報の設定	119

1. インフラ概要

SuperStream-NX シリーズは、Microsoft .NET Framework を使用して構築されています。
そのシステム構成および、インタフェースについて説明します。

NX シリーズの実行環境には、以下のサーバーとクライアントが必要です。

- データベースサーバー NXシリーズのデータを格納する
- アプリケーションサーバー ビジネスロジックを処理する
- クライアント NXシリーズのユーザーインタフェースを提供する

図 1 NX シリーズのシステム構成

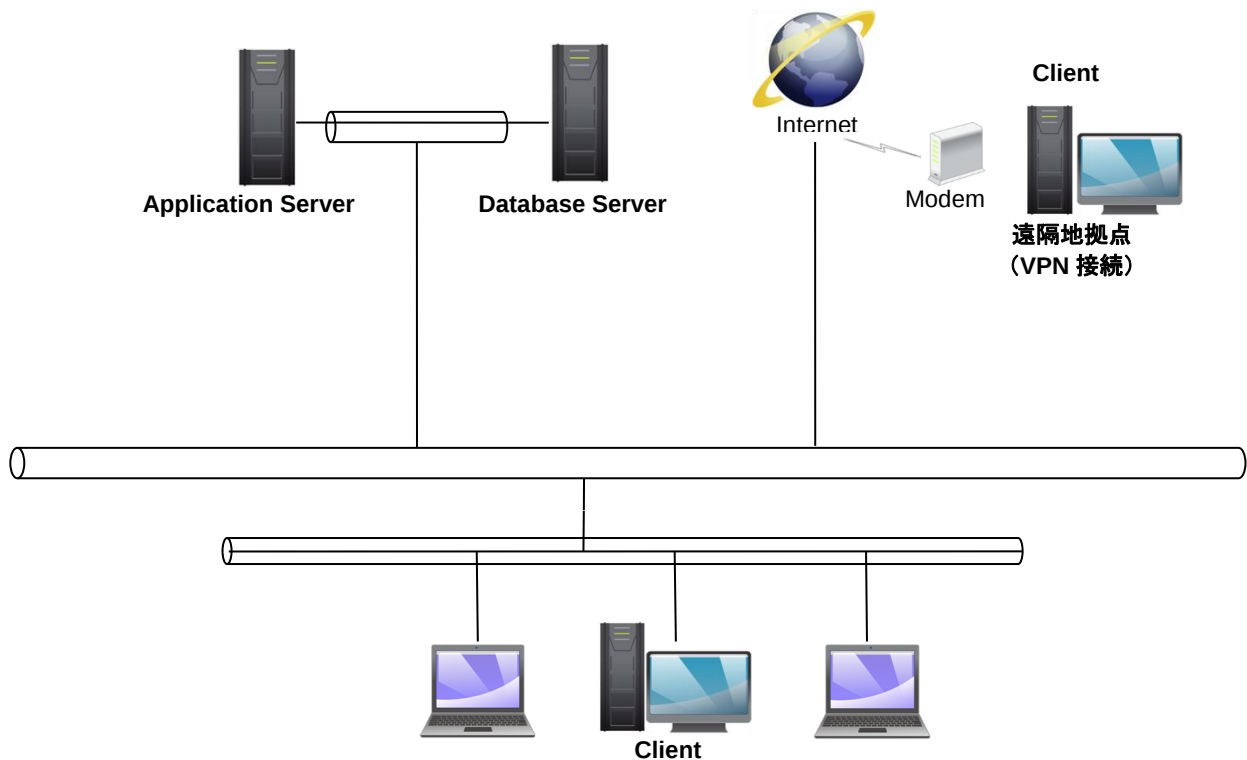
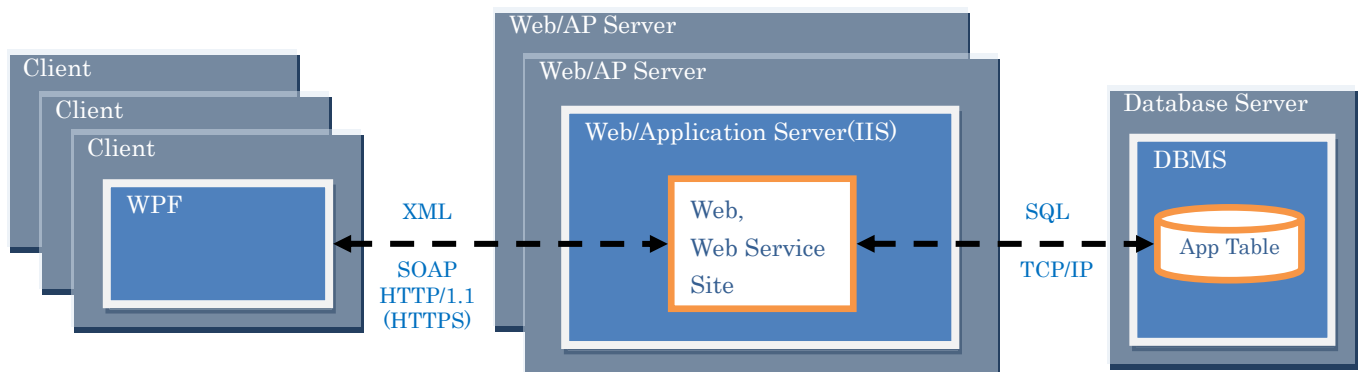


図 2 NX シリーズのインタフェース



NX シリーズでは、クライアントと WEB/アプリケーションサーバー間のインタフェースは、XML を用いており、通信プロトコルは SOAP、HTTP(HTTPS)を使用しています。また、アプリケーションサーバーとデータベースサーバー間のインタフェースは、SQL を用い、通信プロトコル TCP/IP を使用しています。

ネットワーク関連機器（ルータ、ロードバランサ、プロキシサーバー等）、セキュリティ関連ソフトのタイムアウト設定により、HTTP 要求が強制切断または HTTP 要求の自動再送がおこなわれる場合があります。
HTTP 要求の強制切断または再送は、通信エラー、処理の二重起動によるエラーの原因となりますので、NX シリーズに關係する各種タイムアウト設定を解除してください。



注 意

プロキシ認証の利用について:

- ・プロキシ認証を利用する場合、認証情報の設定が必要となります。
認証情報の設定方法は『クライアントインストールガイド』の「4. プロキシ認証」を参照してください。
- ・全てのプロキシ認証サーバーで動作する保証はありません。
動作を確認しているプロキシサーバーは OSS Squid 3.5.20 のみとなります。
検証しているプロキシ認証の種類は NTLM 認証と Basic 認証となります。

HTTP バージョン 1.0 以下では動作しません。

1.1 システム要件

実行環境の各マシンには、適切なメモリ量やディスク領域を確保する必要があります。マシンごとの基準スペックを示します。



・データベースサーバーおよびアプリケーションサーバーは日本語環境において動作確認しております。

データベースサーバー

オペレーティングシステム	使用データベースにより
プロセッサ	Microsoft SQL Server 2012 SP4 / 2014 SP3 / 2017 システム要件（64 ビット版）
メモリ	Oracle Database11.2.0.4 システム要件（64 ビット Windows 版、Linux 版）または Oracle Database12.1.0.2 システム要件（64 ビット Windows 版、Linux 版）または Oracle Database12.2.0.1 / 18.3 システム要件（64 ビット Windows 版、Linux 版） に適合していること （プロセッサ、メモリについてはユーザー環境・運用を考慮した見積もりが必要）
ハードディスク空き容量	ユーザー環境・運用を考慮した見積もりが必要
ネットワークアダプタ	100BASE 以上、1000BASE 推奨
データベース	Microsoft SQL Server 2012 SP4 Microsoft SQL Server 2014 SP3 Microsoft SQL Server 2017 または Oracle Database 11.2.0.4 Oracle Database 12.1.0.2 Oracle Database 12.2.0.1 Oracle Database 18.3.0（12.2.0.2 と同等）  インストール方法の詳細については、製品に付属の『マニュアル』を参照 ・SuperStream-NX データベースインストーラーは 64 ビット OS でのみ動作します。 ・Oracle Database のインストール前に機能の追加から.NET Framework 4.x(4.6 以上) を有効化する必要があります。 ・Oracle Database12.2 / 18.3 のプラグブルデータベースは非対応となります。 ・Oracle Database12.2 / 18.3 では GAC へのアセンブリ登録と machine.config への ODP.NET の登録が必須となります。 ・Oracle Database のインストールは管理者として実行する必要があります。  詳細については、『2.3.1.8 インストール後の設定・確認』を参照
アプリケーション実行環境	Microsoft .NET Framework 4.x(4.6 以上)

アプリケーションサーバー

オペレーティングシステム	Microsoft Windows Server 2012 Microsoft Windows Server 2012 R2 Microsoft Windows Server 2016  注意 Server Core、Nano Server は対象外です。
プロセッサ	2 コア以上の x64 プロセッサ (ユーザー環境・運用を考慮した見積もりが必要)
メモリ	4 ギガバイト以上 (8 ギガバイト以上を推奨) (ユーザー環境・運用を考慮した見積もりが必要)
ハードディスク空き容量	1.2 ギガバイト (アプリケーション)  注意 共通ファイル格納用フォルダをアプリケーションサーバーのハードディスクに設定する場合、各種ログファイル、NX 統合会計の証憑ファイル、NX 固定資産管理の画像・添付ファイルのサイズ見積もりが別途必要です。
ネットワークアダプタ	100BASE 以上、1000BASE 推奨
アプリケーション実行環境	Microsoft .NET Framework 4.x(4.6 以上)  注意 ・使用データベースを Oracle Database とする場合は、Oracle Database に適合した 64 ビット版の Oracle Client をインストールする必要があります。 ・Oracle Client のインストール前に機能の追加から .NET Framework 4.x(4.6 以上) を有効化する必要があります。 ・Oracle Client のインストールは管理者として実行する必要があります。 ・HTTP バージョン 1.0 以下では動作しません。
帳票出力エンジン	Canon image WARE Form Manager  image WARE Form Manager の対応バージョンについては、製品に同梱される『リリースノート』を参照

クライアント



『クライアントインストールガイド』を参照

2. インストール

ここでは、インストールの概要や作業手順について説明します。

2.1 インストールの概要

NXシリーズのインストールプロセスの概要を示します。

インストールの準備	1. システム要件の確認
	2. ネットワーク構成の確認
↓	
インストール作業	3. データベースサーバーの設定
	4. アプリケーションサーバーの設定
	5. クライアントの設定
↓	
システム共通設定	6. セキュリティオプションマスタ設定
	7. 新会社セットアップ

インストールの準備

NXシリーズをインストールする前に、実装を計画し、インストール用のマシンを準備します。

インストール作業

NXシリーズの実行環境に必要なソフトウェアをインストールします。インストールプロセスの詳細については、後続のセクションで詳述します。

インストール可能な製品

製品	概要
NX 共通	全製品(人事管理・給与管理含む)の共通モジュール群がインストールされます。
統合会計	統合会計のモジュール群がインストールされます。
固定資産	固定資産のモジュール群がインストールされます。
建設仮勘定オプション	建設仮勘定オプションのモジュール群がインストールされます。
証憑管理オプション	証憑管理オプションのモジュール群がインストールされます。
証憑管理 e 文書対応オプション	証憑管理 e 文書対応オプションのモジュール群がインストールされます。
大量帳票オプション	大量帳票オプションのモジュール群がインストールされます。
スーパーインターフェース	スーパーインターフェースのモジュール群がインストールされます。
駅すばあとオプション	駅すばあとオプションのモジュール群がインストールされます。
従業員モバイルオプション	従業員モバイルオプションのモジュール群がインストールされます。



2017-06-01 版より、「NX 共通」と呼ばれる全プロダクトで利用するインストール分類が追加されています。



駅すばあとオプションを利用するにはクライアント機からインターネット接続が必要です。
接続先: <https://api.ekispert.jp/>

クライアントの設定



詳細については、『クライアントインストールガイド』を参照

システム共通設定



詳細については、『システム設定ガイド I (システム設定編)』を参照



アップデートについては、当該バージョンが前提としているバージョンまでアップデートしておく必要があります。

2.2 インストールの準備

NX シリーズをインストールする前に、システム要件、ネットワーク構成を確認します。

確認事項	確認内容
システム要件の確認	『システム要件』を参照し、インストール用のマシンを準備する必要があります。
ネットワーク構成の確認	クライアント、アプリケーションサーバー、およびデータベースサーバーがネットワークに接続され、TCP/IP による通信ができることを確認してください。

2.2.1 データベースサーバー

データベースサーバーにインストールされているソフトウェアへの NX シリーズの稼働に必要な追加設定について解説します。

Windows OS

1. 機能を追加

.NET Framework 4.6 Features

◇ .NET Framework 4.6

・.NET Framework 4.5 がインストールされていても、4.6 以上がインストールされていても
Microsoft Windows Server 2012 / 2012 R2 での機能表記は「4.5」となります。
レジストリを確認して実際にインストールされているバージョンが 4.6 以上であることを確認してください。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\NET Framework Setup\NDP\v4\Full → Version



Microsoft SQL Server 2012 / 2014 / 2017 (DBMS が SQL Server の場合)

1. インスタンスの作成

NX シリーズ用のインスタンスを作成します。



インスタンス作成手順は、製品に付属の『マニュアル』を参照



インスタンス作成オプション

[サーバーの構成]

- 照合順序情報 (GUI インストーラーのサーバーの構成→照合順序タブ)
Japanese_CI_AS_KS_WS (大文字小文字を区別しない、アクセントを区別する、カナを区別する、文字幅を区別する)
- 認証モード (GUI インストーラーのデータベースエンジンの構成→アカウントの準備タブ)
混合モード (Windows 認証と SQL Server 認証)

2. SQL Server Agent のサービス設定

スタートアップの種類: 自動

Microsoft SQL Server 2012 / 2014 (DBMS が SQL Server の場合)

1. Visual Studio 2013 Visual C++ 再頒布可能パッケージのインストール

SQL Server 2012 / 2014 で NX のデータベースコンポーネントのインストーラーを動作させるには
Microsoft Visual Studio 2013 の Visual C++ 再頒布可能パッケージをダウンロードしてインストールします。

Oracle Database 11.2.0.4 / 12.1.0.2 / 12.2.0.1 / 18.3 (DBMS が Oracle の場合)

1. インスタンスの作成

NX シリーズ用のインスタンスを作成します。



インスタンス作成手順は、製品に付属の『マニュアル』を参照



構成オプション

[キャラクタ・セット]

Unicode(AL32UTF8)を使用

インストール後のキャラクタ・セット確認例

```
SELECT parameter, value FROM nls_database_parameters WHERE parameter = 'NLS_CHARACTERSET'
```

※system ユーザー等のパスワードに記号(=, @等)を使用すると、バックアップツールでエラーとなります。

2. GAC への登録

以下条件に当てはまるとき、ODP.NET 接続を手動で有効にする必要があります。

- ・ Oracle12.2.0.1 / 18.3 を利用する場合
- ・ バージョンに関わらず Oracle インストール後に .Net Framework4.6 を追加した場合

(前準備)

- ① コマンドプロンプトを管理者として実行します
- ② ORACLE_HOME 環境変数を設定します
例) set ORACLE_HOME=C:\app\Administrator\product\12.2.0\dbhome_1
- ③ カレントディレクトリを[%ORACLE_HOME%\odp.net\bin\4]に移動します
例) cd /d %ORACLE_HOME%\odp.net\bin\4

(1) GAC へのアセンブリ登録

```
OraProvCfg.exe /action:gac /providerpath:%ORACLE_HOME%\odp.net\PublisherPolicy\4\Policy.4.112.Oracle.DataAccess.dll
OraProvCfg.exe /action:gac /providerpath:%ORACLE_HOME%\odp.net\PublisherPolicy\4\Policy.4.121.Oracle.DataAccess.dll
OraProvCfg.exe /action:gac /providerpath:%ORACLE_HOME%\odp.net\PublisherPolicy\4\Policy.4.122.Oracle.DataAccess.dll
OraProvCfg.exe /action:gac /providerpath:%ORACLE_HOME%\odp.net\bin\4\Oracle.DataAccess.dll
```

(2) machine.config への ODP.NET の登録

```
OraProvCfg.exe /action:config /product:odp /frameworkversion:v4.0.30319 /providerpath:%ORACLE_HOME%\odp.net\bin\4\Oracle.DataAccess.dll
```

.NET Framework 3.5 から 4.x への変更に伴い、GAC 登録先が変更されています。

.NET Framework 4.x での GAC 登録先は以下となります。



注意

```
%windir%\Microsoft.NET\assembly\GAC_64\Oracle.DataAccess
%windir%\Microsoft.NET\assembly\GAC_64\Policy.4.112.Oracle.DataAccess
%windir%\Microsoft.NET\assembly\GAC_64\Policy.4.121.Oracle.DataAccess
%windir%\Microsoft.NET\assembly\GAC_64\Policy.4.122.Oracle.DataAccess
```

2.2.2 アプリケーションサーバー

アプリケーションサーバーにインストールされているソフトウェアへの NX シリーズの稼働に必要な追加設定について解説します。

Microsoft Windows Server 2012 / 2012 R2 / 2016

1. サーバーの役割と機能を追加

サーバーマネージャーを起動して以下の項目をチェックして追加します。

サーバーの役割			
Web サーバー (IIS)	Web サーバー	HTTP 共通機能	HTTP エラー
			ディレクトリの参照
			既定のドキュメント
			静的なコンテンツ
	アプリケーション開発		.NET 拡張機能 4.6
			ASP.NET 4.6
			ISAPI フィルター
			ISAPI 拡張
	管理ツール	IIS 管理コンソール (IIS マネージャー利用のため)	

機能	
.NET Framework 4.6 Features	.NET Framework 4.6
	ASP.NET 4.6
	WCF サービス HTTP アクティブ化
Windows プロセス アクティブ化サービス	プロセスモデル
	構成 API

.NET Framework 4.5 がインストールされていても、4.6 以上がインストールされていても
Microsoft Windows Server 2012 / 2012 R2 での機能表記は「4.5」となります。
レジストリを確認して実際にインストールされているバージョンが 4.6 以上であることを確認してください。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\NET Framework Setup\NDP\v4\Full → Version



2. サイトの作成 (SaaS 版の場合)

- (1) IIS マネージャーを起動します。
- (2) IIS マネージャーの左ペインのツリービューより [サイト] を選択してマウスの右ボタンをクリックします。
- (3) 表示されたコンテキストメニューより [Web サイトの追加] を選択します。
- (4) [Web サイトの追加] ダイアログボックスが表示されるので各項目(※1)を次のように設定します。

項目		設定値
サイト名		利用するドメイン名
バインド	種類	https
	ポート	443 (既定)

※1 記述している項目は SaaS 版のアプリケーションコンポーネントをインストールするために必須となる項目のみを記述しています。それ以外の項目については MSDN を参照の上で設定を行ってください。

- IIS の [接続のタイムアウト] を『65535』に変更
IIS マネージャーを起動し対象のサイト(※2)の詳細設定ダイアログ→接続制限
※2 イン트라ネット版の場合は、Default Web Site
SaaS 版の場合は、1 で作成したサイト
- フォントの追加
タイ税務申告 WHT 支払証明書の帳票印刷をする場合は、「AngsanaUPC」フォントがインストールされていることを確認してください。未インストールの場合は、「AngsanaUPC」フォントを追加してください。



注意

IIS マネージャーを起動し、アプリケーションプール設定値 [32 ビットアプリケーションの有効化] が『False』であることを確認してください。

Microsoft .NET Framework 4.x(4.6 以上)

- トランザクションタイムアウト値の変更
machine.config の<system.web>タグの上(<system.web>タグと同じレベルの位置)に[system.transactions]を追加
<system.transactions>の例

```
<system.transactions>
  <machineSettings maxTimeout="23:00:00"/>
</system.transactions>

<system.web>
...
```

トランザクションタイムアウト値は“時:分:秒”で設定する。上記例(“23:00:00”)では、設定値は 23 時間。



注意

machine.config はサーバー全体の構成設定ファイルです。変更を行う前にはバックアップを作成することを推奨します。Oracle Client のバージョンによって、トランザクションタイムアウトが発生した場合に自動コミットになる仕様の為、23 時間以上の時間を設定してください。

machine.config の格納場所

%windir%\¥Microsoft.NET¥Framework64¥V4.x.xxxx¥CONFIG

↑

「x.xxxx」はご利用のバージョンが入ります。

imageWARE Form Manager (64 ビット版)

- imageWARE Form Manager (64 ビット版)のインストール
SuperStream-NX には帳票出力エンジンとして imageWARE Form Manager が同梱されています。
NX シリーズで帳票を出力するには imageWARE Form Manager の「ワークグループ」をインストールする必要があります。



imageWARE Form Manager のインストールについては、imageWARE Form Manager インストールメディア内のマニュアルフォルダにある『セットアップガイド』参照

セットアップガイドの格納先とファイル名
¥OTHERS¥MANUAL¥E_MANUAL



注意

・imageWARE Form Manager をバージョンアップする場合、上書きインストールは行えません。旧バージョンをアンインストールした後に、新バージョンをインストールしてください。
・NX シリーズで帳票を出力するために JRE (java) は必要ありません。JRE のパス指定画面はスキップしてください。

Oracle Client (DBMS が Oracle の場合)

1. Oracle Client のインストール

Oracle Database に接続するためのアプリケーションをインストールします。



インストール手順は、製品に付属の『マニュアル』を参照



Oracle Client のバージョン

Oracle Client のバージョンは Oracle Database と合わせてください。

コンポーネント

NX シリーズを実行するのに、最低限下記2つのコンポーネントが必要です。

- ※ Oracle Net
- ※ Oracle Database11.2.0.4 を使用する場合: Oracle Data Provider for .NET 11.2.0.4.0
- ※ Oracle Database12.1.0.2 を使用する場合: Oracle Data Provider for .NET 11.2.0.4.0 と 12.1.0.2.0
- ※ Oracle Database12.2.0.1 を使用する場合: Oracle Data Provider for .NET 11.2.0.4.0 と 12.2.0.1.0
- ※ Oracle Database18.3 を使用する場合: Oracle Data Provider for .NET 11.2.0.4.0 と 12.2.0.2.0



注意

- ・Oracle Database がインストールされている場合は、Oracle Client を別途インストールする必要はありません。
- ・Oracle Client のインストール前に機能の追加から.NET Framework 4.x(4.6 以上)を有効化する必要があります。
- ・Oracle Client のインストールは管理者として実行する必要があります。

2. GAC への登録

以下条件に当てはまるとき、ODP.NET 接続を手動で有効にする必要があります。

- ・ OracleClient 12.2.0.1 / 18.3 を利用する場合
- ・ バージョンに関わらず OracleClient インストール後に.Net Framework4.6 を追加した場合

(前準備)

- ① コマンドプロンプトを管理者として実行します
- ② ORACLE_HOME 環境変数を設定します
例) set ORACLE_HOME=C:\app\Administrator\product\12.2.0\client_1
- ③ カレントディレクトリを[%ORACLE_HOME%\odp.net\bin\4]に移動します
例) cd /d %ORACLE_HOME%\odp.net\bin\4

(1) GAC へのアセンブリ登録

```
OraProvCfg.exe /action:gac /providerpath:%ORACLE_HOME%\odp.net\PublisherPolicy\4\Policy.4.112.Oracle.DataAccess.dll
OraProvCfg.exe /action:gac /providerpath:%ORACLE_HOME%\odp.net\PublisherPolicy\4\Policy.4.121.Oracle.DataAccess.dll
OraProvCfg.exe /action:gac /providerpath:%ORACLE_HOME%\odp.net\PublisherPolicy\4\Policy.4.122.Oracle.DataAccess.dll
OraProvCfg.exe /action:gac /providerpath:%ORACLE_HOME%\odp.net\bin\4\Oracle.DataAccess.dll
```

(2) machine.config への ODP.NET の登録

```
OraProvCfg.exe /action:config /product:odp /frameworkversion:v4.0.30319 /providerpath:%ORACLE_HOME%\odp.net\bin\4\Oracle.DataAccess.dll
```

.NET Framework 3.5 から 4.x への変更に伴い、GAC 登録先が変更されています。
.NET Framework 4.x での GAC 登録先は以下となります。



注意

```
%windir%\Microsoft.NET\assembly\GAC_64\Oracle.DataAccess
%windir%\Microsoft.NET\assembly\GAC_64\Policy.4.112.Oracle.DataAccess
%windir%\Microsoft.NET\assembly\GAC_64\Policy.4.121.Oracle.DataAccess
%windir%\Microsoft.NET\assembly\GAC_64\Policy.4.122.Oracle.DataAccess
```

2.2.3 クライアント

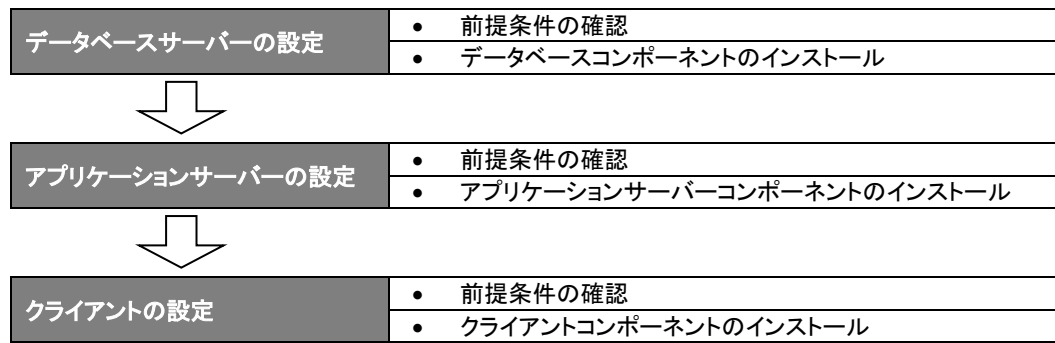
クライアントのインストール方法



クライアントのインストール方法については、『クライアントインストールガイド』を参照

2.3 インストール作業

インストールプロセスは、次の順序で作業を行います。



2.3.1 データベースサーバーの設定

NX シリーズのデータを格納するためのデータベースサーバーの設定手順について説明します。



データベースサーバーを 2018-06-01 版から 2019-10-01 版にバージョンアップする場合は、事前に『2.2.1 データベースサーバー』を確認して必要な機能をインストールしてください。

前提条件の確認

- 前提となるソフトウェアのインストールと設定
 -  『1.1 システム要件』を参照
- SuperStream-NX をインストールする**インスタンスが作成**されている
- データベースサーバーの**ネットワーク接続が有効**である
- DBMS が SQL Server の場合、SQL Browser が**有効**である

2.3.1.1 データベースインストールガイド

SuperStream-NX データベースインストーラーを使用して、NX のデータベースコンポーネントをインストールします。

- ・1 つのインスタンスに複数のデータベースを作成することはできません。シングルインスタンス、シングルデータベースを基本構成とします。
- ・インストールするデータベースによって異なる画面があります。該当するデータベースの画面の説明を参照してください。
- ・アップデートは統合会計、固定資産管理のそれぞれで実行する必要があります。
- ・入力内容に対する確認を促すボタン(【設定テスト】ボタンなど)が存在する画面では、確認結果が OK にならないと、【次へ】ボタンが有効になりません。
- ・SuperStream-NX データベースインストーラーは管理者として実行する必要があります。
- ・アップデート、個別アップデートを行う際は、SuperStream-NX を使用していない状態でインストーラーを実行してください。
- ・『2.3.1.2 NX 統合会計のデータベース初期インストール』の手順 11 で表示される[作成済みの表領域(またはファイルグループ)]を使用する]チェックボックスを選択する場合は、事前に SuperStream-NX で使用する各種表領域(またはファイルグループ)を作成しておく必要があります。
- ・Oracle Database のインストール前に機能の追加から.NET Framework 4.x(4.6 以上)を有効化する必要があります。
- ・Amazon RDS(Oracle)上にインストールする場合は、下記名称の表領域を作成する必要があります。



注意

SSNX_DATA, SSNX_APPLOG, SSNX_TABLEACCESSLOG, SSNX_INDEX, SSNX_AUTHLOG

下にサンプルスクリプトを記します。

```
/* メインデータ格納用(AmazonRDS 用)*/
CREATE SMALLFILE TABLESPACE "SSNX_DATA";

/* AppLog 格納用(AmazonRDS 用)*/
CREATE SMALLFILE TABLESPACE "SSNX_APPLOG";

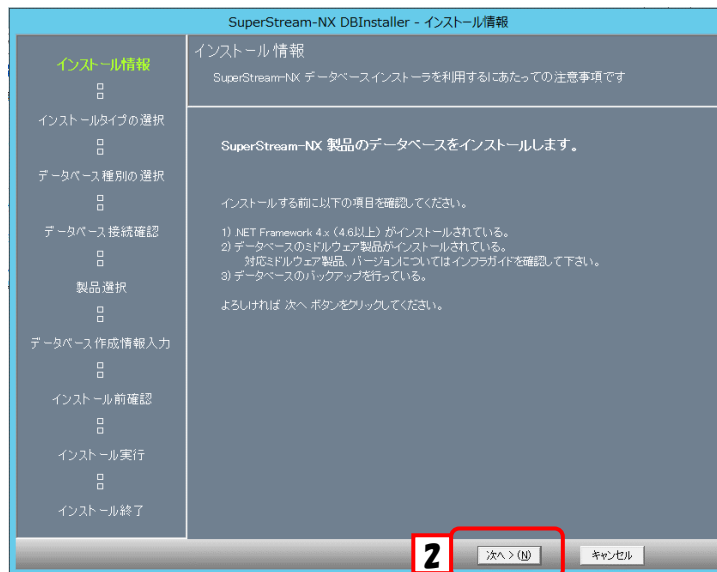
CREATE SMALLFILE TABLESPACE "SSNX_TABLEACCESSLOG";

CREATE SMALLFILE TABLESPACE "SSNX_INDEX";

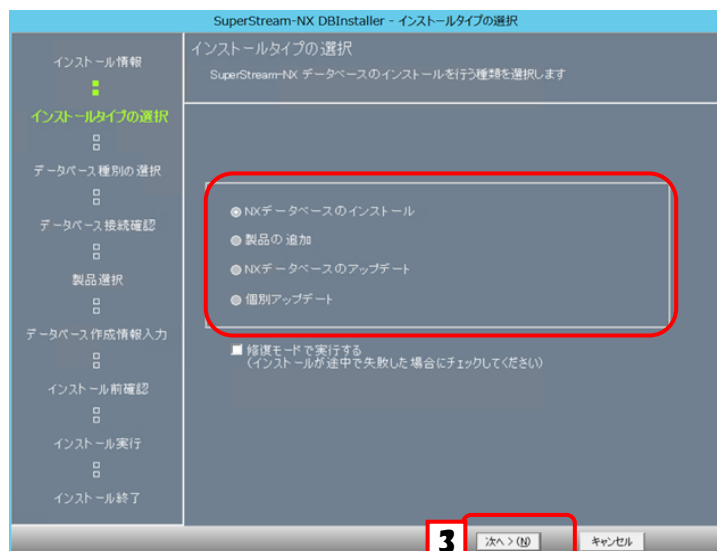
CREATE SMALLFILE TABLESPACE "SSNX_AUTHLOG";
```

- NX 統合会計を初期インストールする場合
 - 『2.3.1.2 NX 統合会計データベース初期のインストール』を参照
 - 『2.3.1.8 インストール後の設定・確認』を参照
- NX 固定資産管理を初期インストールする場合
- NX 人事・給与管理用の NX 共通データベースがインストール済の環境に NX 統合会計を追加インストールする場合
 - 『2.3.1.3 データベースの製品追加(NX 統合会計・NX 固定資産管理)』を参照
- NX 統合会計のバージョンアップを行う場合
- NX 固定資産管理のバージョンアップを行う場合
 - 『2.3.1.4 データベースのアップデート(NX 統合会計・NX 固定資産管理)』を参照
- NX 建設仮勘定オプションの初期インストール、またはバージョンアップを行う場合
- NX 証憑管理オプションの初期インストール、またはバージョンアップを行う場合
- NX 証憑管理 e 文書対応オプションのインストール、またはバージョンアップを行う場合
- NX 大量帳票オプションの初期インストール、またはバージョンアップを行う場合
- NX スーパーインターフェースの初期インストール、またはバージョンアップを行う場合
- NX 駅すばあとオプションの初期インストール、またはバージョンアップを行う場合
- NX 従業員モバイルオプションの初期インストール、またはバージョンアップを行う場合
 - 『2.3.1.5 NX オプション製品のインストール』を参照
- NX 共通にパッチ適用する場合
- NX 統合会計にパッチ適用する場合
- NX 固定資産管理にパッチ適用する場合
- NX オプション製品にパッチ適用する場合
 - 『2.3.1.6 データベースの個別アップデート(NX 共通・NX 統合会計・NX 固定資産管理・NX オプション)』を参照
- インストールを中断する場合
- インストールでエラーが発生した場合
 - 『2.3.1.7 インストールの中断、インストールエラー(共通)』を参照

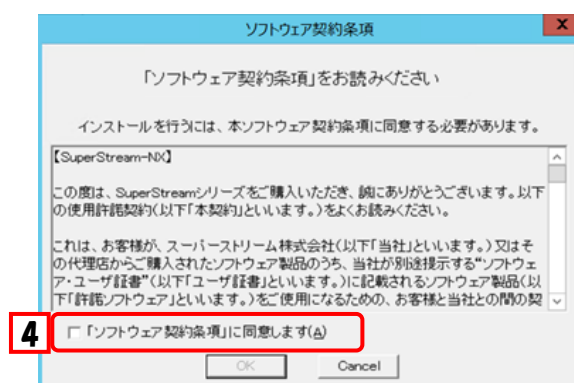
2.3.1.2 NX 統合会計データベース初期のインストール



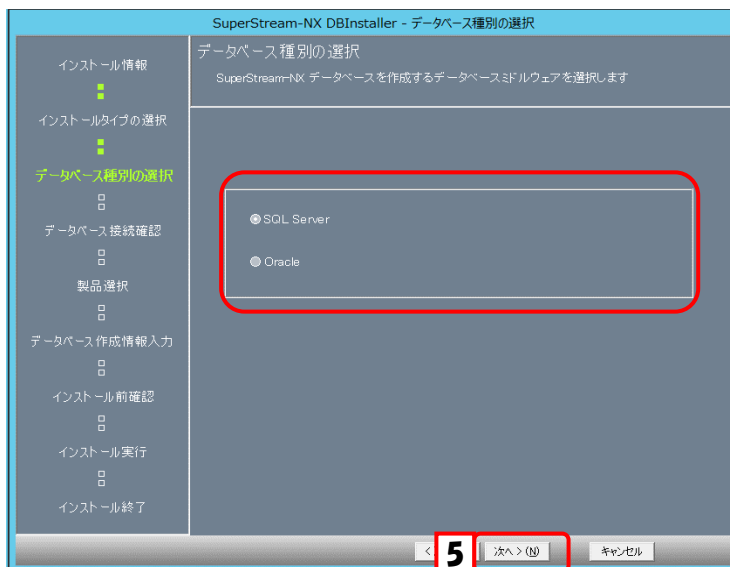
1. インストールCDのSetupフォルダ内のDBフォルダをDBサーバー（ローカル）にコピーし、DBフォルダ内の[DBSetup.exe]を管理者として実行
⇒SuperStream-NXデータベースインストーラーが起動する
2. インストール情報を確認後、【次へ】ボタンをクリック



3. インストールタイプ[NXデータベースのインストール]を選択後、【次へ】ボタンをクリック

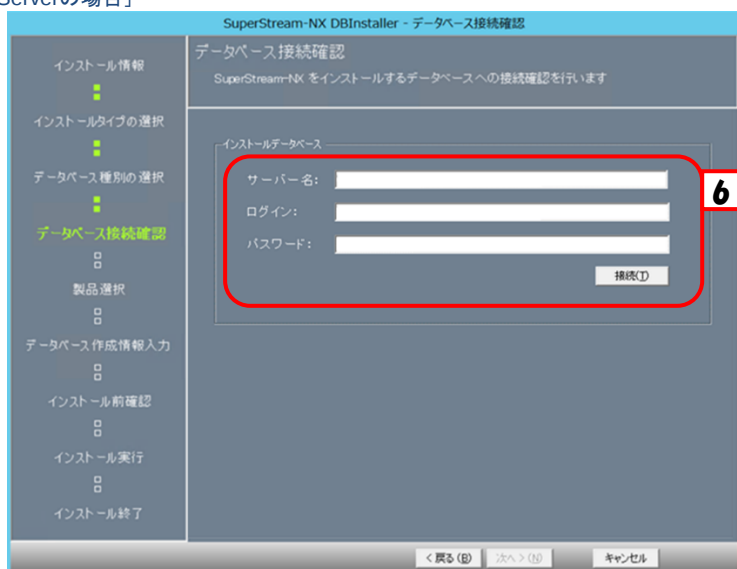


4. [「ソフトウェア契約条項」に同意します]をチェック後、【OK】ボタンをクリック



5. データベース種別の選択後、
【次へ】ボタンをクリック

[SQL Serverの場合]



6. データベースインスタンスへの接続情報を入力後、【接続】ボタンをクリック
⇒接続が成功するとメッセージが表示される

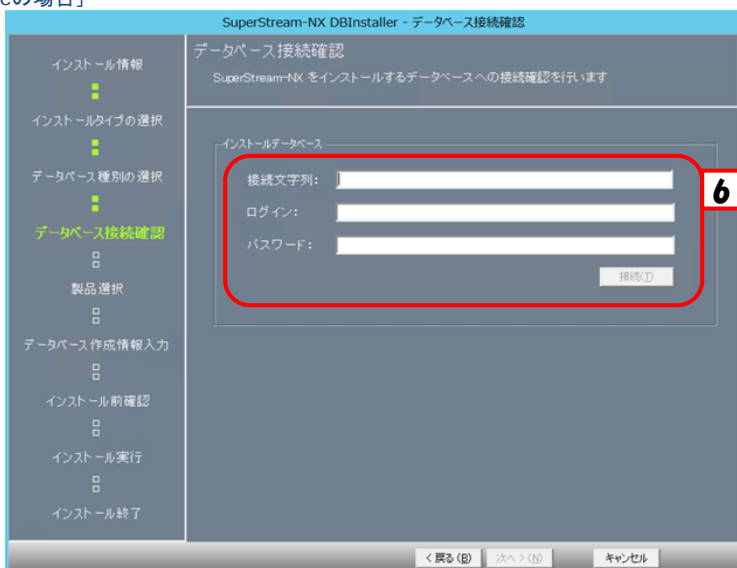


注意

手順5で[SQL Server]を選択した場合は、SQL Server のシステム管理者アカウントでログインしてください。

サーバー名は登録しているサーバー名を直接入力してください。

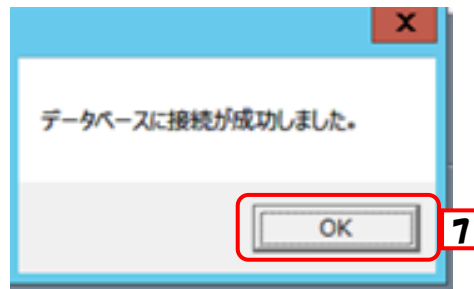
[Oracleの場合]



注意

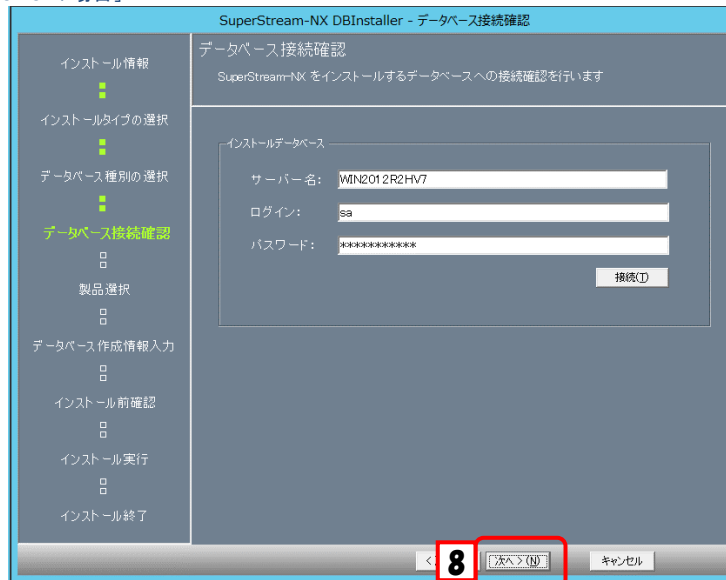
手順5で[Oracle]を選択した場合は、Oracle のシステム管理者アカウントでログインしてください。

接続文字列は、Net Managerなどで設定する「サービス・ネーミング」に登録されているものを入力します。



7. 【OK】ボタンをクリック

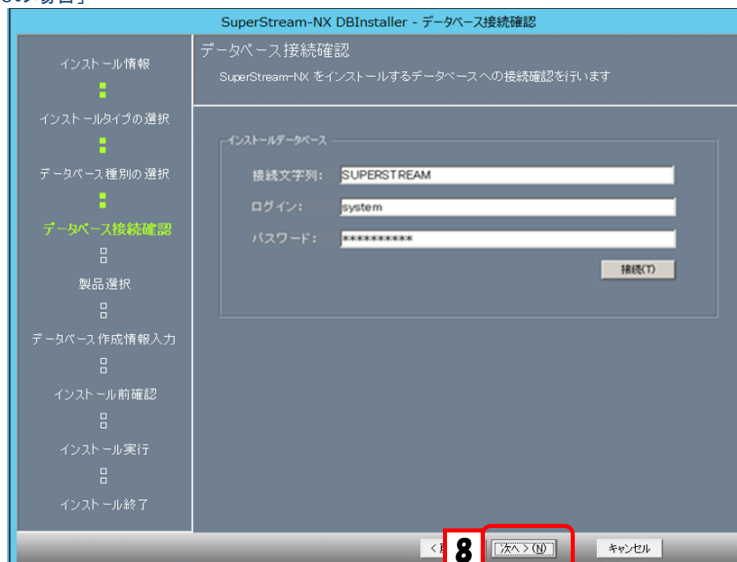
【SQL Serverの場合】



8. 【次へ】ボタンをクリック

- SQL Serverの場合
(手順5で【SQL Server】を選択した場合)

【Oracleの場合】



- Oracleの場合
(手順5で【Oracle】を選択した場合)

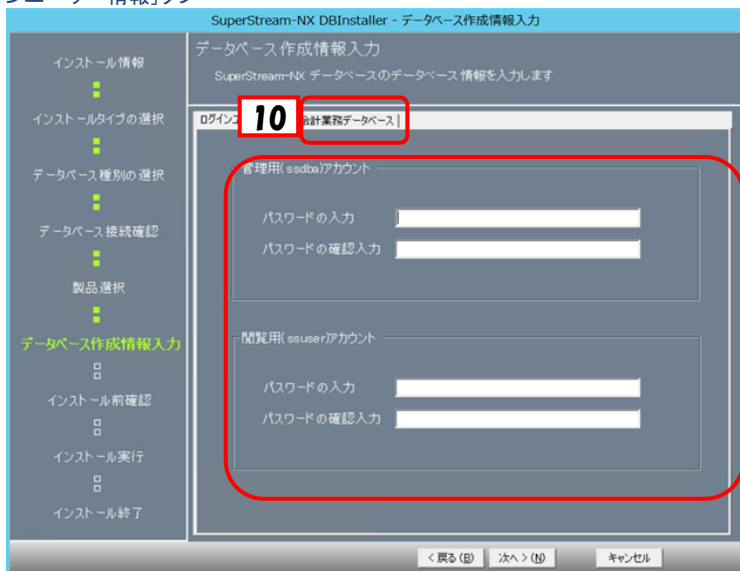


9. インストールする製品を確認後、
【次へ】ボタンをクリック



NX共通製品も同時にインストールされます。

[ログインユーザー情報]タブ



10. [ログインユーザー情報]を入力後、
【会計業務データベース】タブをクリック



注意

SQL Server の場合（手順5で[SQL Server]を選択した場合）、インストール時に強力なパスワード設定を行った際は、その要件を満たすパスワードを設定してください。

パスワードポリシーの要件を満たしていない場合、処理がエラーになります。



『インストール中にパスワードエラーが発生した場合』を参照

[会計業務データベース]タブ
[SQL Serverの場合]

SuperStream-NX DBInstaller - データベース作成情報入力

データベース作成情報入力

SuperStream-NX データベースのデータベース 情報を入力します

ログインユーザー情報 会計業務データベース

☐ 作成済みのファイルグループを使用する
(このデータベース等でファイルグループを作成済みの場合のみチェックしてください)

システムファイル	ディレクトリ	C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL1
	サイズ	10 MB
データファイル	ディレクトリ	C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL1
	サイズ	250 MB
業務ログファイル	ディレクトリ	C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL1
	サイズ	50 MB
テーブルアクセスログファイル	ディレクトリ	C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL1
	サイズ	10 MB
その他監査ログファイル	ディレクトリ	C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL1
	サイズ	100 MB
SQL Server トランザクションログファイル	ディレクトリ	C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL1
	サイズ	400 MB

11 次へ (H) キャンセル

11. [会計業務データベース]の情報を
を入力後、【次へ】ボタンをクリック

- SQL Serverの場合
(手順5で[SQL Server]を
選択した場合)



作成済みのファイルグループを使用する場合は、[作成済みのファイルグループを使用する]にチェックを入れてください。このオプションは、下記「Oracleの場合」の表領域と同じ名称でファイルグループが作成されていることが前提となります。



注意
SQL Server, Oracle共にサイズのデフォルト値は、インストールに必要なサイズです。業務要求に応じて必要なサイズに必ず変更してください。

ディレクトリは半角英数字を使用してください。

- Oracleの場合
(手順5で[Oracle]を
選択した場合)



作成済みの表領域を使用する場合は [作成済みの表領域を使用する]にチェックを入れてください。

このオプションは、下記の名称で表領域が作成されていることが前提となります。

- ・SSNX_DATA(業務データ)
- ・SSNX_APPLOG(業務ログ)
- ・SSNX_TABLEACCESSLOG
(テーブルアクセスログ)
- ・SSNX_AUTHLOG(その他監査ログ)
- ・SSNX_INDEX(インデックス)

ユーザー作成までを実行してインストーラーを終了する場合は、[スキーマ作成のみで終了する]にチェックを入れてください。

Linuxをデータベースサーバーとする場合は [Linux]を選択してください。



注意
[スキーマ作成のみで終了する]をチェックした場合は、本インストーラー実行後にOracleインポート機能等によりオブジェクトを作成してください。

[Linux]を選択した場合は、ディレクトリ参照ボタンは使用できません。データベースサーバーに存在するディレクトリをスラッシュ区切りで入力してください。
例) /home/oracle/database/dbf/orcl

クラウドデータベース上に表領域を作成する際のパラメータについてはサービス提供元にご確認ください。

ディレクトリは半角英数字を使用してください。

[会計業務データベース]タブ
[Oracleの場合]

SuperStream-NX DBInstaller - データベース作成情報入力

データベース作成情報入力

SuperStream-NX データベースのデータベース 情報を入力します

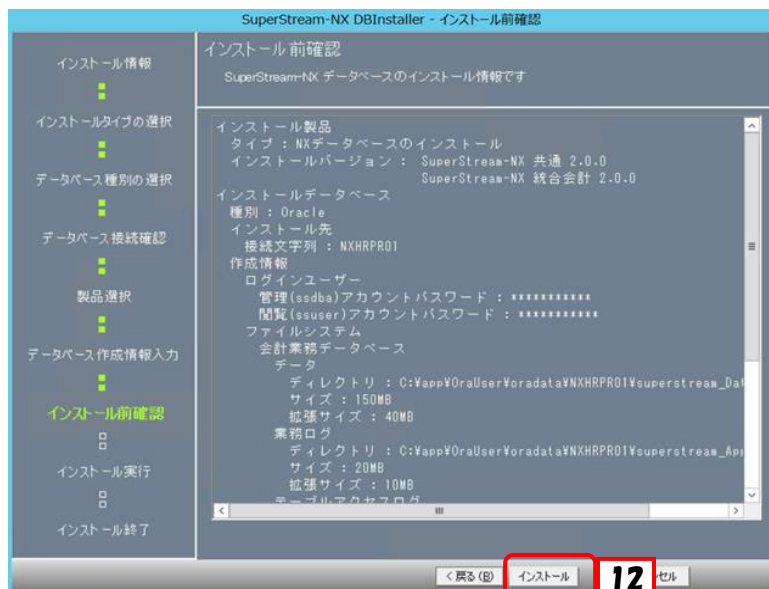
ログインユーザー情報 会計業務データベース

☐ 作成済みの表領域を使用する ☐ スキーマ作成のみで終了する
(このデータベース等で表領域を作成済みの場合のみチェックしてください)

Server OS ☒ Windows 系 ☐ Linux

データ	ディレクトリ	C:\App\OraUser\OraData\NXHRPR01
	サイズ	150 MB
	拡張サイズ	40 MB
業務ログ	ディレクトリ	C:\App\OraUser\OraData\NXHRPR01
	サイズ	20 MB
	拡張サイズ	10 MB
テーブルアクセスログ	ディレクトリ	C:\App\OraUser\OraData\NXHRPR01
	サイズ	100 MB
	拡張サイズ	10 MB
その他監査ログ	ディレクトリ	C:\App\OraUser\OraData\NXHRPR01
	サイズ	100 MB
	拡張サイズ	10 MB

11 次へ (H) キャンセル



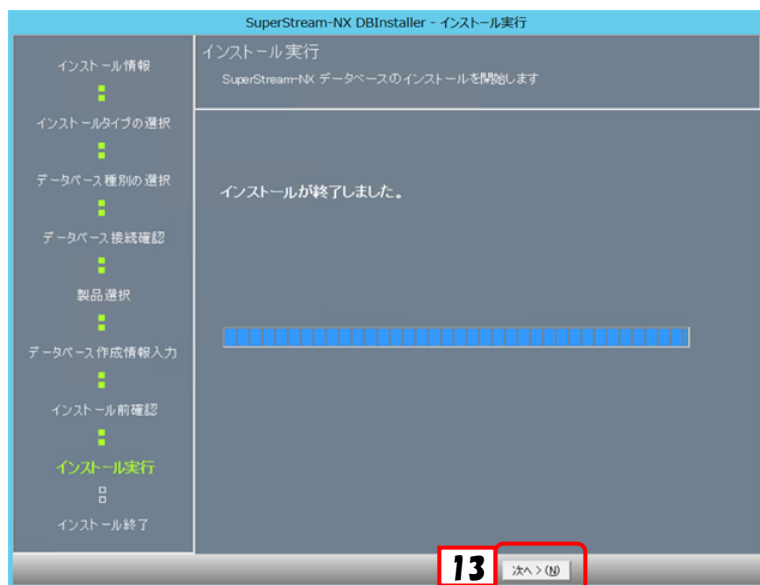
12. インストール内容を確認後、
【インストール】ボタンをクリック
⇒インストールが開始される



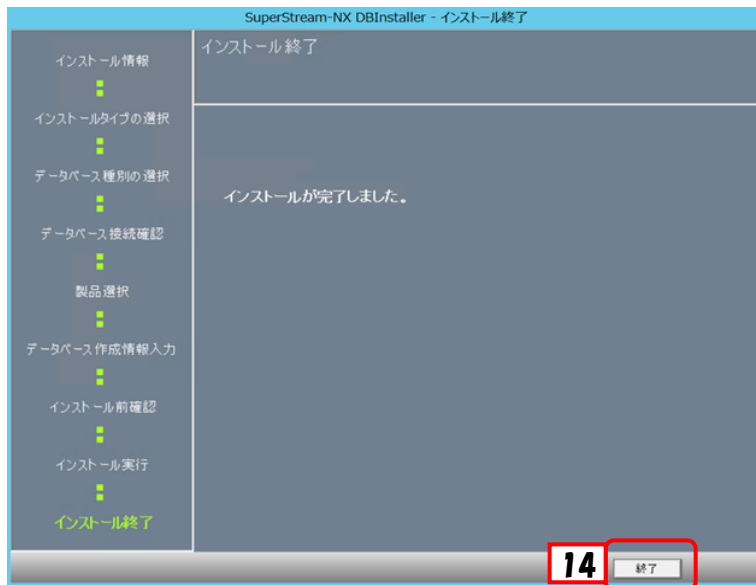
『2.3.1.7 インストールの中断、
インストールエラー（共通）』を参照



データベースコンポーネントの
インストールには多少時間がかかります。

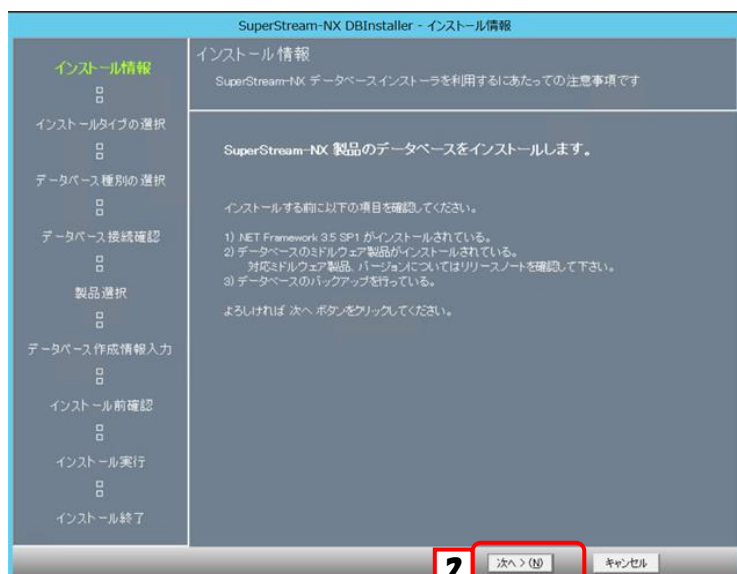


13. インストール終了後、【次へ】
ボタンをクリック



14. 【終了】ボタンをクリック

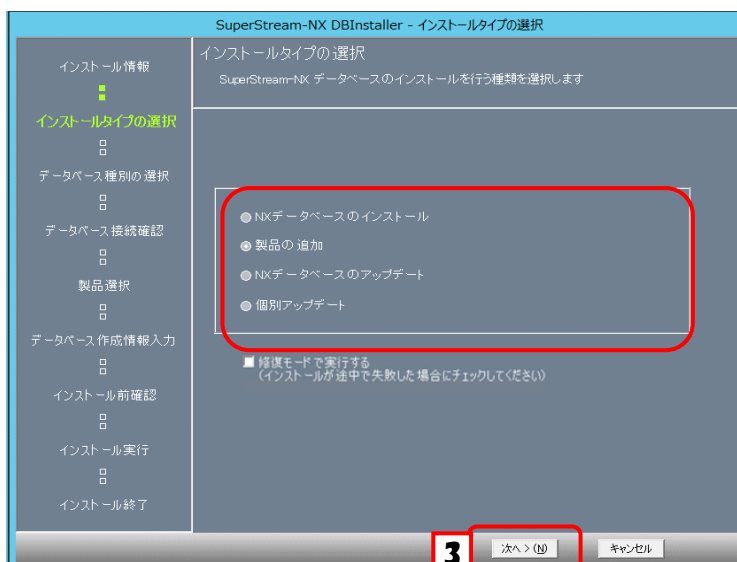
2.3.1.3 データベースの製品追加（NX 統合会計・NX 固定資産管理）



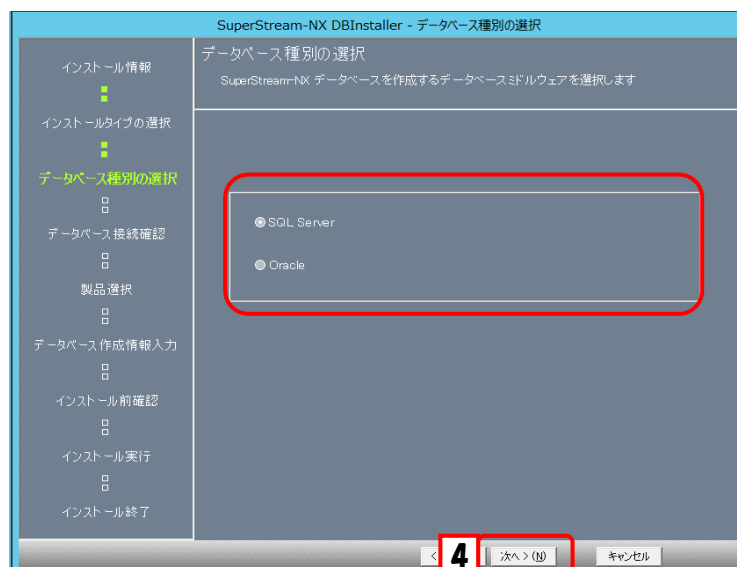
注意

実行する前にデータベースのバックアップを行ってください。

1. インストールCDのSetupフォルダ内のDBフォルダをDBサーバー（ローカル）にコピーし、DBフォルダ内の[DBSetUp.exe]を管理者として実行
⇒SuperStream-NXデータベースインストーラーが起動する
2. インストール情報を確認後、【次へ】ボタンをクリック



3. [製品の追加]を選択後、【次へ】ボタンをクリック



4. データベース種別の選択後、【次へ】ボタンをクリック

[SQL Serverの場合]

- 5.** データベースインスタンスへの接続情報を入力後、【接続】ボタンをクリック
⇒接続が成功するとメッセージが表示される



注意

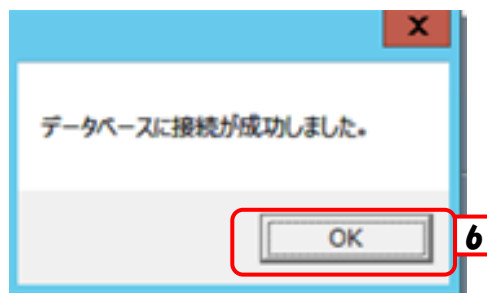
手順4で[SQL Server]を選択した場合は、SQL Server のシステム管理者アカウントでログインしてください。サーバー名は登録しているサーバー名を直接入力してください。

[Oracleの場合]



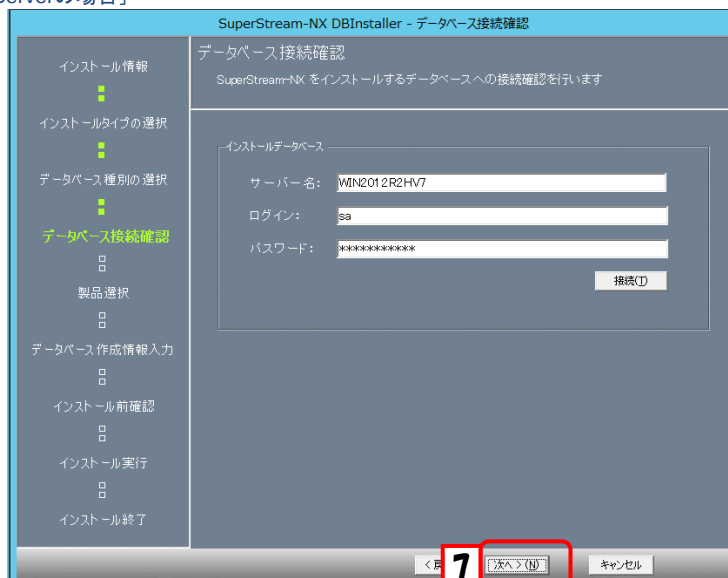
注意

手順4で[Oracle]を選択した場合は、Oracle のシステム管理者アカウントでログインしてください。接続文字列は、Net Managerなどで設定する「サービス・ネーミング」に登録されているものを入力します。



- 6.** 【OK】ボタンをクリック

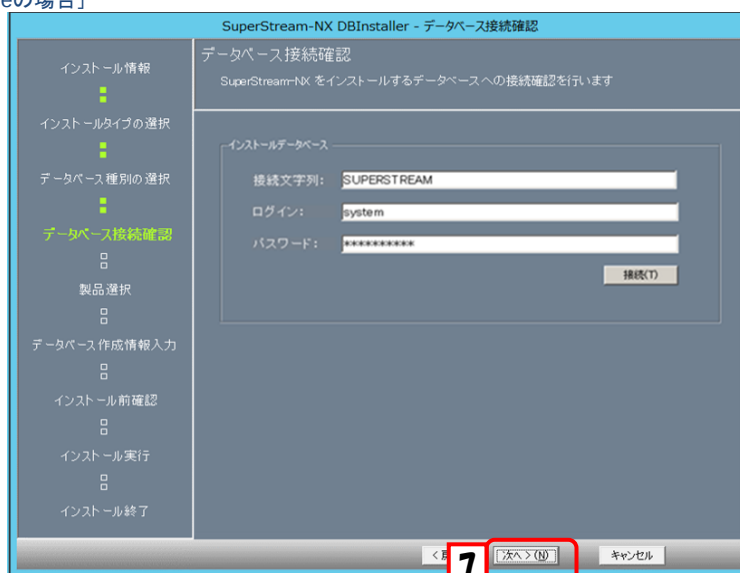
[SQL Serverの場合]



7. 【次へ】ボタンをクリック

- SQL Serverの場合
(手順4で[SQL Server]を
選択した場合)

[Oracleの場合]

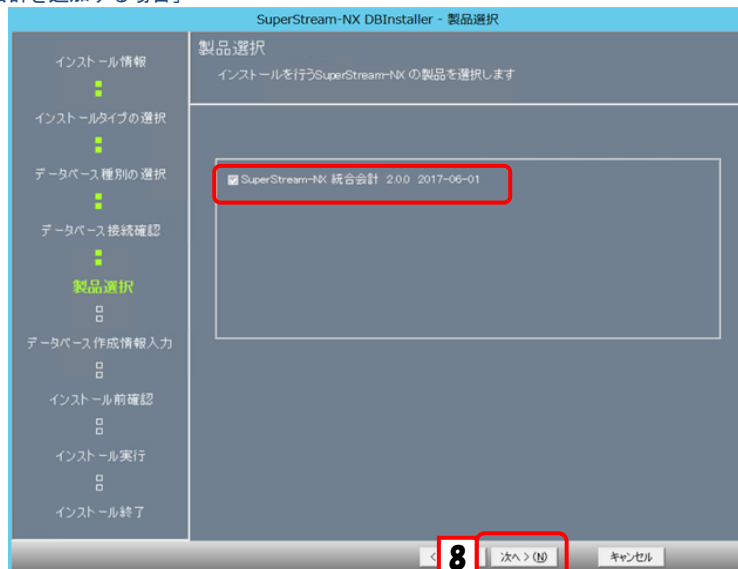


- Oracleの場合
(手順4で[Oracle]を
選択した場合)

[固定資産管理を追加する場合]

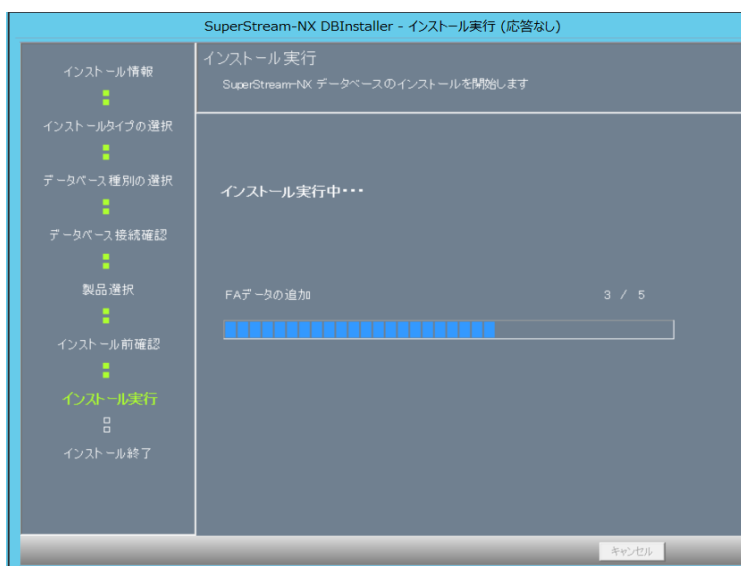
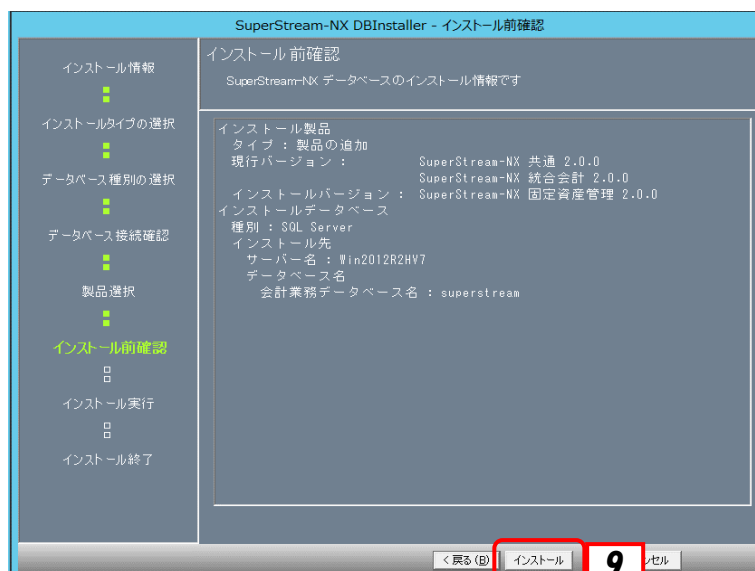
8. インストールする製品を確認後、
【次へ】ボタンをクリック

[統合会計を追加する場合]



人事・給与管理がインストール済の環境に
統合会計を追加することができます。

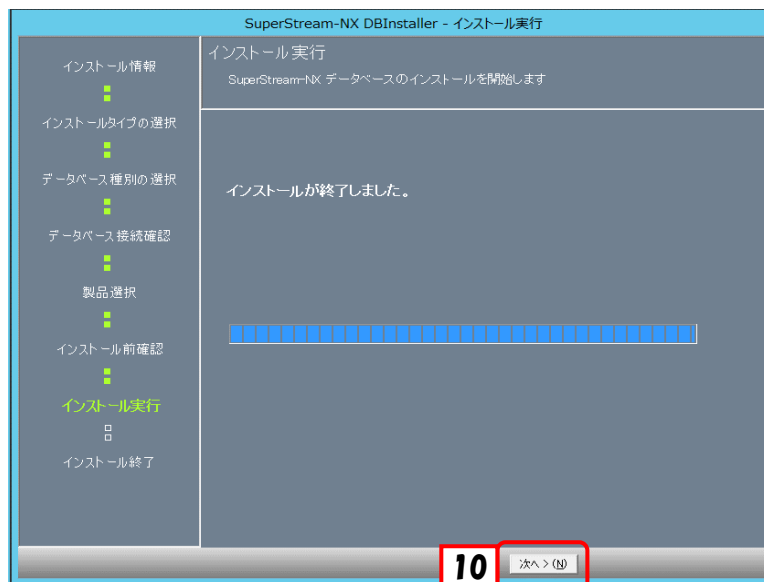
9. インストール内容を確認後、
【インストール】ボタンをクリック
⇒インストールが開始される



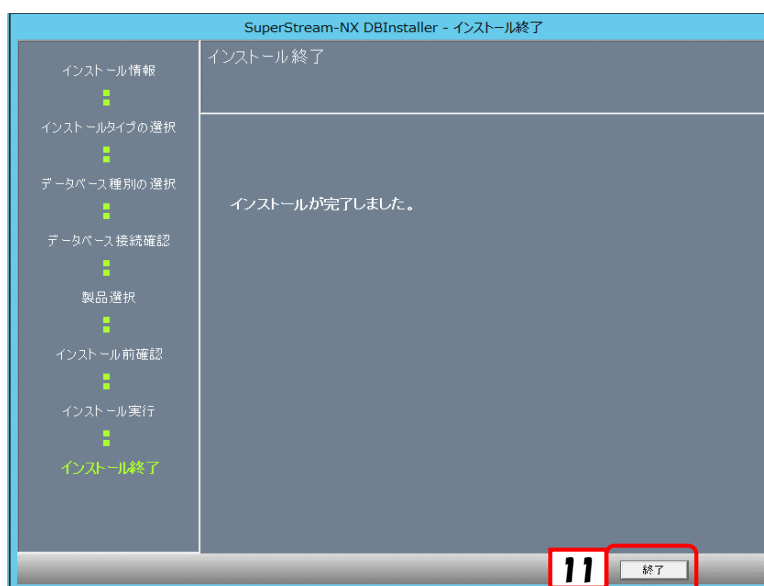
『2.3.1.7 インストールの中断、イ
ンストールエラー（共通）』を参照



データベースコンポーネントの
インストールには多少時間がかかります。

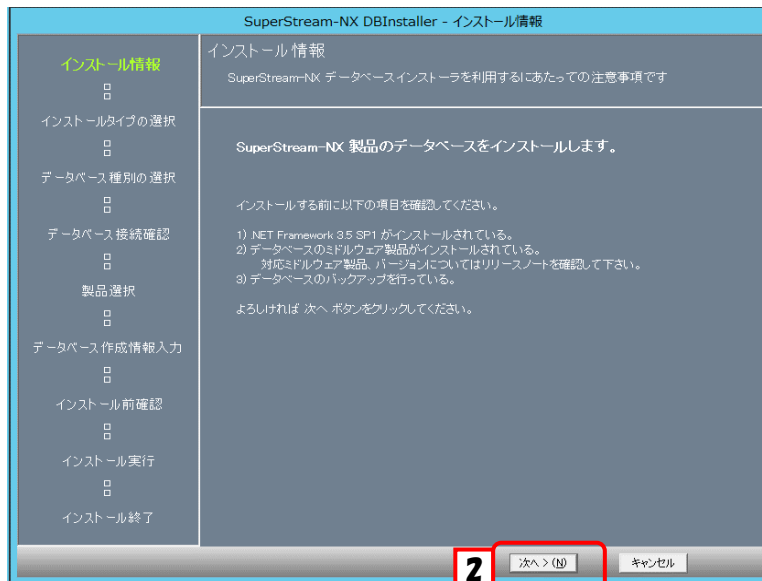


10. インストール終了後、【次へ】ボタンをクリック



11. 【終了】ボタンをクリック

2.3.1.4 データベースのアップデート（NX 統合会計・NX 固定資産管理）

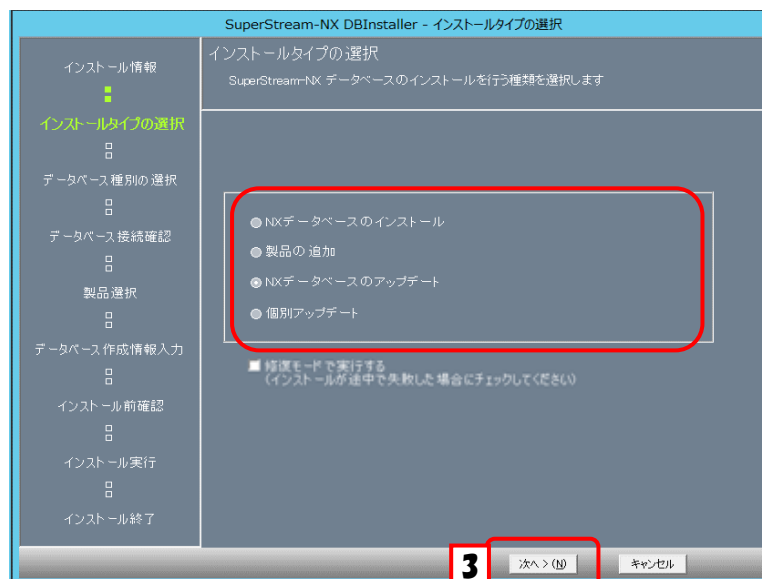


注意
実行する前にデータベースのバックアップを行ってください。

データベースサーバーを2018-06-01版から2019-10-01版にアップデートする場合は、事前に『2.2.1 データベースサーバー』を確認して必要な機能をインストールしてください。

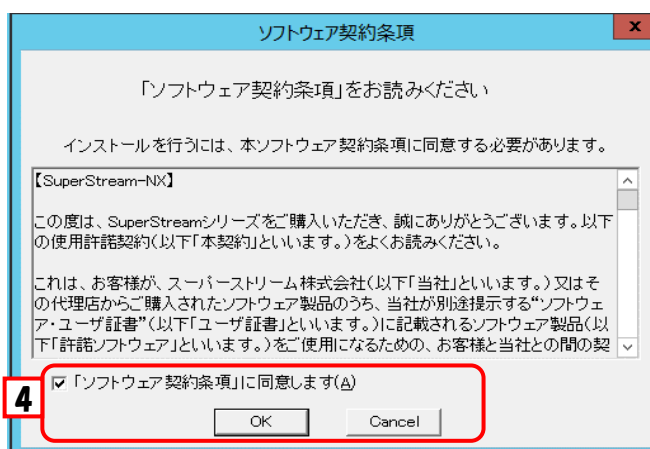
1. インストールCDのSetupフォルダ内のDBフォルダをDBサーバー（ローカル）にコピーし、DBフォルダ内の[DBSetup.exe]を管理者として実行
⇒SuperStream-NXデータベースインストーラーが起動する

2. インストール情報を確認後、【次へ】ボタンをクリック

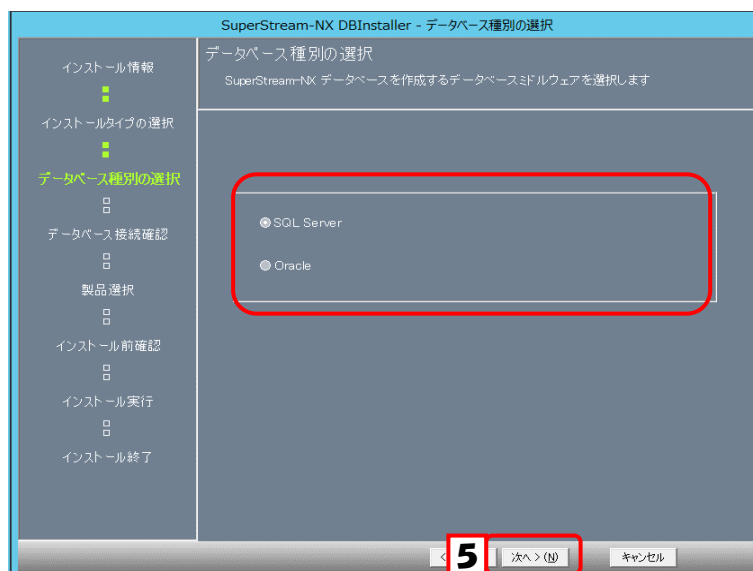


3. [NXデータベースのアップデート]を選択後、【次へ】ボタンをクリック

 修復モードで実行する場合は『インストールがエラーの状態を終了し、再実行したい場合』を参照

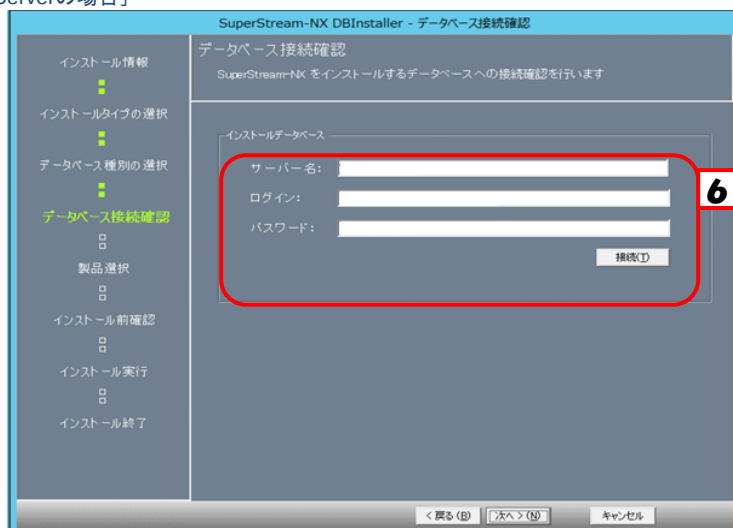


4. [「ソフトウェア契約条項」]に同意します]をチェック後、【OK】ボタンをクリック



5. データベース種別の選択後、
【次へ】ボタンをクリック

[SQL Serverの場合]

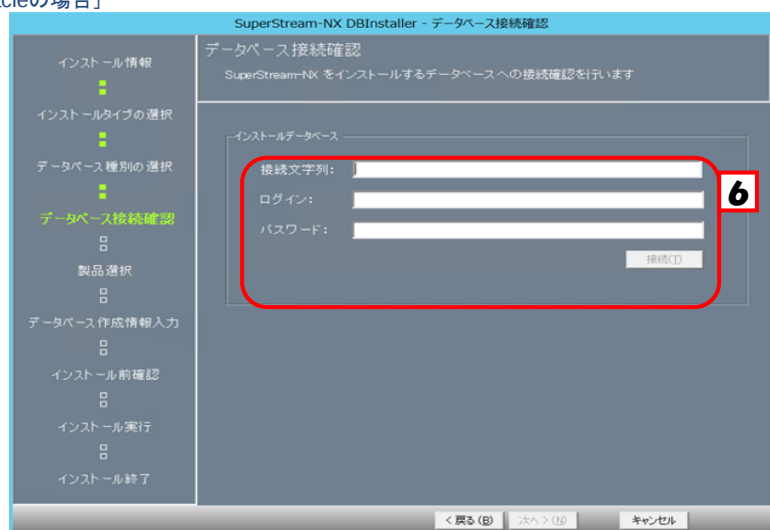


6. データベースインスタンスへの接続
情報を入力後、【接続】ボタンをクリ
ック
⇒接続が成功するとメッセージが
表示される

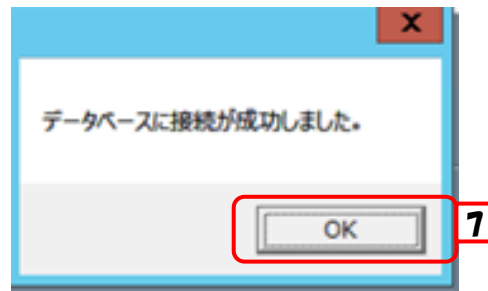


注 意
手順5で[SQL Server]を選択した場合は、
SQL Server のシステム管理者アカウント
でログインしてください。
サーバー名は登録しているサーバー名を直
接入力してください。

[Oracleの場合]

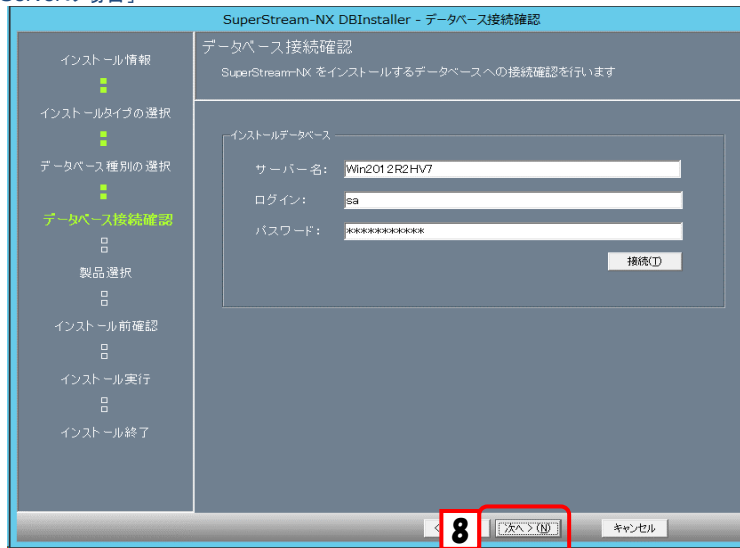


注 意
手順5で[Oracle]を選択した場合は、
Oracle のシステム管理者アカウントでログ
インしてください。
接続文字列は、Net Managerなどで設定す
る「サービス・ネーミング」に登録されてい
るものを入力します。



7. 【OK】ボタンをクリック

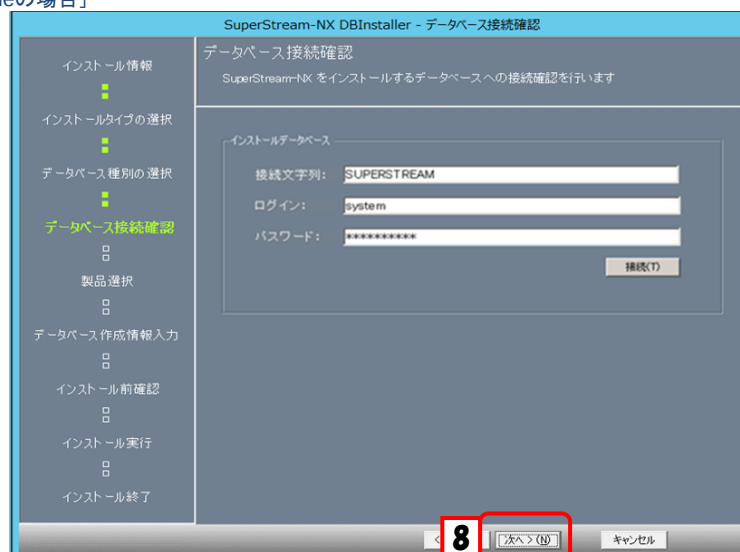
[SQL Serverの場合]



8. 【次へ】ボタンをクリック

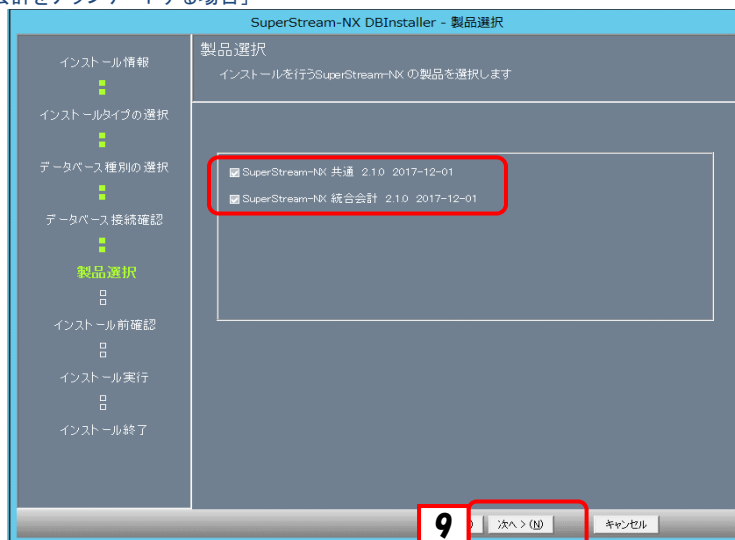
- SQL Serverの場合
(手順5で[SQL Server]を選択した場合)

[Oracleの場合]



- Oracleの場合
(手順5で[Oracle]を選択した場合)

[統合会計をアップデートする場合]

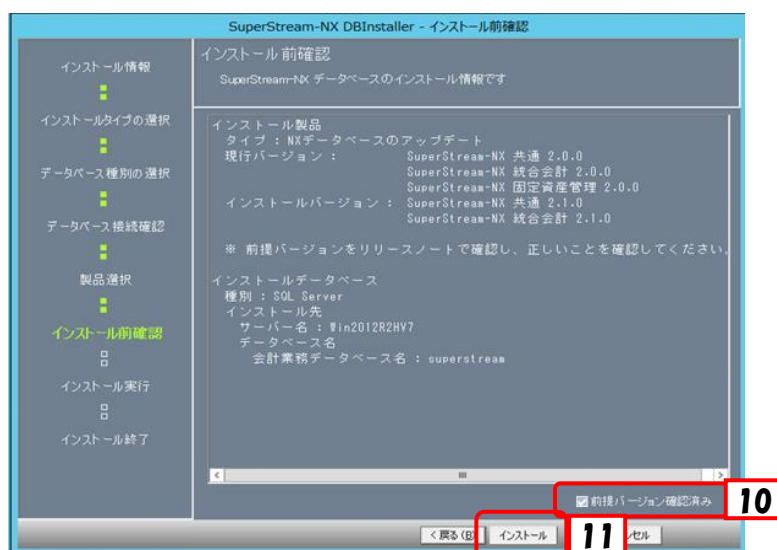
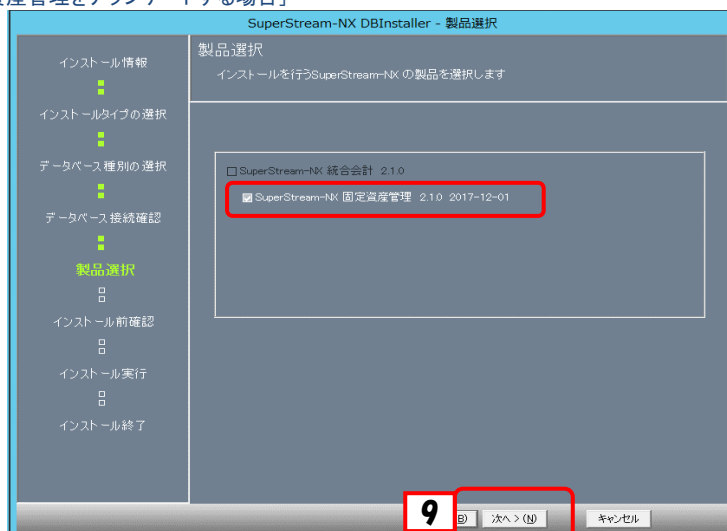


9. インストールする製品を確認後、
【次へ】ボタンをクリック



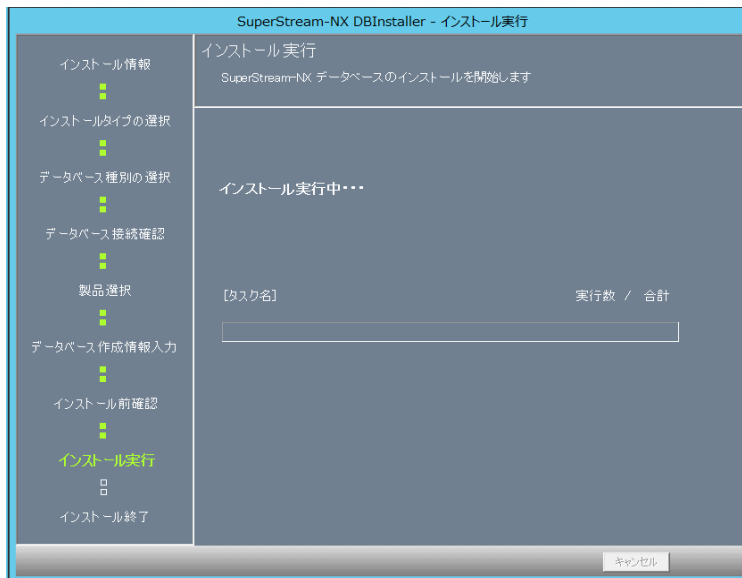
統合会計のアップデート時はNX共通もアップデートします。
NX共通のバージョンが同じときはNX共通のアップデートはスキップされます。

[固定資産管理をアップデートする場合]



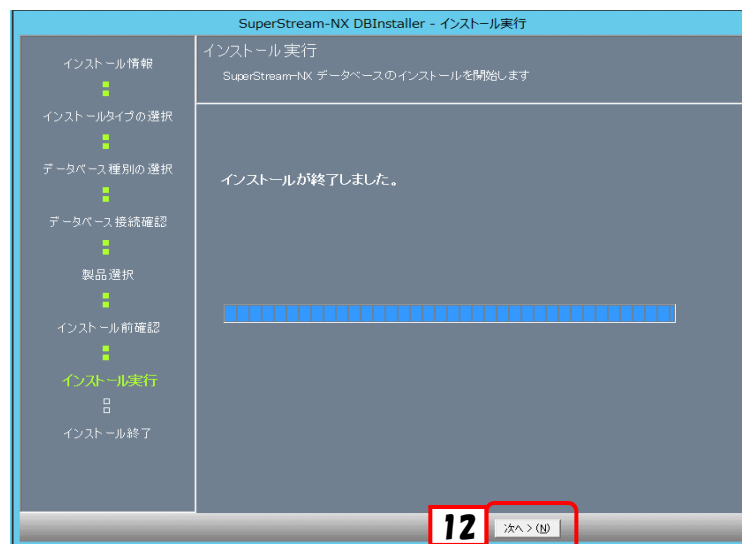
10. インストール内容と現行バージョン、インストールバージョンを確認後、[前提バージョン確認済み]にチェック

11. 【インストール】ボタンをクリック
⇒インストールが開始される

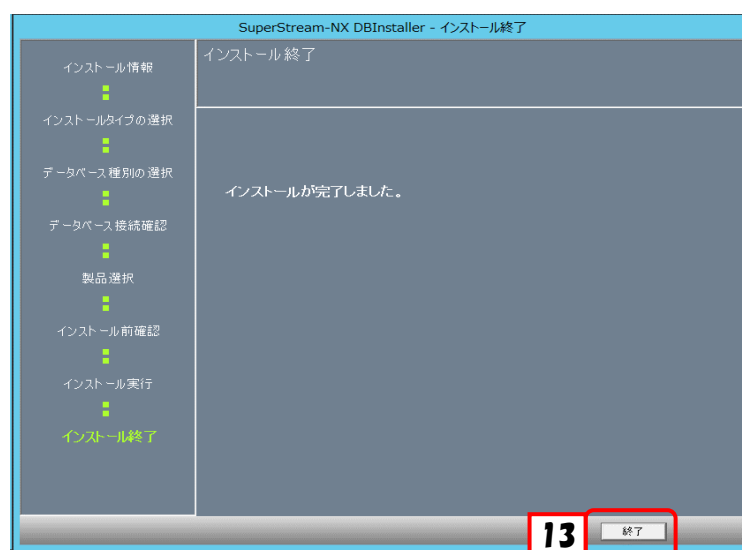


『2.3.1.7 インストールの中断、インストールエラー(共通)』を参照

データベースコンポーネントのインストールには多少時間がかかります。

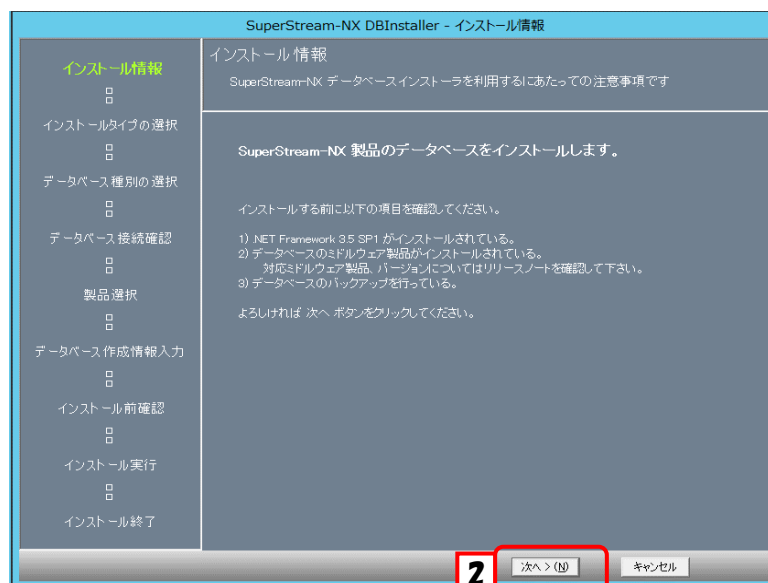


12. インストール終了後、【次へ】ボタンをクリック



13. 【終了】ボタンをクリック

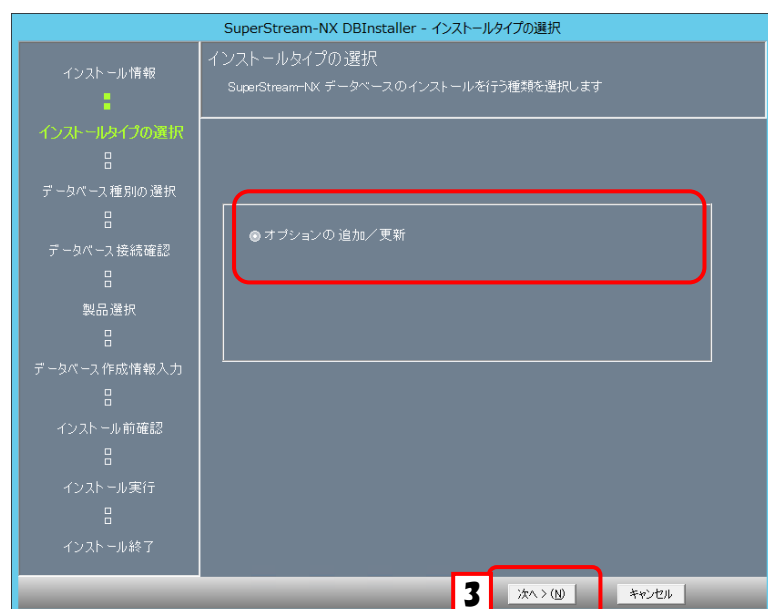
2.3.1.5 NX オプション製品のインストール



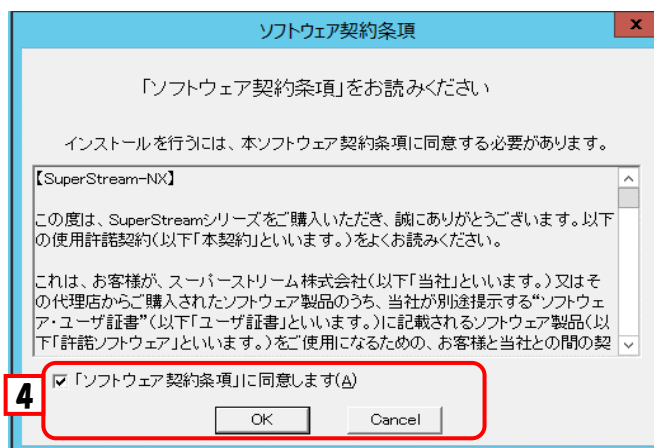
注意

実行する前にデータベースのバックアップを行ってください。

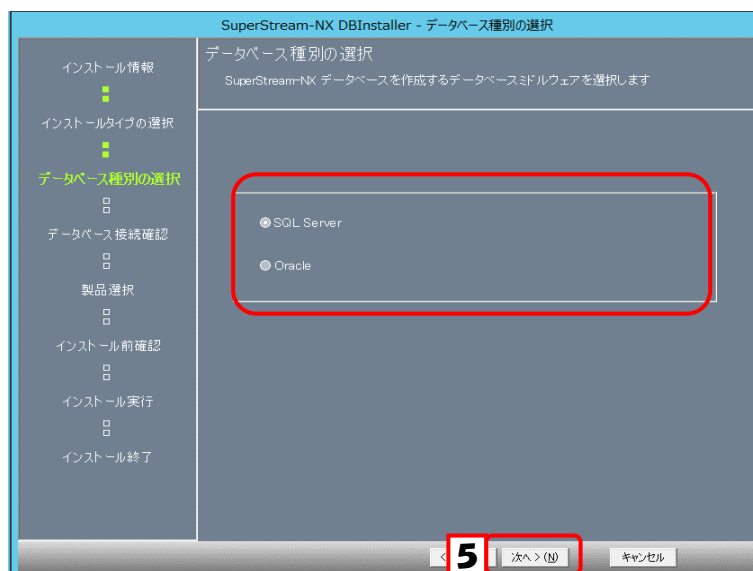
1. オプションインストールCDのSetupフォルダ内のDBフォルダをDBサーバー(ローカル)にコピーし、DBフォルダ内の[DBSetup.exe]を管理者として実行
⇒SuperStream-NXデータベースインストーラーが起動する
2. インストール情報を確認後、【次へ】ボタンをクリック



3. [オプションの追加/更新]を選択後、【次へ】ボタンをクリック



4. [「ソフトウェア契約条項」に同意します]をチェック後、【OK】ボタンをクリック

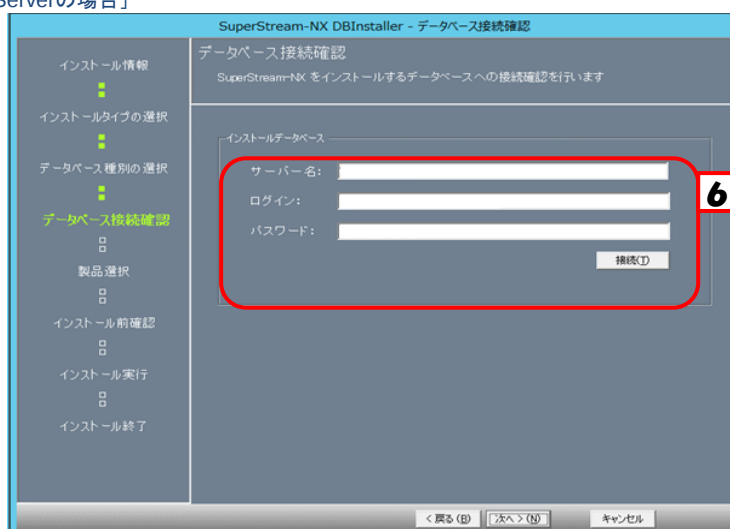


5. データベース種別の選択後、 【次へ】ボタンをクリック



注意
スーパーインターフェースのインストールの場合は[Oracle]のみとなります。

[SQL Serverの場合]

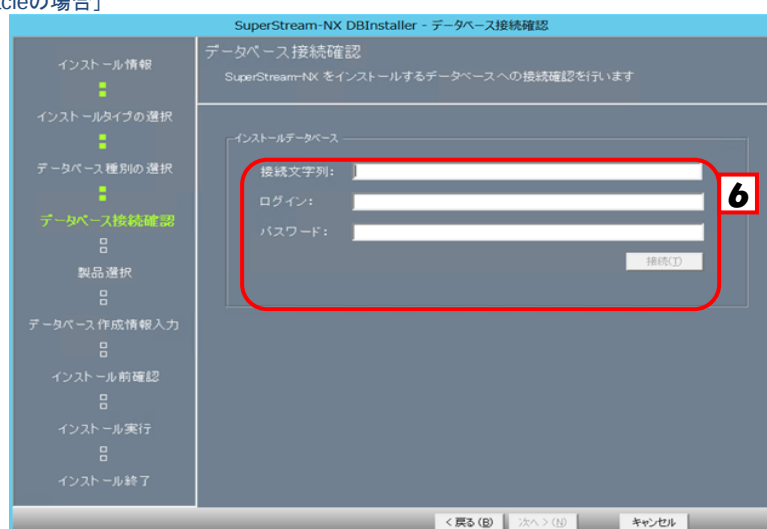


6. データベースインスタンスへの接続 情報を入力後、【接続】ボタンをクリ ック ⇒接続が成功するとメッセージが 表示される

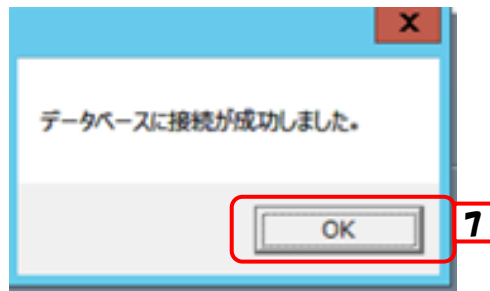


注意
手順5で[SQL Server]を選択した場合は、SQL Server のシステム管理者アカウントでログインしてください。
サーバー名は登録しているサーバー名を直接入力してください。

[Oracleの場合]

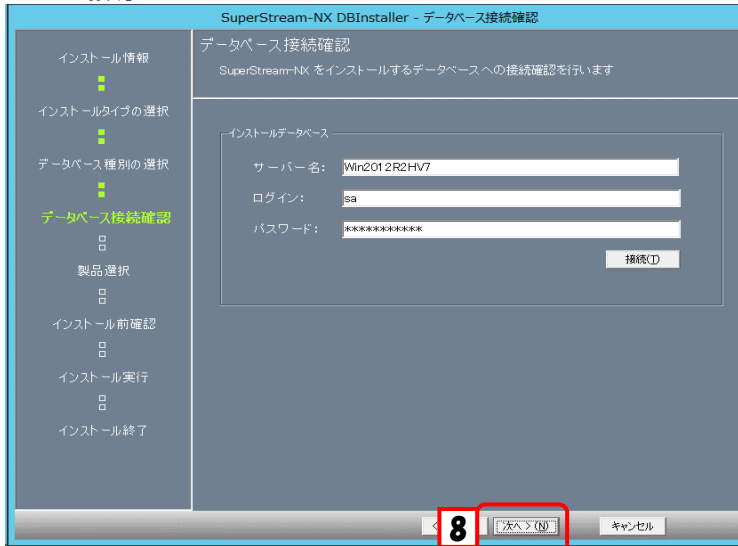


注意
手順5で[Oracle]を選択した場合は、Oracle のシステム管理者アカウントでログインしてください。
接続文字列は、Net Managerなどで設定する「サービス・ネーミング」に登録されているものを入力します。



7. 【OK】ボタンをクリック

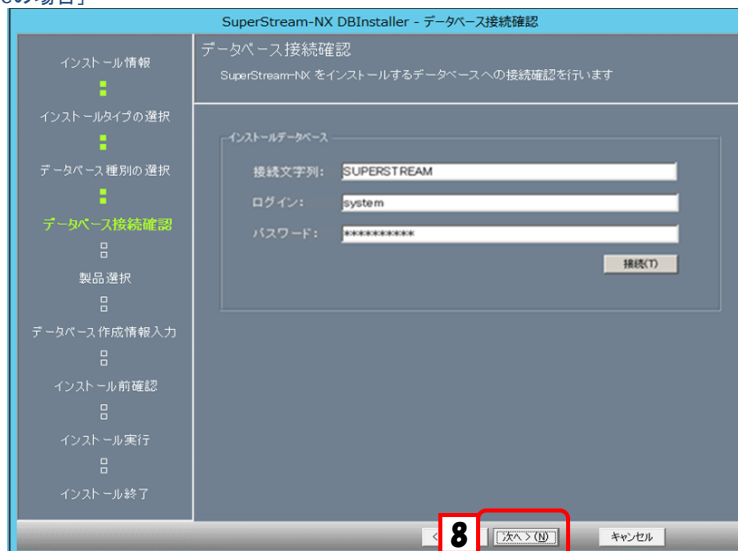
[SQL Serverの場合]



8. 【次へ】ボタンをクリック

- SQL Serverの場合
(手順5で[SQL Server]を選択した場合)

[Oracleの場合]



- Oracleの場合
(手順5で[Oracle]を選択した場合)

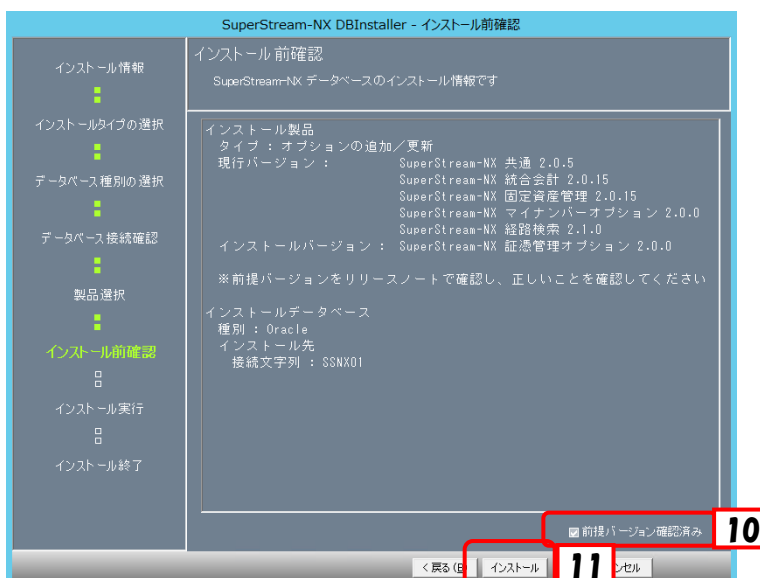
〔証憑管理オプションをインストールする場合〕



9. インストールする製品を確認後、
【次へ】ボタンをクリック

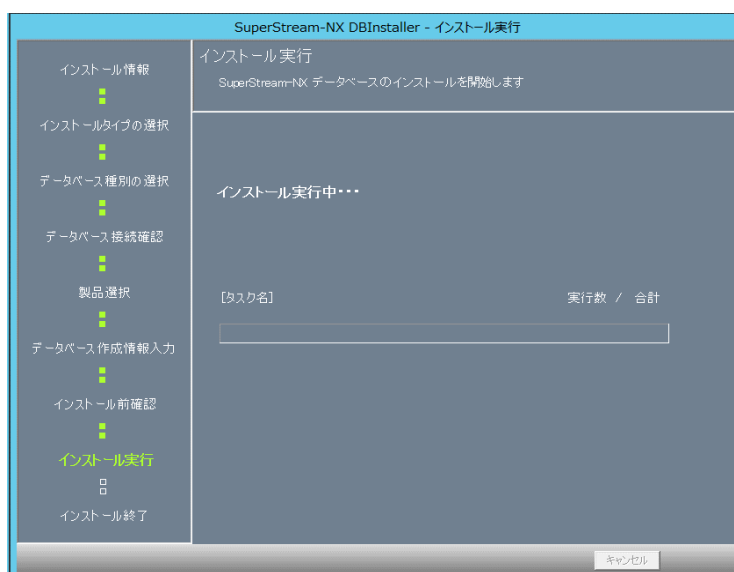


オプション製品CDの内容により、ここで表示されるオプション名が変更されます。



10. インストール内容と現行バージョン、インストールバージョンを確認後、[前提バージョン確認済み]にチェック

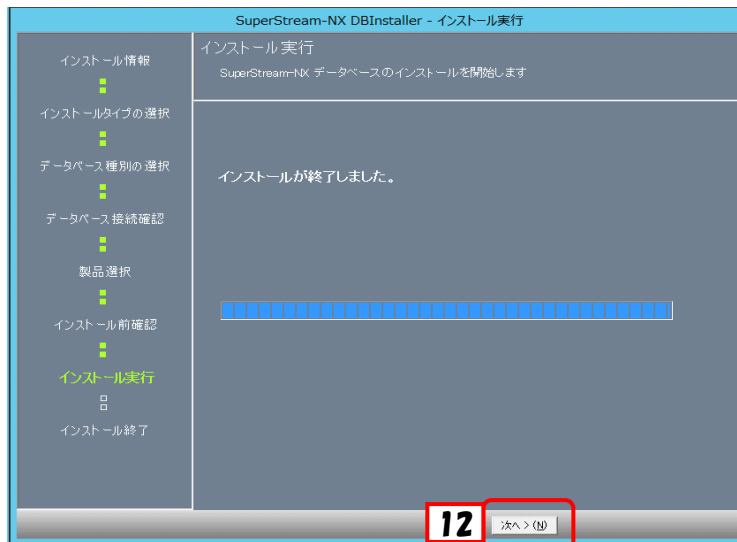
11. 【インストール】ボタンをクリック
⇒インストールが開始される



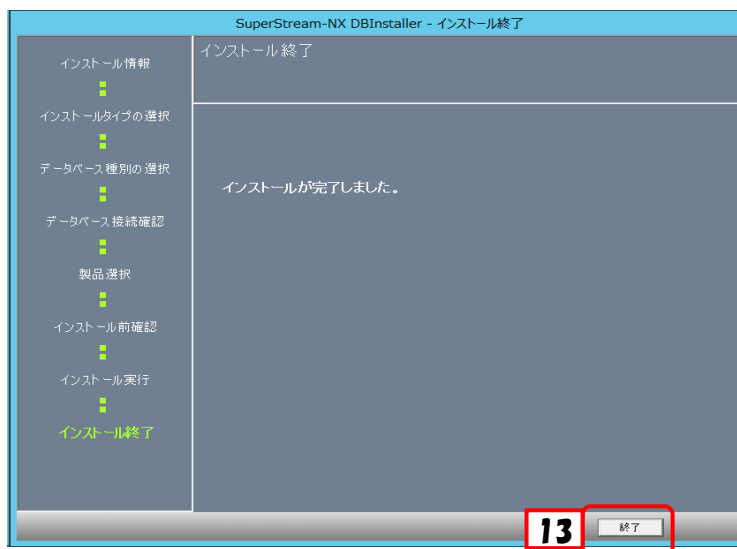
- 『2.3.1.7 インストールの中断、インストールエラー(共通)』を参照



データベースコンポーネントのインストールには多少時間がかかります。

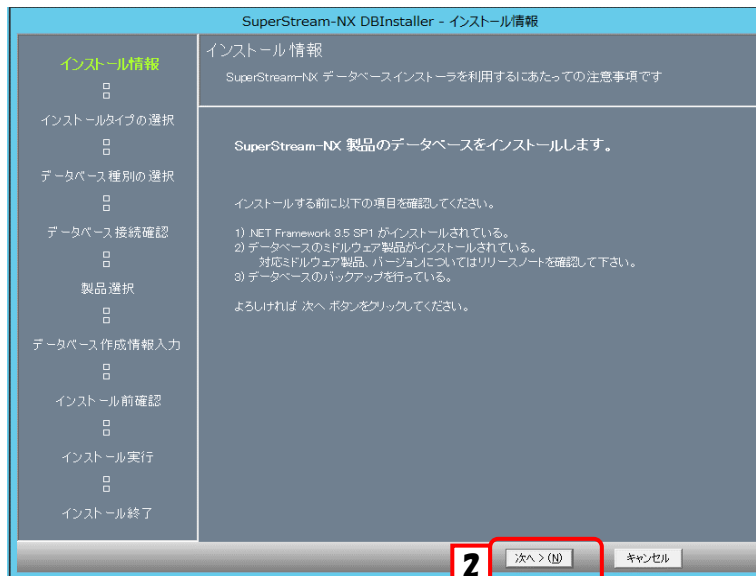


12. インストール終了後、【次へ】ボタンをクリック



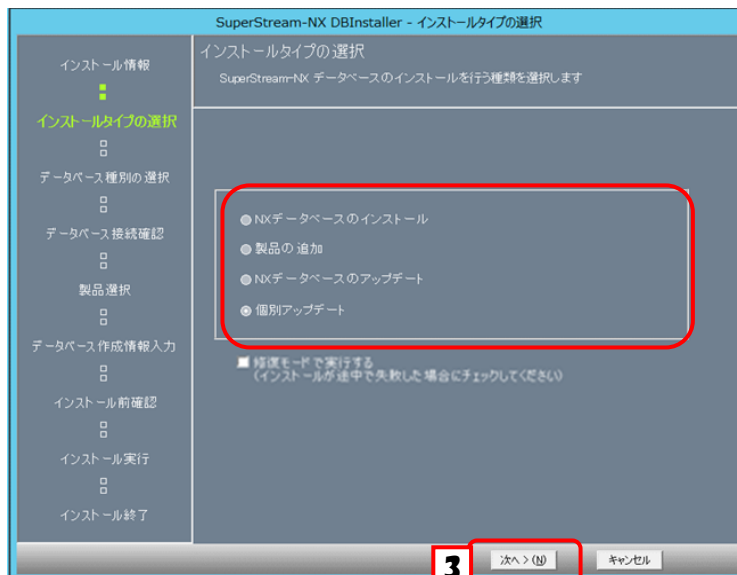
13. 【終了】ボタンをクリック

2.3.1.6 データベースの個別アップデート（NX 共通・NX 統合会計・NX 固定資産管理・NX オプション）

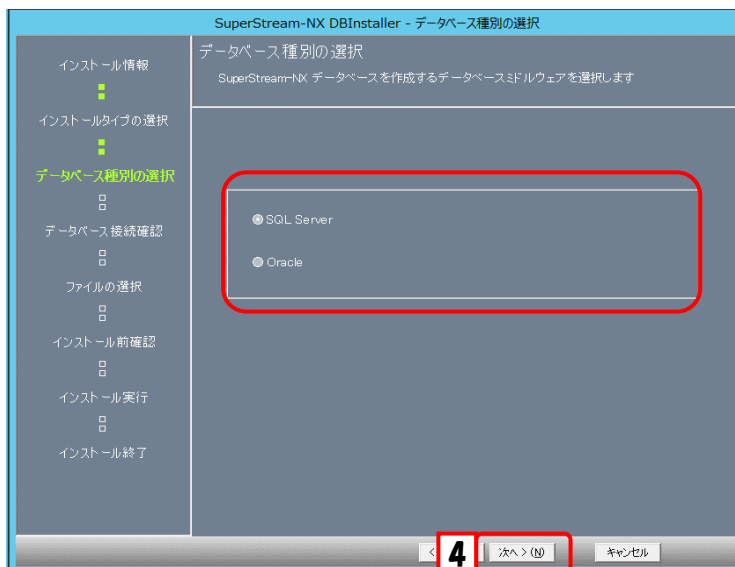


注意
実行する前にデータベースのバックアップを行ってください。

1. パッチモジュールを解凍後、Patch フォルダをDBサーバー（ローカル）にコピーし、¥Patch¥DB¥Setup内にある[DBSetup.exe]を管理者として実行
⇒SuperStream-NXデータベースインストーラーが起動する
2. インストール情報を確認後、【次へ】ボタンをクリック

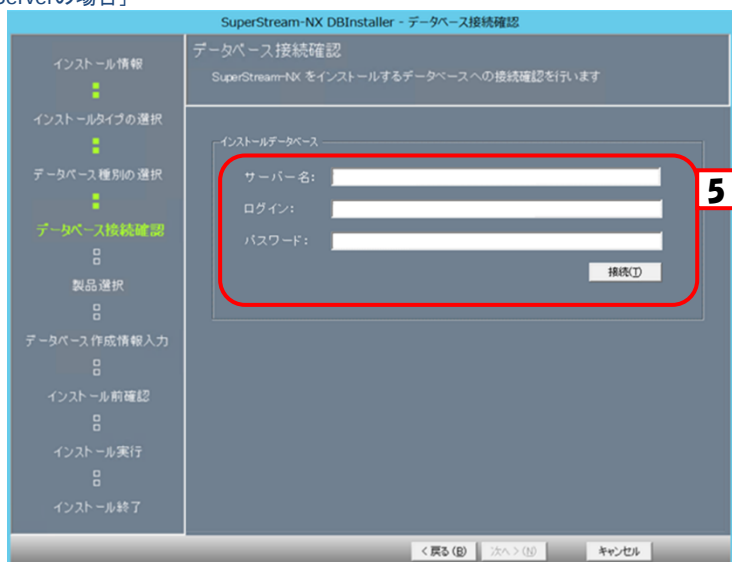


3. 【個別アップデート】を選択後、【次へ】ボタンをクリック



4. データベース種別の選択後、
【次へ】ボタンをクリック

[SQL Serverの場合]



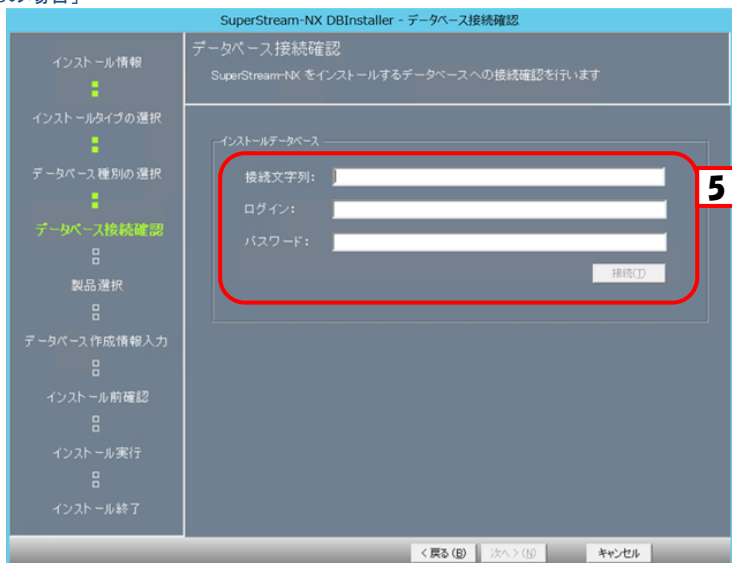
5. データベースインスタンスへの接続
情報を入力後、【接続】ボタンをクリ
ック
⇒接続が成功するとメッセージが
表示される



注 意

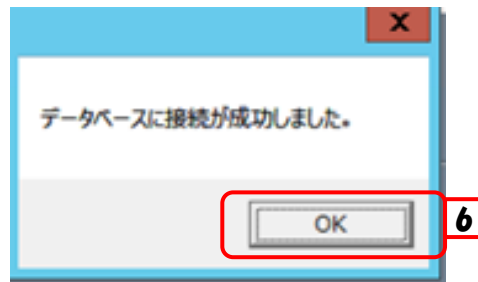
手順4で[SQL Server]を選択した場合は、
SQL Server のシステム管理者アカウント
でログインしてください。
サーバー名は登録しているサーバー名を直
接入力してください。

[Oracleの場合]



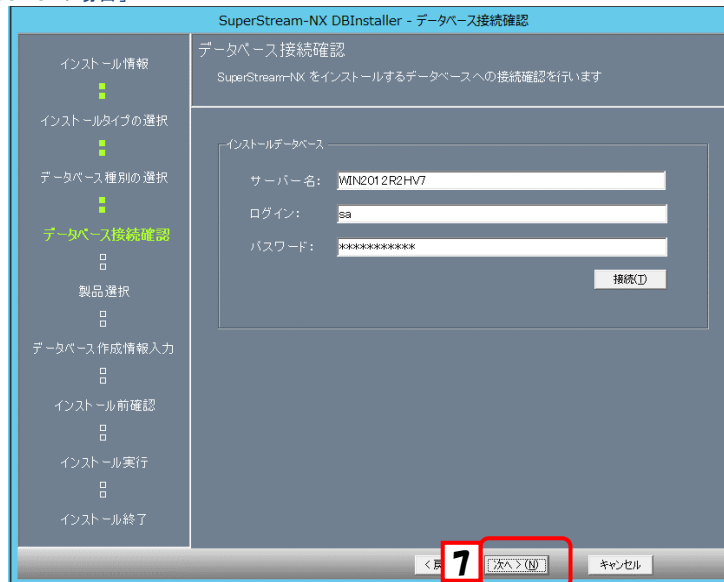
注 意

手順4で[Oracle]を選択した場合は、
Oracle のシステム管理者アカウントでログ
インしてください。
接続文字列は、Net Managerなどで設定す
る「サービス・ネーミング」に登録されてい
るものを入力します。



6. 【OK】ボタンをクリック

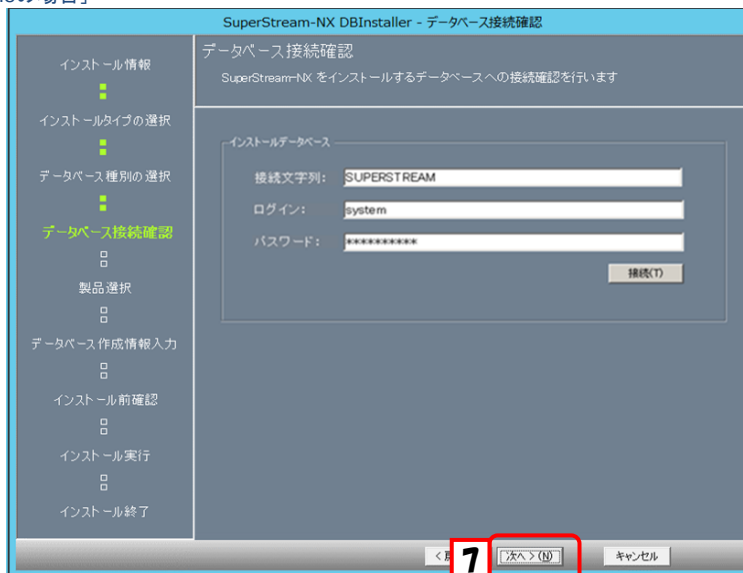
[SQL Serverの場合]



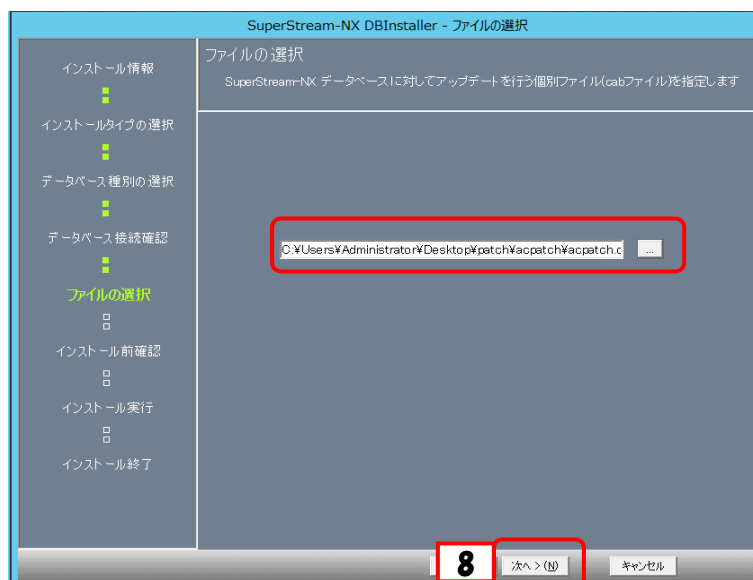
7. 【次へ】ボタンをクリック

- SQL Serverの場合
(手順4で[SQL Server]を選択した場合)

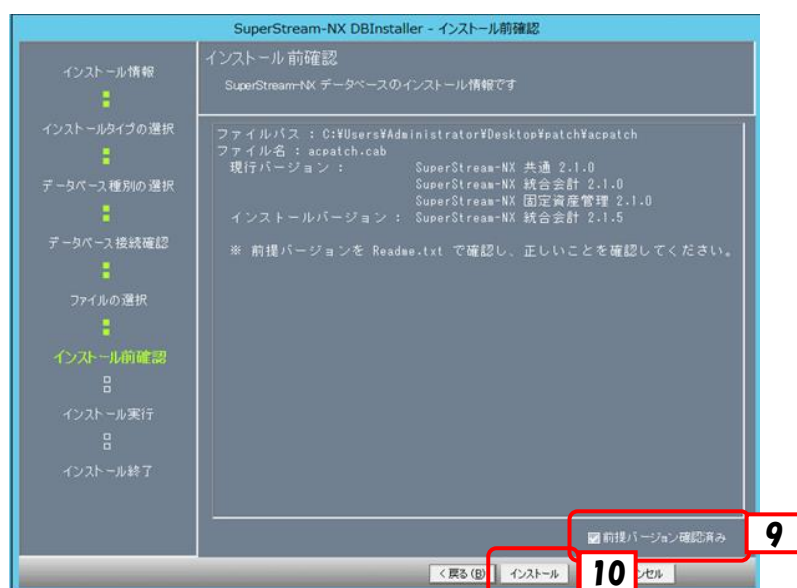
[Oracleの場合]



- Oracleの場合
(手順4で[Oracle]を選択した場合)

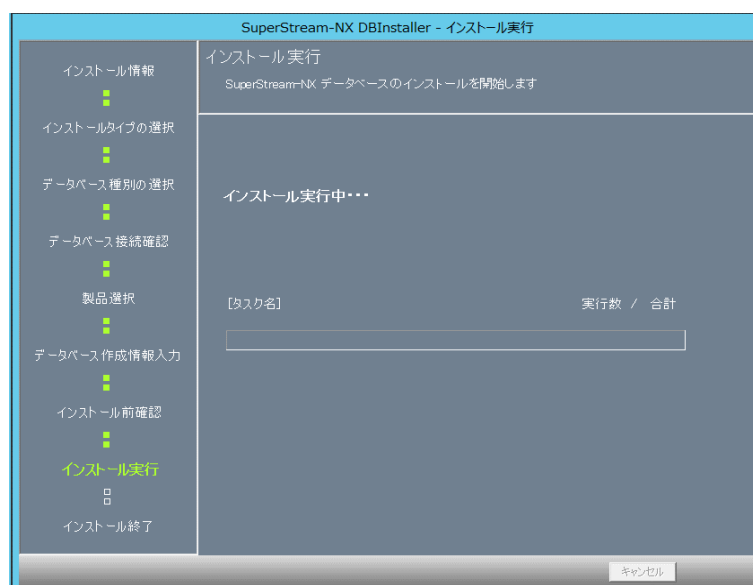


8. 参照ボタンで、アップデートするファイル (*.cab) を指定後、【次へ】ボタンをクリック



9. インストール内容と現行バージョン、インストールバージョンを確認後、[前提バージョン確認済み]にチェック

10. 【インストール】ボタンをクリック
⇒インストールが開始される

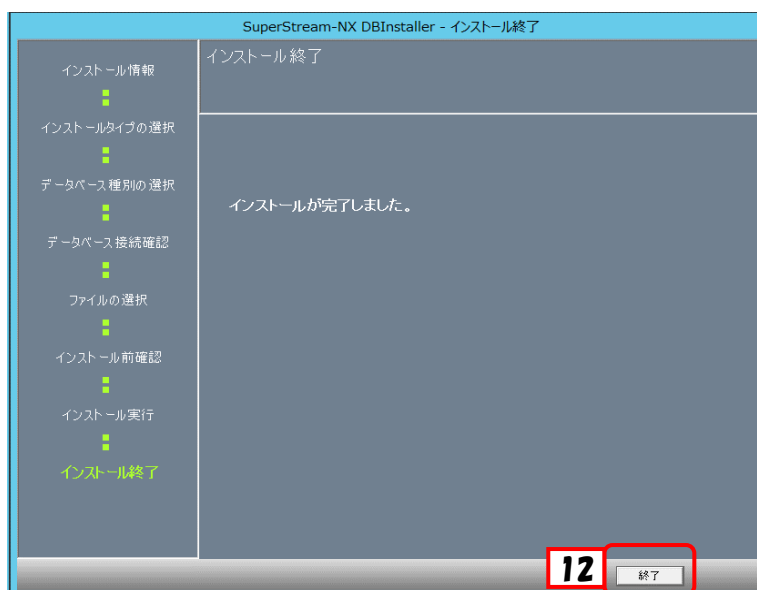


- 『2.3.1.7 インストールの中断、インストールエラー（共通）』を参照

データベースコンポーネントのインストールには多少時間がかかります。



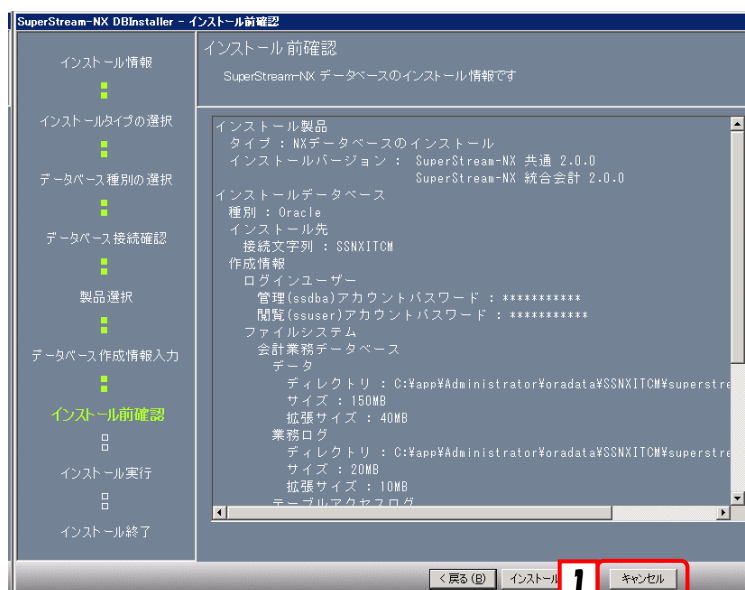
11. インストール終了後、【次へ】ボタンをクリック



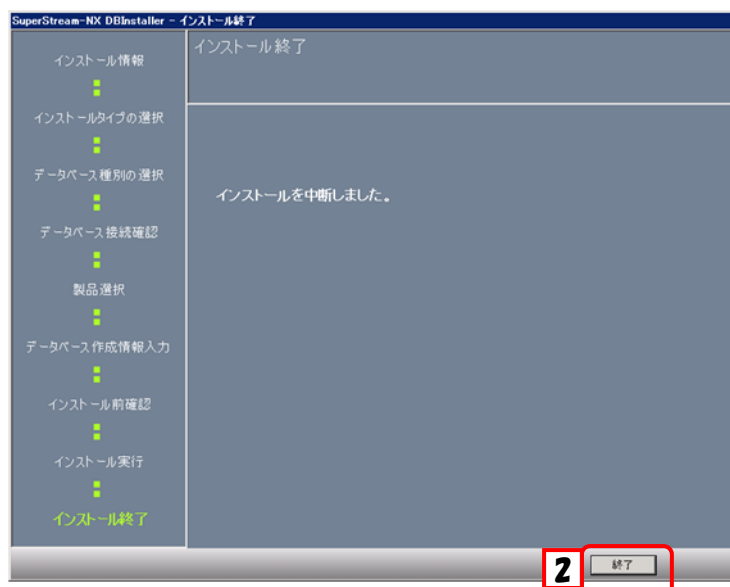
12. 【終了】ボタンをクリック

2.3.1.7 インストールの中断、インストールエラー（共通）

インストールを中断する場合



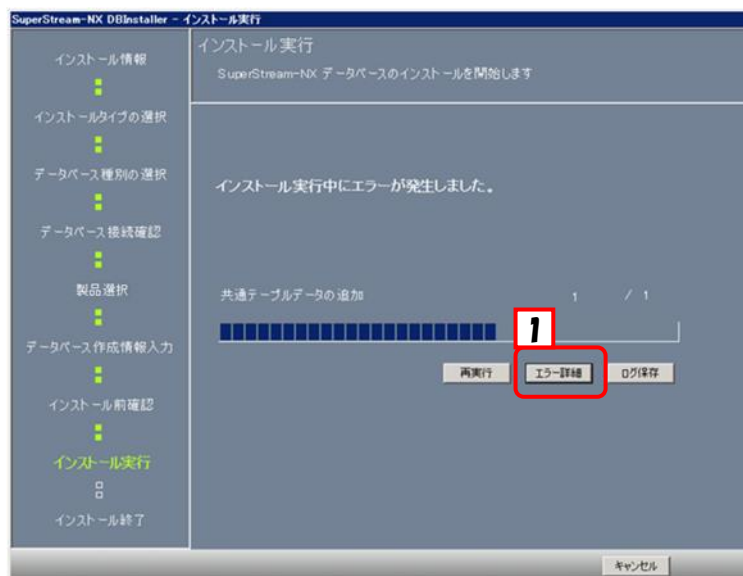
1. インストール実行以前の画面で、
【キャンセル】ボタンをクリック
⇒「インストールを中断しました。」
のメッセージが表示される



2. 【終了】ボタンをクリック

インストール中にエラーが発生した場合

インストール中にエラーが発生すると、インストールを中断します。エラーの内容を確認し、適切に対処する必要があります。

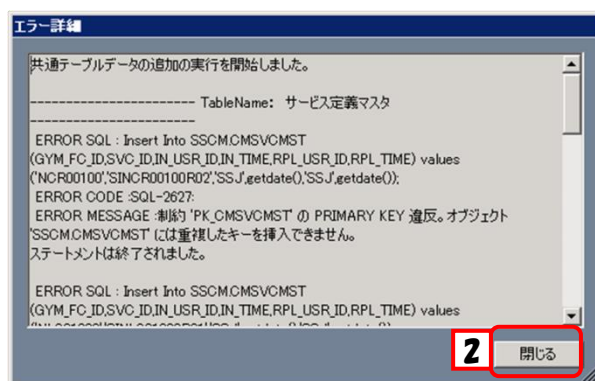


1. インストール実行画面で、
【エラー詳細】ボタンをクリック

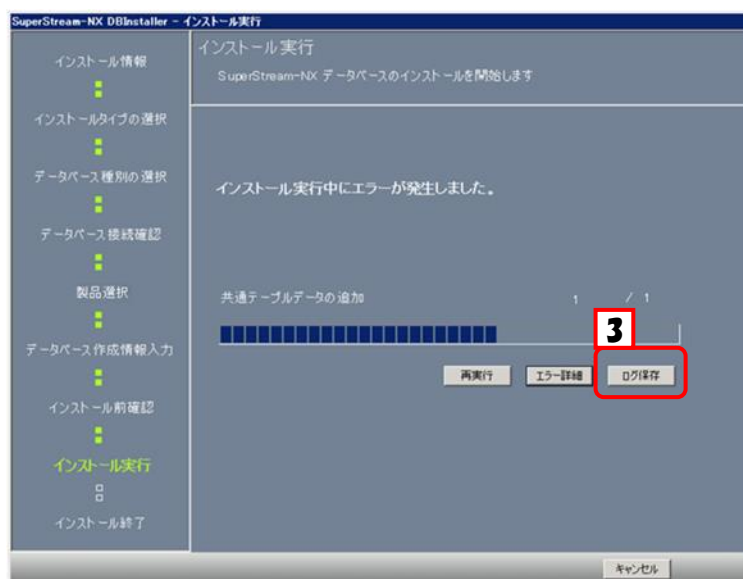


注意
【再実行】ボタンをクリックすると、インストールを再実行できます。
ただし、同一箇所(同一クエリー内)で3回失敗すると継続できなくなります。
継続できなくなった場合は、一度終了し、最初からやり直してください。

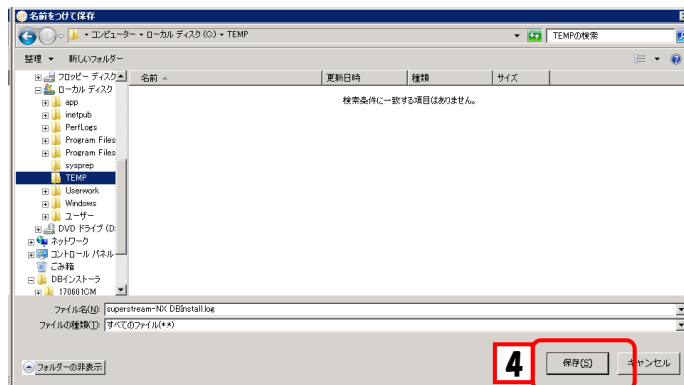
『インストールがエラーの状態で終了し、再実行したい場合』を参照



2. エラー詳細を確認後、【閉じる】ボタンをクリック
⇒元の画面に戻る



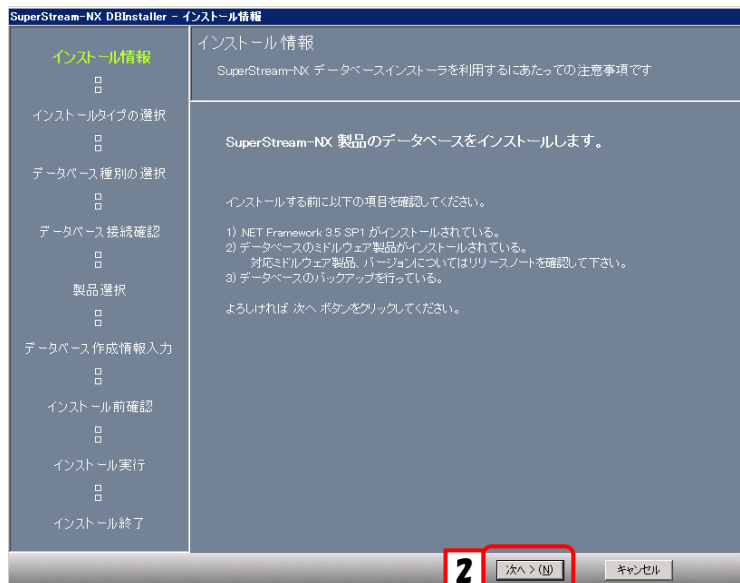
3. ログを出力する場合は、インストール実行画面で、【ログ保存】ボタンをクリック
⇒ファイルの保存先を指定するダイアログが表示される



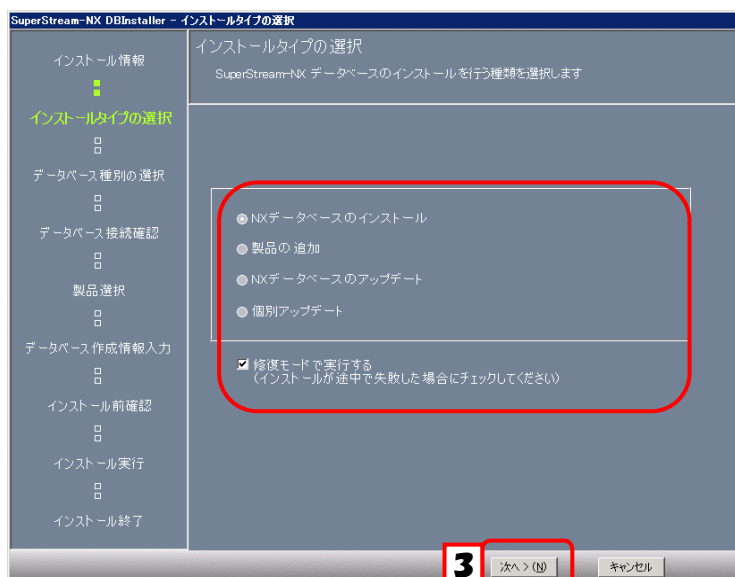
4. ログファイルの保存先とファイル名を指定後、【保存】ボタンをクリック

インストールがエラーの状態を終了し、再実行したい場合

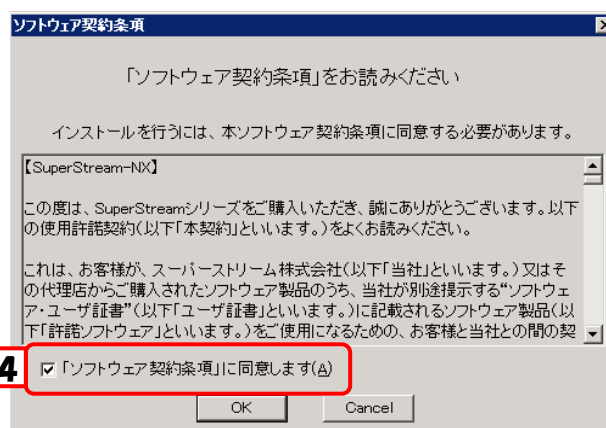
インストール途中でエラーが発生しインストーラーを終了した場合、修復モードで実行することでインストールを継続することができます。



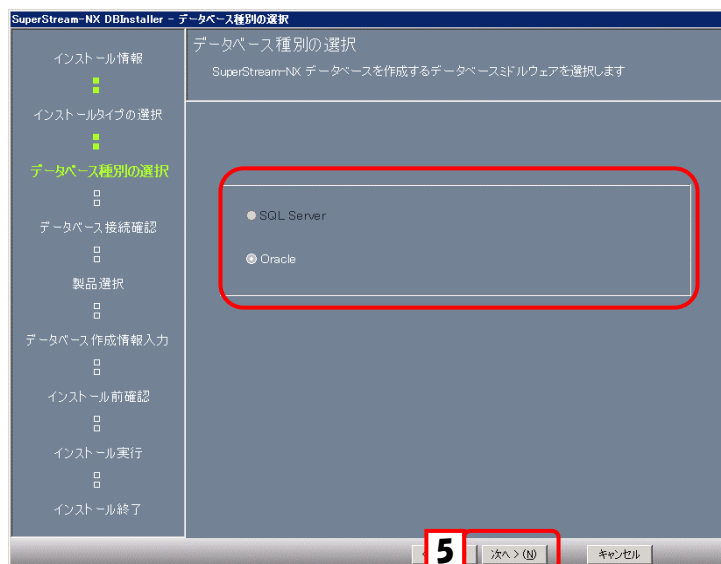
1. インストールCDのSetupフォルダ内のDBフォルダをDBサーバー(ローカル)にコピーし、DBフォルダ内の[DBSetup.exe]を管理者として実行
⇒SuperStream-NXデータベースインストーラーが起動する
2. インストール情報を確認後、【次へ】ボタンをクリック



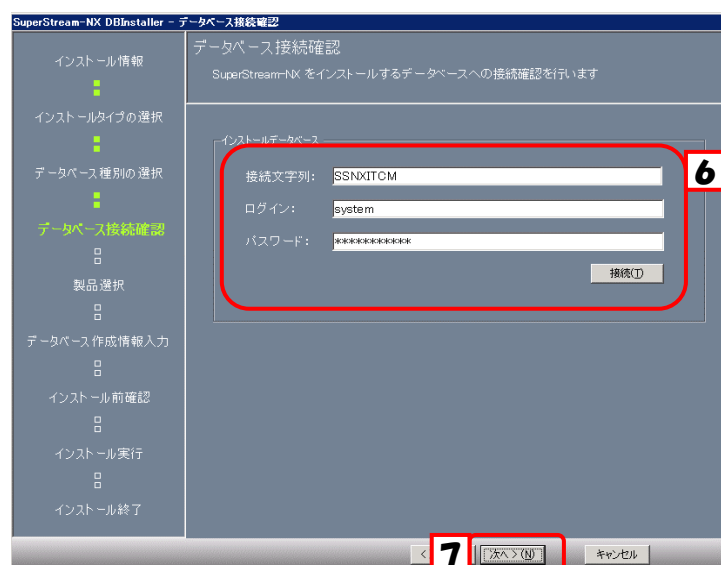
3. インストールタイプを選択した後、[修復モードで実行する]にチェックを付けて【次へ】ボタンをクリック



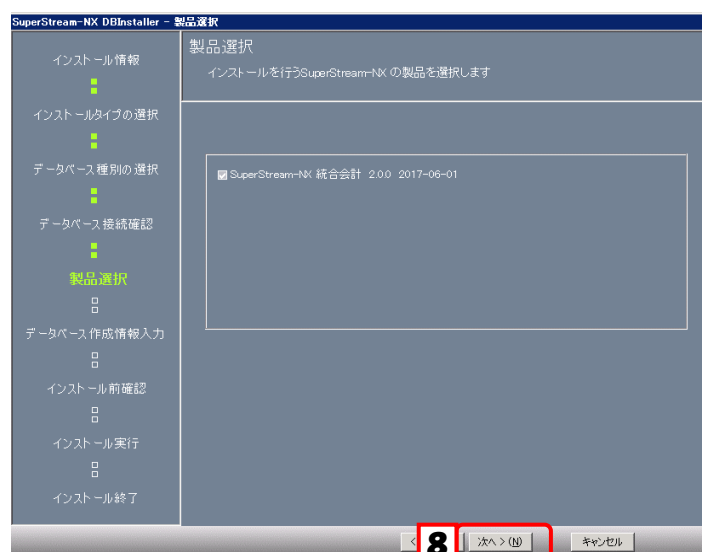
4. [「ソフトウェア契約条項」に同意します]をチェック後、【OK】ボタンをクリック



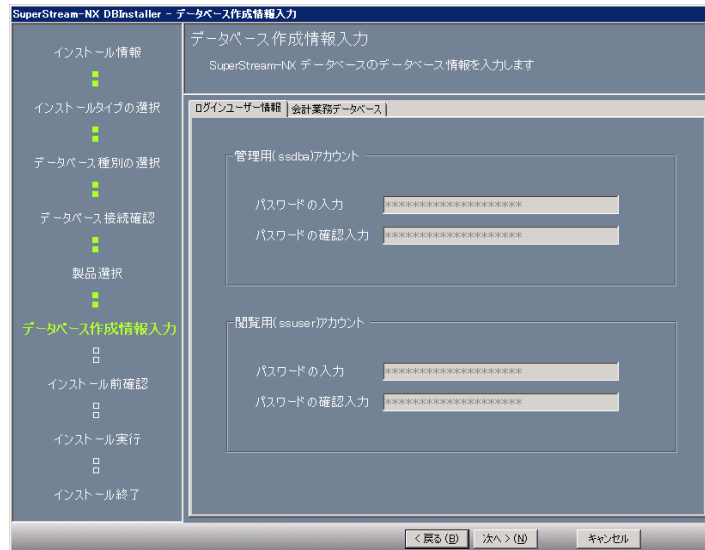
5. データベース種別の選択後、
【次へ】ボタンをクリック



6. データベースインスタンスへの接続
情報を入力後、【接続】ボタンをクリッ
ク。
7. 接続を確認後、
【次へ】ボタンをクリック



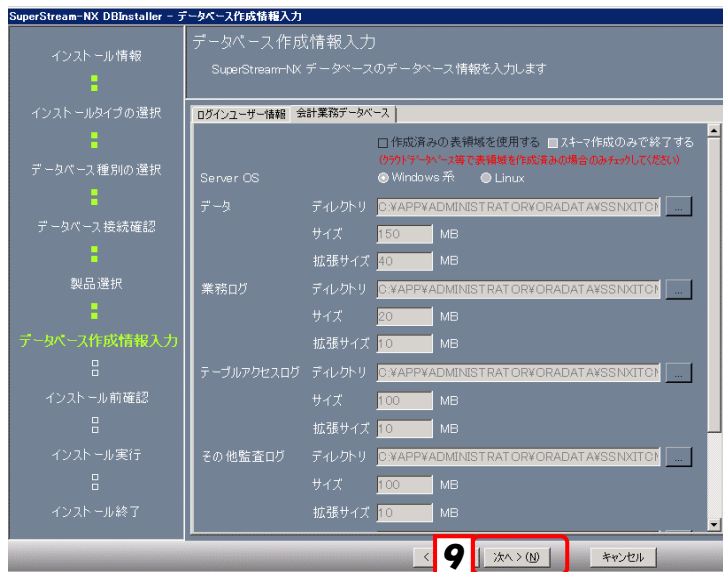
8. インストールする製品を確認後、
【次へ】ボタンをクリック



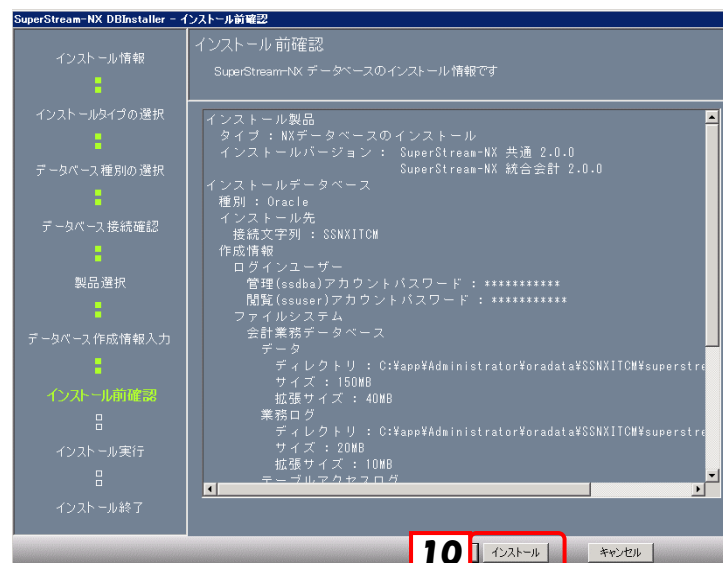
9. [ログインユーザー情報]タブと[会計業務データベース]タブの内容を確認後、【次へ】ボタンをクリック



インストールに失敗した場所が、ユーザー作成を過ぎていた場合、修復モードでは変更できません。



インストールに失敗した場所が、表領域作成を過ぎていた場合、修復モードでは変更できません。

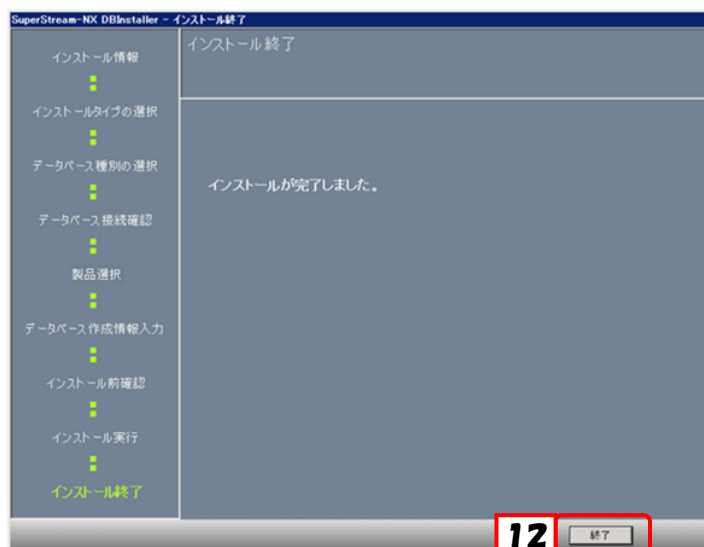
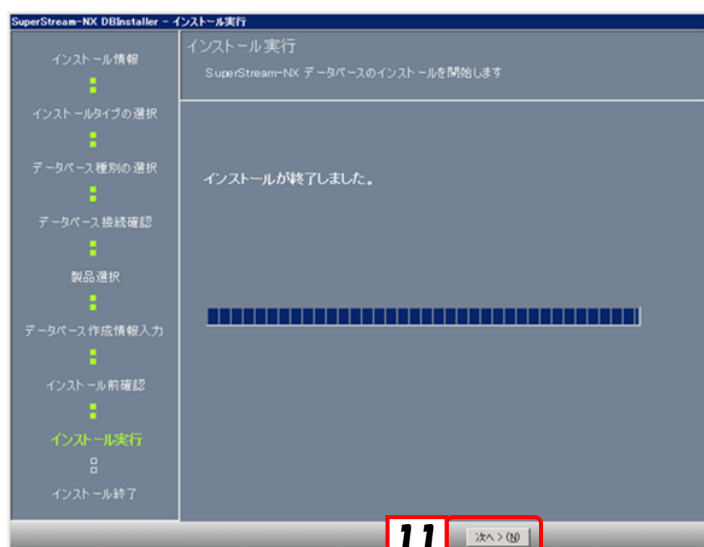
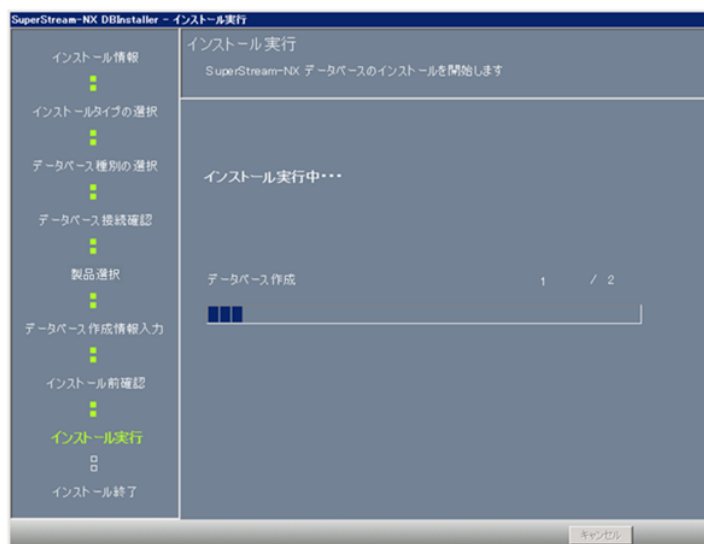


10. インストール内容を確認後、【インストール】ボタンをクリック
⇒インストールが修復モードで開始される



[修復モード]を選択した場合は、インストールオブジェクトの上書きが行われます。インストール先の製品バージョン、インストール先のデータベース接続情報をよく確認してから実行してください。

また、運用開始後の修復インストールを行わないでください。



11. インストール終了後、【次へ】ボタンをクリック

12. 【終了】ボタンをクリック

インストール中にパスワードエラーが発生した場合

「データベース作成情報」の[ログインユーザー情報]タグで設定したパスワードが Windows のポリシーで指定された強力なパスワードの基準を満たされていない場合、インストールでエラーが発生します。発生後、再インストールするには、以下の手順で対処する必要があります。

データベースの削除	1. 対象のインスタンスに管理者権限のあるユーザーで SQL Server Management Studio にログイン
	2. オブジェクトエクスプローラーで「データベース」より、『superstream』を削除、[最新情報に更新]を実行
	
ログインユーザーの削除	3. 「セキュリティ→ログイン」より、『ssaplacuser』を削除、[最新情報に更新]を実行
	4. 『ssapldb』を削除、[最新情報に更新]を実行
	5. 『ssdba』を削除、[最新情報に更新]を実行
	6. 『ssuser』を削除、[最新情報に更新]を実行

2.3.1.8 インストール後の設定・確認

データベース初期インストール後は、以下の設定を行います。

DBMS が SQL Server の場合

1. テキストレプリケーションの最大サイズの設定
SQL Server Management Studio(SSMS)を起動し、管理者権限でインストールした SuperStream-NX 環境に接続します。

オブジェクトエクスプローラーペインでデータベースサーバーのプロパティを表示し、[詳細設定]の[テキストレプリケーション]の最大サイズに 2147483647 を設定して[OK]ボタンを押下します。
2. 互換性レベルの変更 (SQL Server 2014 SP3、SQL Server 2017 の場合)
SQL Server Management Studio(SSMS)を起動し、管理者権限でインストールした SuperStream-NX 環境に接続します。

オブジェクトエクスプローラーペインで[データベース]を展開し、[superstream]を選択してプロパティを開きます。

データベースのプロパティで[オプション]を選択し、[互換性レベル]を「SQL Server 2012(110)」に設定して[OK]ボタンを押下します。

DBMS が Oracle の場合

1. 表領域の設定(必要に応じて)
SuperStream-NX の運用時のデータ量に応じて、データ格納領域である表領域を任意で拡張しておく必要があります。
表領域の拡張方法は、データファイルサイズの変更とデータファイルの追加の 2 通りあります。

[データファイルサイズの変更] ※通常はこちらを利用します

```
ALTER TABLESPACE DAT01 DATAFILE 'フルパス/データファイル名' resize ***M;
```


[データファイルの追加] ※Disk ドライブを跨いだ表領域の構成の場合

```
ALTER TABLESPACE DAT01 ADD DATAFILE 'フルパス/データファイル名' size ***M;
```


その他、Oracle の標準管理ツールである「EnterpriseManagerConsole」でも GUI で同様の作業が可能です。
2. ファンクションやプロシージャの確認
データベースインストール後にファンクションやプロシージャのコンパイル結果を確認してください。
確認方法は以下の通りです。

SQLPlus 等で Oracle にログインし、以下の SQL を実行して一件も表示されないことを確認する。


```
SELECT OWNER,OBJECT_TYPE,STATUS,OBJECT_NAME  
FROM ALL_OBJECTS  
WHERE OWNER = 'SSDBO' AND STATUS = 'INVALID';
```

2.3.2 アプリケーションサーバーの設定

NX シリーズのビジネスロジックを処理するアプリケーションサーバーの設定手順について説明します。
アプリケーションサーバーの設定手順はイントラネット版を基準として説明を行います。
SaaS 版の設定については各説明箇所「SaaS 版の場合」と記述されています。



注意

NX 統合会計のメディアの場合、

NX 統合会計を新規にインストールする場合はメニュー画面で[NX のインストール]を選択してください。
既に NX 人事管理、NX 給与管理がインストールされている場合は[製品の追加]を選択してください。

NX 固定資産管理のメディアの場合、

NX 固定資産管理を新規にインストールする場合は、メニュー画面で[製品の追加]を選択してください。

・アプリケーションサーバーを 2016-11-01 版から 2017-06-01 版にバージョンアップする場合は、NX のアップデートではなく、NX を新規にインストールしてください。



注意



アプリケーションサーバーを 2016-11-01 版から 2017-06-01 にバージョンアップする場合、2016-11-01 版で利用していた NX 共通ファイルと証憑ファイル格納用フォルダを利用することができます。



『2.3.2.2 NX 統合会計サーバーコンポーネントの初期インストール』の手順 11 を参照



注意

アプリケーションサーバーを 2018-06-01 版から 2019-10-01 版にバージョンアップする場合は、事前に『2.2.2 アプリケーションサーバー』を確認して必要な機能をインストールしてください。

前提条件の確認

- アプリケーションサーバーに、前提となる機能がインストールされていることを確認します。



『1.1 システム要件』を参照

- アプリケーションサーバーを構成する前に、DB インストーラーによるデータベースの作成が完了している必要があります。



『2.3.1 データベースサーバーの設定』を参照

- NX 共通ファイルと証憑ファイル格納用フォルダの作成および、作成したフォルダへのアクセス権(変更権限)を設定します。
- セキュリティ向上の為、作成したフォルダの Users グループ権限を削除することをお勧めします。

SuperStream-NX では、アプリケーションサーバー上に帳票データおよび NX 統合会計の証憑ファイル、NX 固定資産管理の画像・添付ファイル、各種ログファイルを格納します。

初期インストール作業の前に共通ファイルと証憑ファイル格納用フォルダを作成し、変更権限を接続ユーザーに設定しておく必要があります。



初期インストール後に接続ユーザーのパスワードを変更する場合、または証憑ファイル格納用フォルダを分離する場合は、製品出荷 CD 内の暗号化ファイル作成ツールで設定を変更する必要があります。使用方法是付属のドキュメントを参照してください。
(Support¥Tools¥暗号化ファイル作成ツール)

フォルダの作成先は、NX インストールフォルダ以外のローカルディスク上、またはネットワーク上のディスクを指定することを推奨します。

複数サイトまたは複数アプリケーションサーバーで同じ会社コードでの運用を行う場合は、共通ファイルと証憑ファイル格納用フォルダは、それぞれ共通の場所を指定する必要があります。

2014-12-01 版以降では、証憑ファイルを共通ファイルとは別に管理できますが、初期インストール以外の場合は、別途、暗号化ファイル作成ツールで設定を変更する必要があります。

証憑ファイル格納用フォルダを変更する場合は、変更前のフォルダから証憑ファイルのコピーを行ってください。

変更前の証憑ファイル格納フォルダは下記となります。

共通ファイル格納用フォルダ¥UPLOAD¥Perennial



注意

- Oracle の場合は、Oracle Client がインストールされていることを確認します。



『2.2 インストールの準備』を参照

2.3.2.1 サーバーコンポーネントインストールガイド

SuperStream-NX サーバーインストーラーにより、業務別のビジネスロジックが格納されたサーバーコンポーネントをインストールします。



注意

- ・2019-10-01 版 SuperStream-NX サーバーインストーラーは過去版のインストールは実行できません。
- ・SuperStream-NX サーバーインストーラー (Setup.exe) は管理者として実行する必要があります。
- ・初期インストール、アンインストールでは IIS を停止するため、IIS 上で稼働しているサイトは影響を受けます。
- ・製品追加、アップデート、個別アップデート、オプション類インストールでは対象となるアプリケーションを停止します。
- ・SuperStream-NX を使用していない状態でインストーラーを実行してください。
- ・入力内容に対する確認を促すボタン(【設定テスト】ボタンなど)が存在する画面では、確認結果が OK にならないと、【次へ】ボタンが有効になりません。

リバースプロキシを使用する環境、または URL が変更になってクライアントからアクセスする URL とサーバー内部の URL が異なる場合は「サイト環境設定ツール」を利用してください。

「サイト環境設定ツール」は、インストールメディアの下記のフォルダに格納されています。

¥Support¥Tools¥サイト環境設定ツール



- ・NX 統合会計を初期インストールする場合



『2.3.2.2 NX 統合会計サーバーコンポーネントの初期インストール』を参照

- ・NX 固定資産管理を初期インストールする場合
- ・NX 人事・給与管理がインストール済の環境に NX 統合会計を追加インストールする場合



『2.3.2.3 サーバーコンポーネントの製品追加(NX 統合会計・NX 固定資産管理)』を参照

- ・NX 統合会計のバージョンアップを行う場合
- ・NX 固定資産管理のバージョンアップを行う場合



『2.3.2.4 サーバーコンポーネントのアップデート(NX 統合会計・NX 固定資産管理)』を参照

- ・NX 共通にパッチ適用する場合
- ・NX 統合会計にパッチ適用する場合
- ・NX 固定資産管理にパッチ適用する場合



『2.3.2.5 サーバーコンポーネントの個別アップデート(NX 共通・NX 統合会計・NX 固定資産管理)』を参照

- ・SuperStream-NX をアンインストールする場合



『2.3.2.6 サーバーコンポーネントのアンインストール』を参照

- ・SuperStream-NX を再インストールする場合

サーバーコンポーネントのインストールを行うと、インストール情報ファイル「InstallSetting.config」が作成されます。本ファイルをインストーラーと同一フォルダに格納した状態で再インストールを行うと、前回インストールしたサーバーと同じパラメータでインストールが行えます。

本機能を利用することで、サーバーの故障やリプレイス時に前回と同じ設定でサーバーコンポーネントのインストールを行うことができるため、利用しているクライアントアプリケーションを再インストールする必要がなくなります。



注意

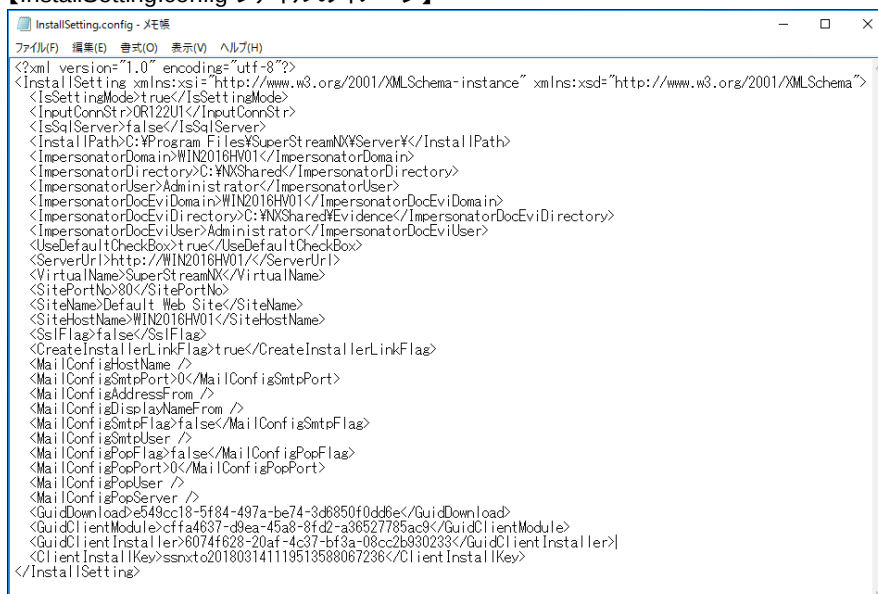
本機能を別サーバーのインストールで使用した場合は、サーバー名等の情報が変更になるため、クライアントインストールが必要になります。

製品追加や、パッチの適用は別途インストールが必要になります。

InstallSetting.config ファイル

- 本ファイルはサーバーコンポーネントのインストール情報ファイルです。
- 本ファイルは「インストール先フォルダ」配下に出力されています。
- 初期インストールで作成され、アップデートで更新されます。
- インストール情報内の「パスワード」「EntryID」「Server レジストリ」は出力されません。
- 使用する際はインストーラーと同一フォルダにコピーしてください。

【InstallSetting.config ファイルのイメージ】



各項目の内容を下記に示します。

項目タグ名	設定内容	アップデート時更新有無
IsSettingMode	InstallSetting.xml の有効無効制御用フラグ	
InputConnStr	接続先 DB	
InputHcmConnStr	人給接続先 DB	
IsSqlServer	SQLServer フラグ (true: SQLServer false: Oracle)	
InstallPath	インストールパス	○
ImpersonatorDomain	共通フォルダアクセスユーザのドメイン	
ImpersonatorDirectory	共通ファイル格納用フォルダ	
ImpersonatorUser	共通フォルダアクセスユーザ	
ImpersonatorDocEviDomain	証憑フォルダアクセスユーザのドメイン	
ImpersonatorDocEviDirectory	証憑ファイル格納用フォルダ	
ImpersonatorDocEviUser	証憑フォルダアクセスユーザ	
UseDefaultCheckBox	証憑フォルダで上記設定の利用有無	
ServerUrl	サーバーURL	○
VirtualName	仮想ディレクトリ名	○
SitePortNo	サイトポート番号	
SiteName	サイト名	○
SiteHostName	サイトホスト名	○
SslFlag	https チェックボックスフラグ	○
CreateInstallerLinkFlag	ポータルサイトダウンロードリンク作成有無*	○
MailConfigHostName	メールホスト名	
MailConfigSmtPort	メールポート番号	
MailConfigAddressFrom	送信元アドレス	
MailConfigDisplayNameFrom	送信元名称	
MailConfigSmtFlag	smtp フラグ	
MailConfigSmtUser	smtp ユーザー	
MailConfigPopFlag	pop フラグ	
MailConfigPopPort	pop ポート番号	
MailConfigPopUser	pop ユーザー	
MailConfigPopServer	pop サーバー	
GuidDownload	ダウンロードキー	○
GuidClientModule	クライアントモジュールフォルダ	○
GuidClientInstaller	クライアントインストーラーフォルダ	○
ClientInstallKey	クライアントインストールキー	○

IIS／アプリケーションの停止と起動

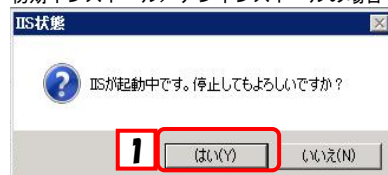
インストーラーの実行時に IIS またはアプリケーションが起動中の場合、停止確認のダイアログが表示されます。

【はい】を押すと停止し、インストールを進めることができます。

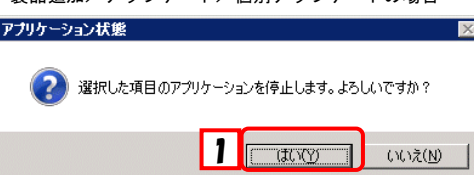
初期インストール／アンインストールの場合は、IIS が対象となります。

製品追加／アップデート／個別アップデートの場合は、セットアップ中のアプリケーションプールが対象となります。

初期インストール／アンインストールの場合



製品追加／アップデート／個別アップデートの場合

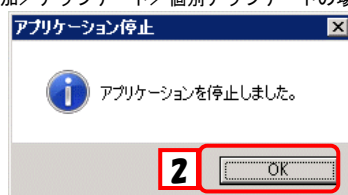


1. 【はい】ボタンをクリック

初期インストール／アンインストールの場合



製品追加／アップデート／個別アップデートの場合



2. 【OK】ボタンをクリック

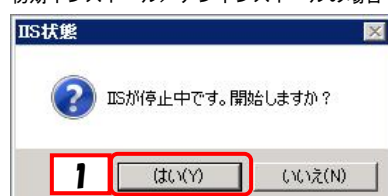
インストーラーの終了時に IIS またはアプリケーションが停止中の場合、起動確認のダイアログが表示されます。

【はい】を押すと起動します。

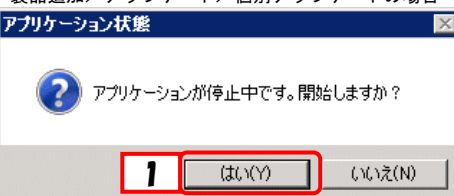
初期インストール／アンインストールの場合は、IIS が対象となります。

製品追加／アップデート／個別アップデートの場合は、セットアップ中のアプリケーションプールが対象となります。

初期インストール／アンインストールの場合



製品追加／アップデート／個別アップデートの場合

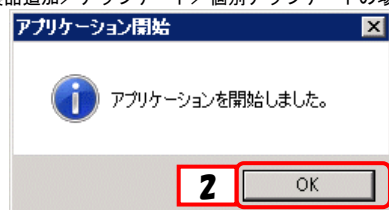


1. 【はい】ボタンをクリック

初期インストール／アンインストールの場合

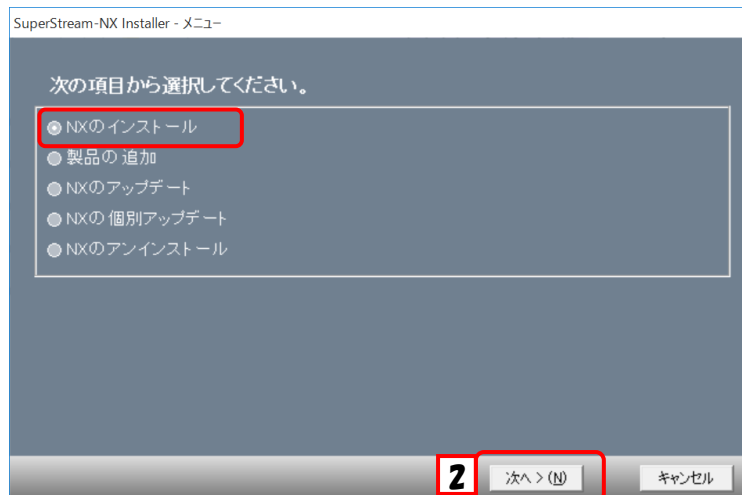


製品追加／アップデート／個別アップデートの場合



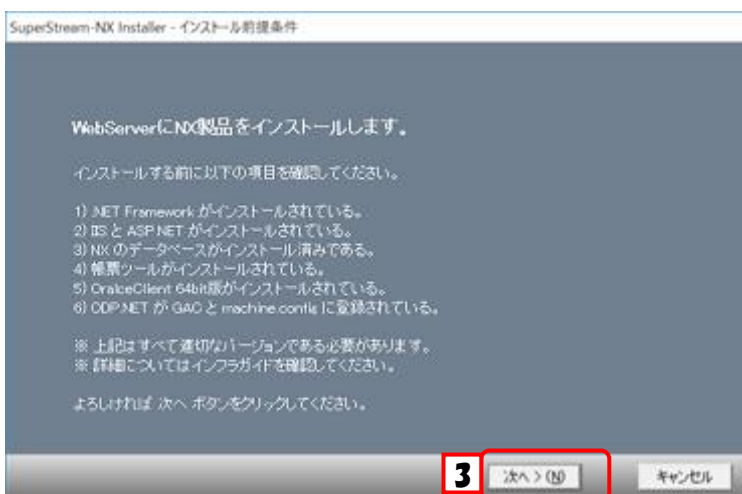
2. 【OK】ボタンをクリック

2.3.2.2 NX 統合会計サーバーコンポーネントの初期インストール

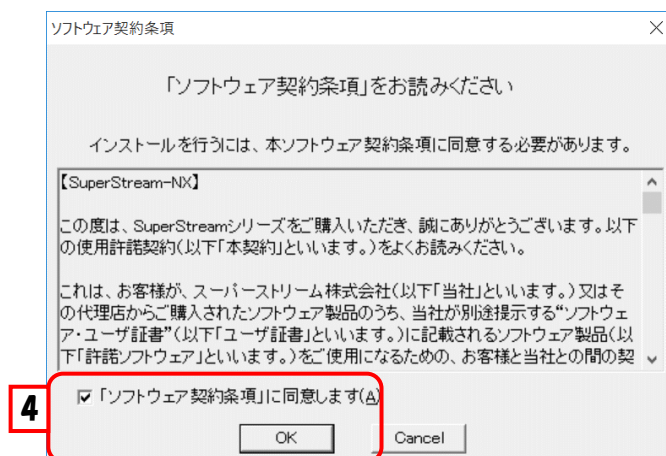


SuperStream-NXが既にインストールされている場合のみ表示されます。

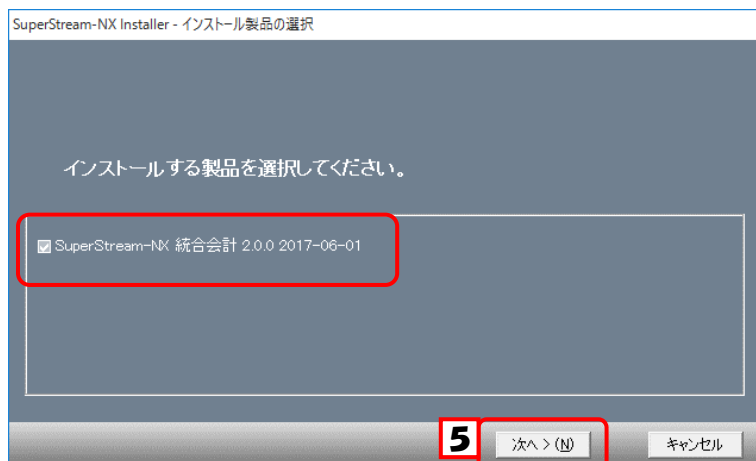
1. インストールCDのSetupフォルダ内のWebフォルダをアプリケーションサーバー（ローカル）にコピーし、Webフォルダ内の[Setup.exe]を管理者として実行
⇒ SuperStream-NXサーバーインストーラーが起動する
2. [NXのインストール]を選択後、【次へ】ボタンをクリック



3. インストールの前提条件を確認後、【次へ】ボタンをクリック



4. [「ソフトウェア契約条項」に同意します]をチェック後、【OK】ボタンをクリック

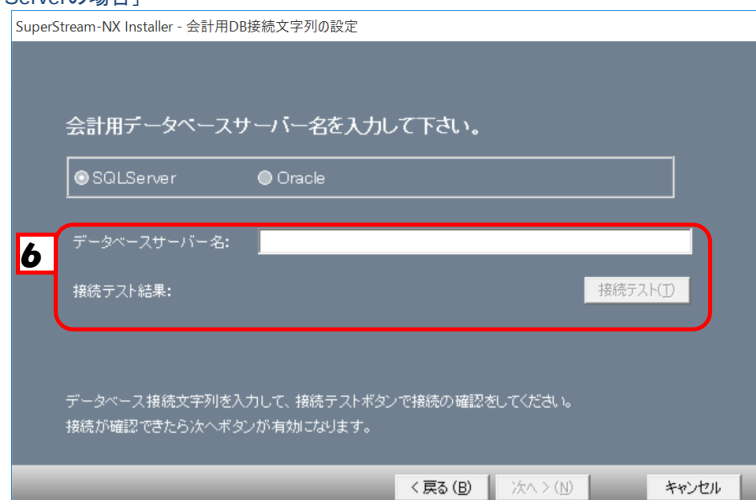


5. インストールする製品を選択後、
【次へ】ボタンをクリック



NX共通製品も同時にインストールされます。

[SQL Serverの場合]



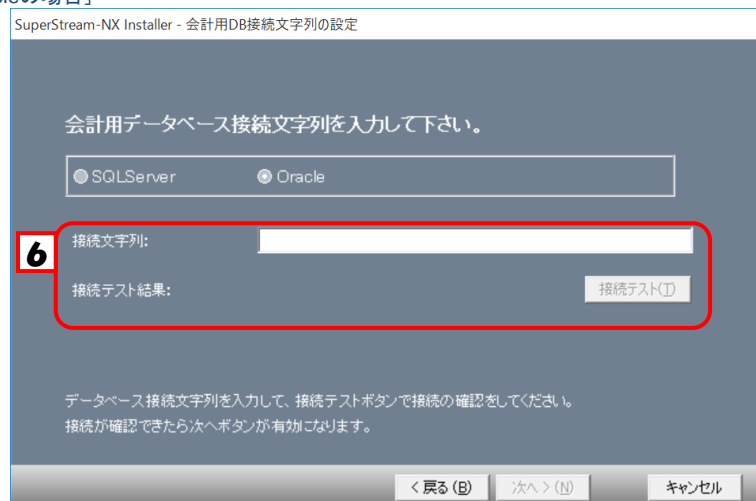
6. 接続するデータベースおよびデータベースインスタンスへの接続情報を設定後、【接続テスト】ボタンをクリック
⇒接続が確認されるとメッセージが表示される

- SQL Serverの場合



注意
サーバー名は「コンピュータ名¥インスタンス名」を入力します。

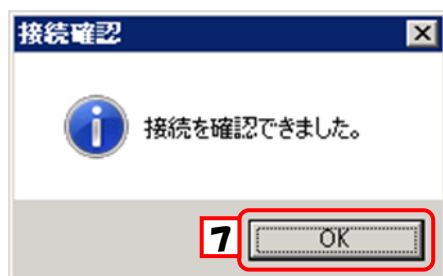
[Oracleの場合]



- Oracleの場合



注意
接続文字列は、Net Managerなどで設定する「サービス・ネーミング」に登録されているものを入力します。



7. 【OK】ボタンをクリック

[SQL Serverの場合]

SuperStream-NX Installer - 会計用DB接続文字列の設定

会計用データベースサーバー名を入力して下さい。

☒ SQLServer ☐ Oracle

データベースサーバー名: SSNXSQLDB01

接続テスト結果:

データベース接続文字列を入力して、接続テストボタンで接続の確認をしてください。
接続が確認できたら次へボタンが有効になります。

< 戻る **8** キャンセル

8. 【次へ】ボタンをクリック

- SQLServerの場合

[Oracleの場合]

SuperStream-NX Installer - 会計用DB接続文字列の設定

会計用データベース接続文字列を入力して下さい。

☐ SQLServer ☒ Oracle

接続文字列: SSNXORADB01

接続テスト結果: 会計用ユーザー: 接続成功

データベース接続文字列を入力して、接続テストボタンで接続の確認をしてください。
接続が確認できたら次へボタンが有効になります。

< 戻る **8** キャンセル

- Oracleの場合

SuperStream-NX Installer - インストールフォルダの選択

インストール先のフォルダ

C:\Program Files\SuperStreamNX\Server

下記のフォルダにインストールされます。
C:\Program Files\SuperStreamNX\Server\

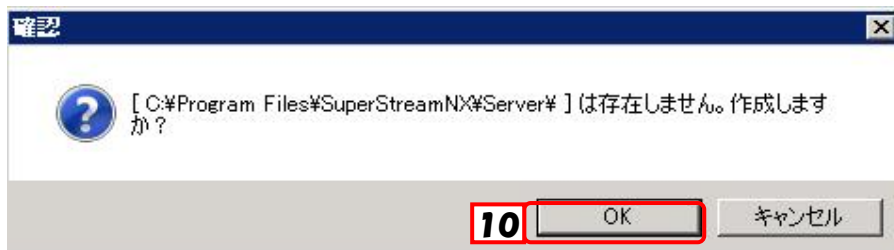
< **9** キャンセル

9. サーバーコンポーネントのインストールフォルダを指定後、【次へ】ボタンをクリック



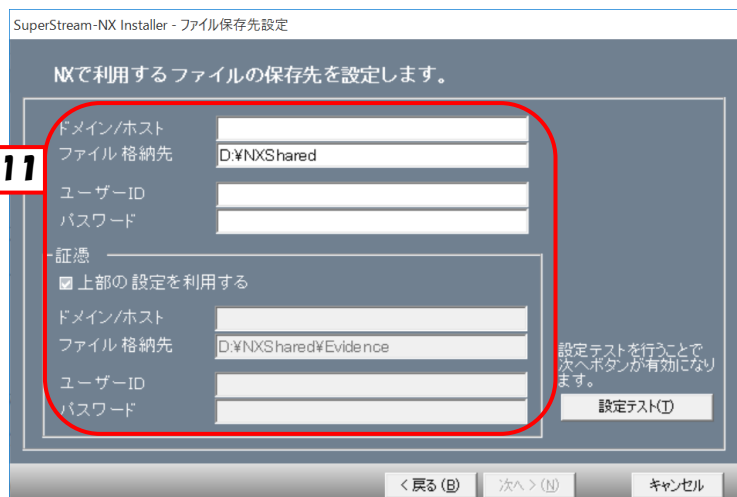
注意

インストール実行ユーザーのアクセス権（書込み権限）のあるフォルダを指定します。



インストール先フォルダが存在しない場合に
表示されます。

10. 【OK】ボタンをクリック



11. アプリケーションファイルの保存先と接続するOSユーザー情報を入力。また、証憑ファイルの保存先と接続するOSユーザー情報を入力後、【設定テスト】ボタンをクリック ⇒接続が確認されるとメッセージが表示される

[ドメイン/ホスト]

- ローカルユーザーを指定する場合は、ホスト名を設定
- ドメインユーザーを指定する場合は、ドメイン名を設定

[ファイル格納先]

共通ファイル、証憑ファイル格納用フォルダを指定



証憑欄の[上部の設定を利用する]がチェックされている場合、[ドメイン/ホスト][ユーザーID][パスワード]は上部の設定を証憑用フォルダにも適用します。
ファイル格納先は「D:\NXShared」(Dドライブが存在しない場合は「C:\NXShared」)が初期表示されます。存在する任意のフォルダを指定することが可能です。
証憑欄の[ファイル格納先]は上部で指定したフォルダの「Evidence」サブフォルダとなります。フォルダ名は変更できません。このフォルダは[設定テスト]をクリックしたときに作成されます。



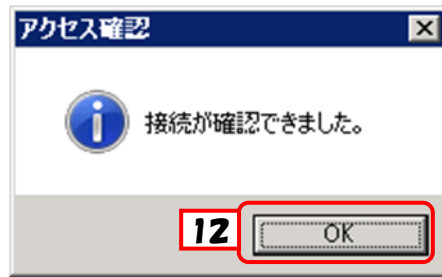
2016-11-01版で利用していたフォルダを利用する場合は、[上部の設定を利用する]のチェックを外し、各入力項目に値を入力してください。



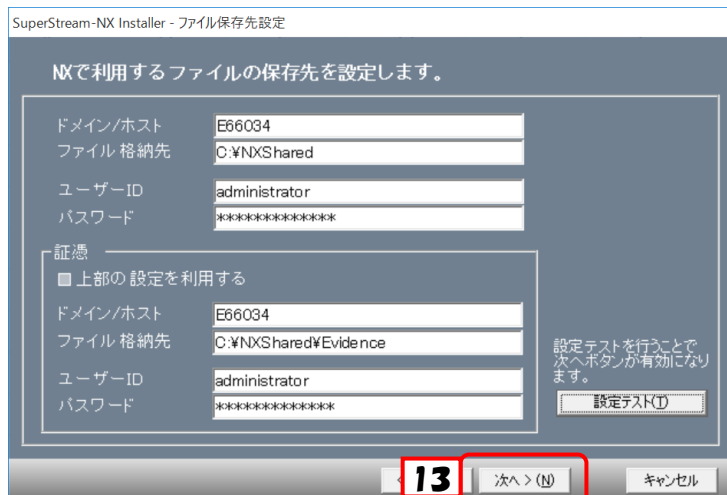
注意
ファイル格納先に隠しフォルダを設定することはできません。
証憑用の「Evidence」フォルダが作成された後に、ファイル格納先を変更した場合、作成された「Evidence」フォルダは手動で削除する必要があります。



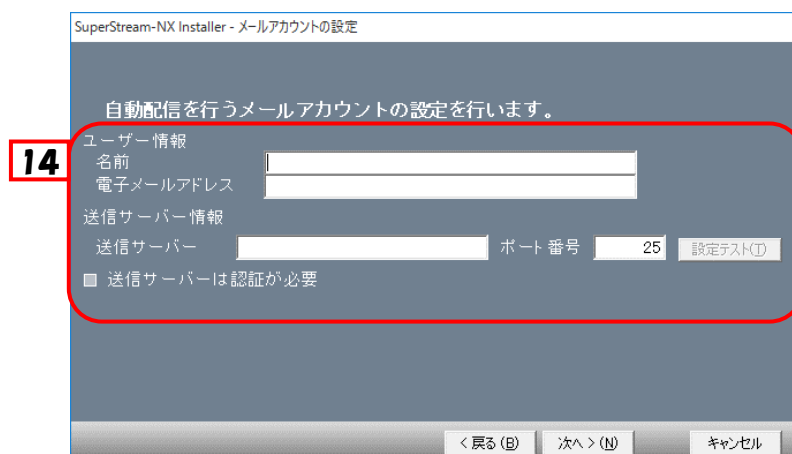
共通ファイル、証憑ファイル格納用フォルダの詳細については、『2.3.2 アプリケーションサーバーの設定』のポイントを参照



12. 【OK】ボタンをクリック



13. 【次へ】ボタンをクリック

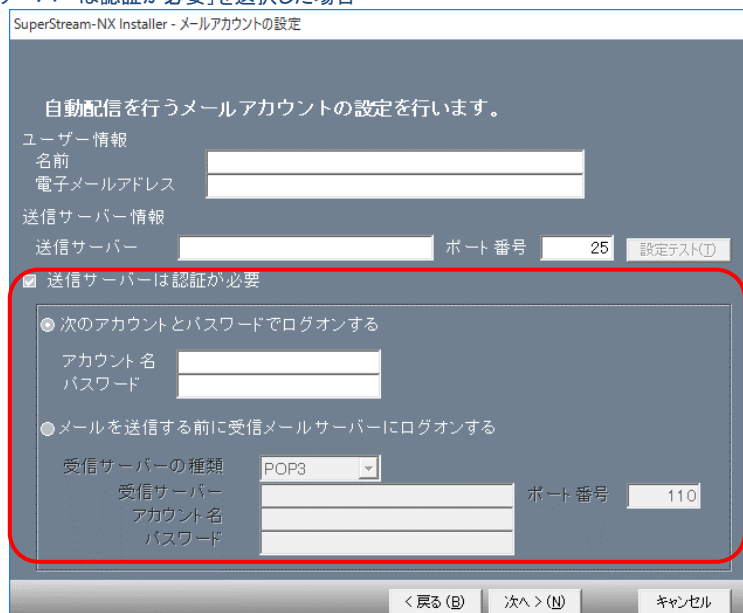


14. 自動配信するメールサーバーとアカウント情報を入力後、【設定テスト】ボタンをクリック

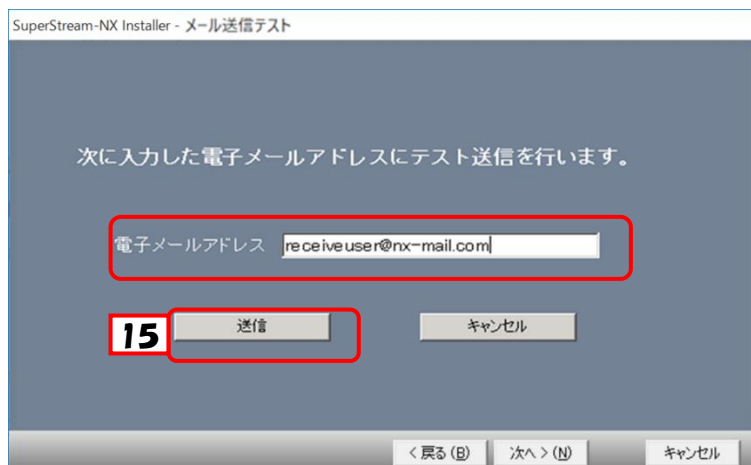


メールの設定を行わない状態で次のステップに進むことができます。
メール関連の設定は後から行うことも可能です。
その場合は製品出荷CD内の暗号化ファイル作成ツールを用います。
使用方法は下記のフォルダにあるドキュメントを参照してください。
(Support¥Tools¥暗号化ファイル作成ツール)

[送信サーバーは認証が必要]を選択した場合

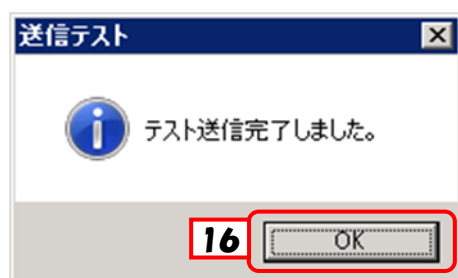



注意
認証が必要な場合は、[送信サーバーは認証が必要]を選択します。

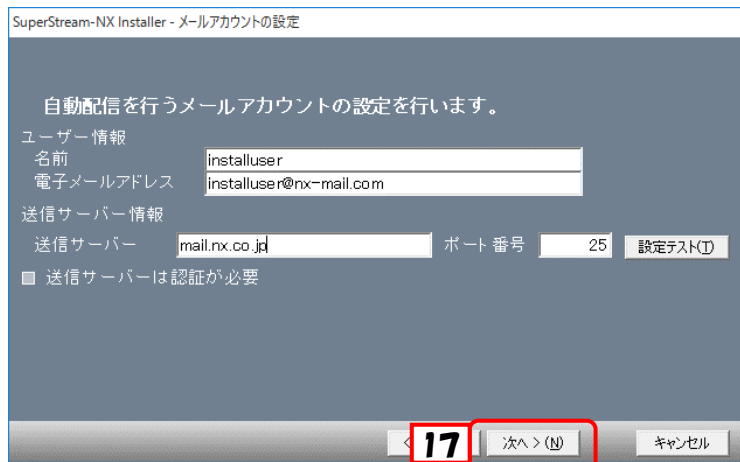



メールの設定をした場合に表示されます。

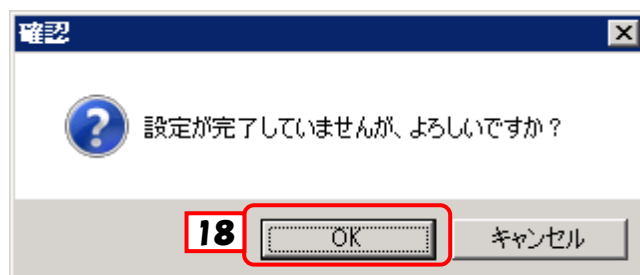
15. 送信先の電子メールアドレスを指定後、【送信】ボタンをクリック
⇒ 指定した電子メールアドレスにメールが送信される



16. 【OK】ボタンをクリック



17. 【次へ】ボタンをクリック



画面の必須項目が設定されていないか、
[設定テスト]を実行していない場合に確認
ダイアログが表示されます。

18. 【OK】ボタンをクリック

19. IISの設定情報を入力後、
【設定テスト】ボタンをクリック
⇒メッセージが表示される

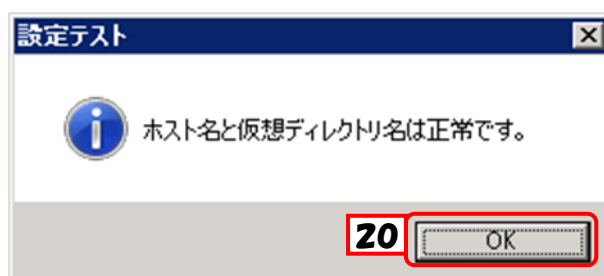
- サイトの選択
- サイトポート番号
- SSL設定
- サイトのホスト名
- 仮想ディレクトリ名



注意
インストール時点でドメイン名を登録してい
ない場合、ホスト名を設定してください。
IPアドレスで利用したい場合は、サイト環境
設定ツールで変更を行ってください。



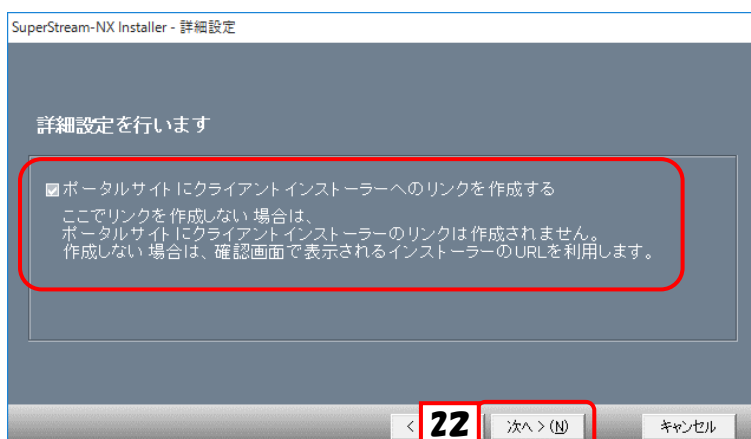
SaaS版として作成する場合に、SSL設定
チェックボックスをONにして各項目に以下
の設定を行います。
サイトの選択: 作成したSaaS用のサイト
サイトのポート番号: バインドしたhttps
プロトコルのポート番号
サイトのホスト名: 選択したサイト名



20. 【OK】ボタンをクリック



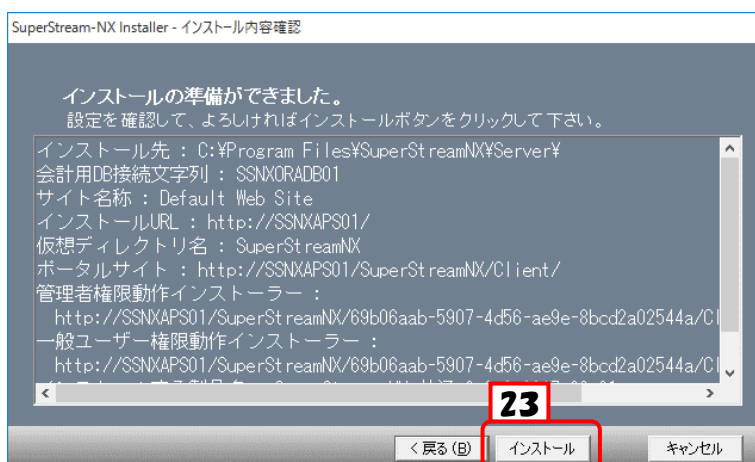
21. 【次へ】ボタンをクリック

22. 必要な設定にチェック後、
【次へ】ボタンをクリック

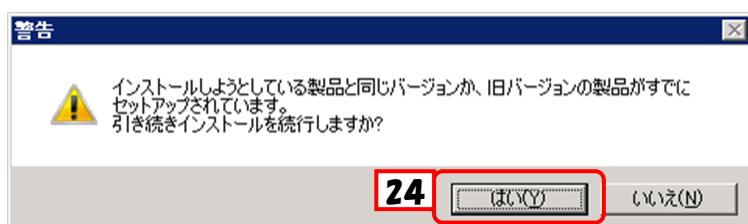
チェックを付けた場合、ポータルサイトにクライアントインストーラーのリンクが作成され、「管理者権限動作インストーラー」「一般ユーザー権限動作インストーラー」の2種類のインストーラーがダウンロードできるようになります。リンクを作成しなかった場合はインストーラーへのURLを直接指定してダウンロードする必要があります。



注意
インストールするサイトがクラウド環境の場合はリンクを作成しないことを推奨します。リンクを作成するとポータルサイトから認証なしにクライアントインストーラーをダウンロードできるようになります。

23. インストール内容を確認後、
【インストール】ボタンをクリック
⇒インストールが開始される

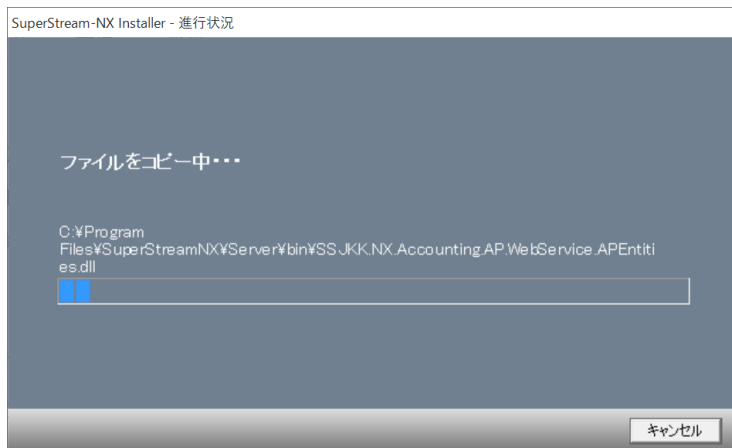
クライアントインストーラーのリンクを作成しない場合、画面に表示しているインストーラーのURLを利用者に伝える必要がありますのでURLをコピーして保存してください。クライアントインストーラーのURLは、インストール先のフォルダに出力される「Install.log」ログファイルにも出力されます。



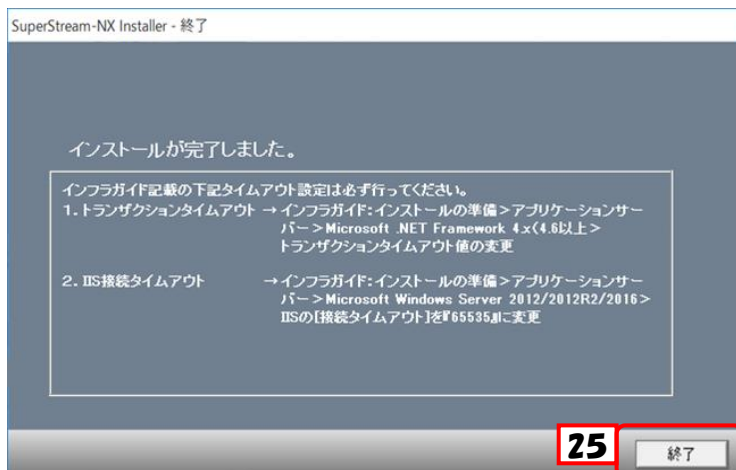
24. 【はい】ボタンをクリック



接続先に既にインストール済のサイトが存在する場合に、同一データベース上に複数のサイトをインストールするかの確認ダイアログが表示されます。



インストールを中断する場合は、
【キャンセル】ボタンをクリックします。



25. 【終了】ボタンをクリック



共通

SuperStream-NX サーバーインストーラーでは、サイト作成の情報を ApplicationHost.config に書き込みます。

ApplicationHost.config がクラッシュした場合にも復旧できるように、appcmd.exe の Backup オブジェクトを使用して、Web サーバーのインストール前のファイル(下記)をバックアップしています。

- Administration.config
- ApplicationHost.config
- redirection.config
- MBSchema.xml
- MetaBase.xml

Web インストーラーを実行するたびに、その時点のファイルをバックアップします。

- バックアップ先
%windir%\¥System32¥inetsrv¥backup¥
- バックアップフォルダ名
"superstreamNX"+"インストール日付 (yyyyMMddhhmmss) " + "-" +
"仮想ディレクトリ名"
例: superstreamNX20090817175005-TestSite

IIS 既定の Web ページ(iisstart.htm)は、不要な場合削除してください。

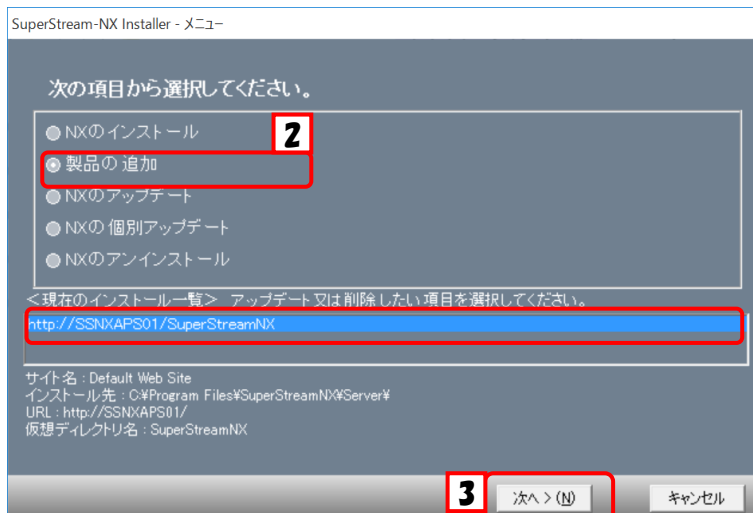
サーバーコンポーネントのインストールを行うと、"インストール先フォルダ"配下に InstallSetting.config ファイルが作成されます。本ファイルを利用することで、サーバーの故障やリプレイス時にサーバーコンポーネントの再インストールを行うことができます。

本ファイルを別サーバー等へ退避しておくことを推奨します。



『2.3.2.1 SuperStream-NX を再インストールする場合』を参照

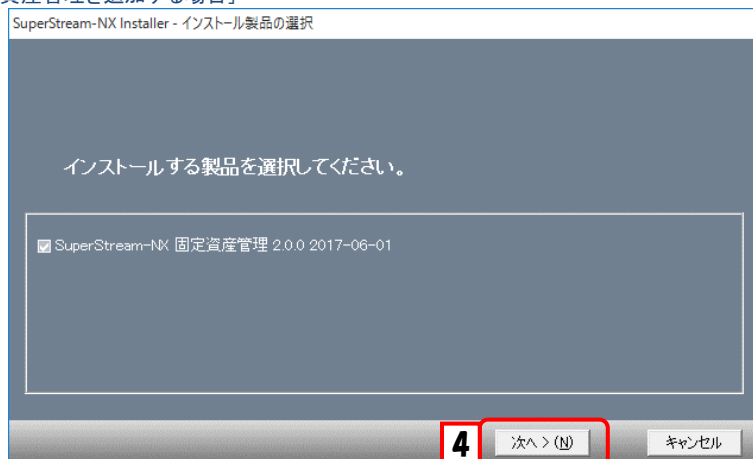
2.3.2.3 サーバコンポーネントの製品追加（NX 統合会計・NX 固定資産管理）



注意
実行する前に インストール先フォルダのバックアップを行ってください。

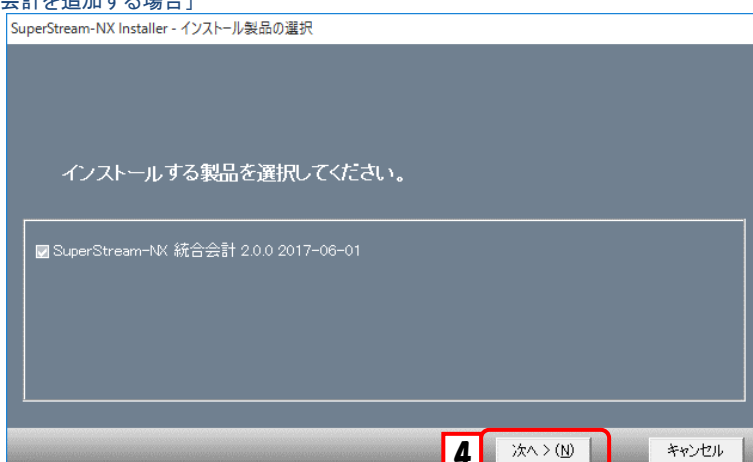
1. インストールCD内のSetupフォルダをアプリケーションサーバー（ローカル）にコピーし、[Setup.exe]を管理者として実行
⇒SuperStream-NXサーバーインストーラーが起動する
2. [製品の追加]を選択
3. 現在のインストーラー一覧から製品を追加する項目を選択後、【次へ】ボタンをクリック

[固定資産管理を追加する場合]

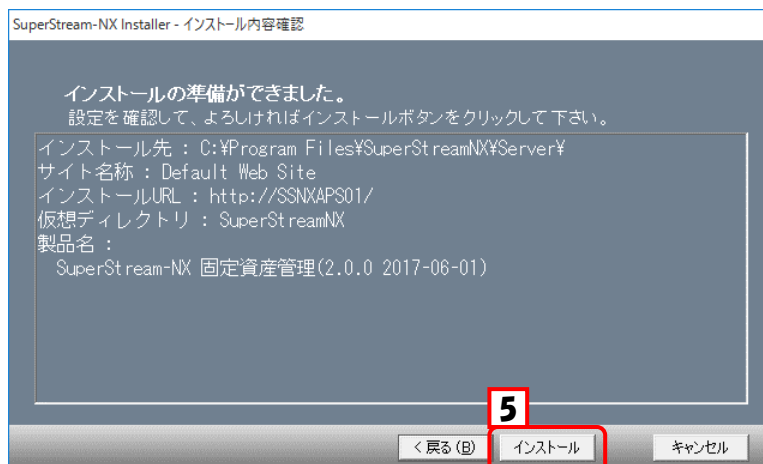


4. 追加する製品を選択後、【次へ】ボタンをクリック

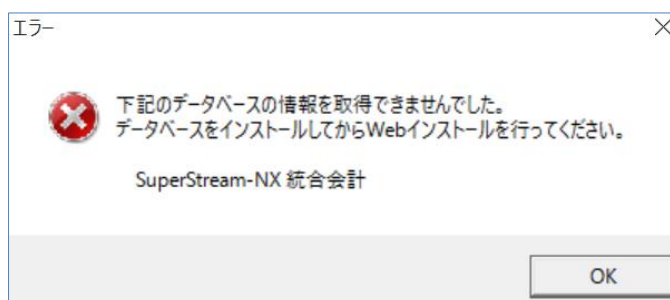
[統合会計を追加する場合]



人事・給与管理がインストール済の環境に統合会計を追加することができます。



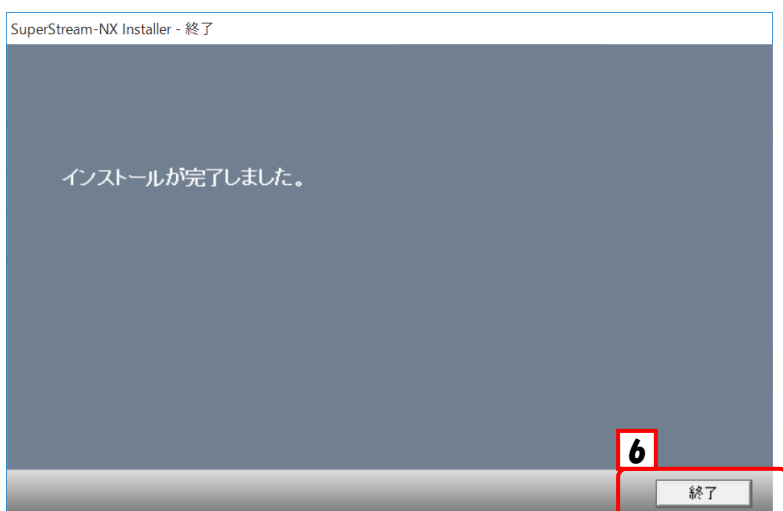
5. インストール内容を確認後、
【インストール】ボタンをクリック
⇒インストールが開始される



 **注意**
追加する製品のデータベースがインストールされていない場合はエラーダイアログが表示し、インストールを中断します。データベースのインストールを先に行ってください。



インストールの進行状況が表示される



6. インストールが完了後、【終了】ボタンをクリック

2.3.2.4 サーバコンポーネントのアップデート（NX 統合会計・NX 固定資産管理）



注意



ポイント

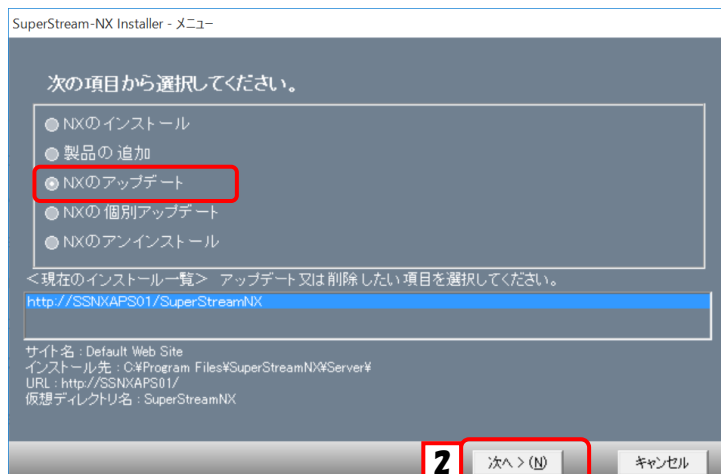


注意

- ・アプリケーションサーバーを 2016-11-01 版から 2017-06-01 版にバージョンアップする場合は、NX のアップデートではなく、NX を新規にインストールしてください。
- ・イントラネット版から SaaS 版へのサーバコンポーネントのアップデートはできません。
- ・出荷バージョンより後に提供された前バージョンパッチを適用している場合、アップデート後に正常動作しないことがあります。必ず、出荷バージョンの最新パッチを適用してください。

- ・2014-12-01 版以降では、証憑ファイルを他の共通ファイルとは別に管理できます。証憑ファイル格納用フォルダの詳細については、『2.3.2 アプリケーションサーバーの設定』のポイントを参照してください。

アプリケーションサーバーを 2018-06-01 版から 2019-10-01 版にバージョンアップする場合は、事前に『2.2.2 アプリケーションサーバー』を確認して必要な機能をインストールしてください。

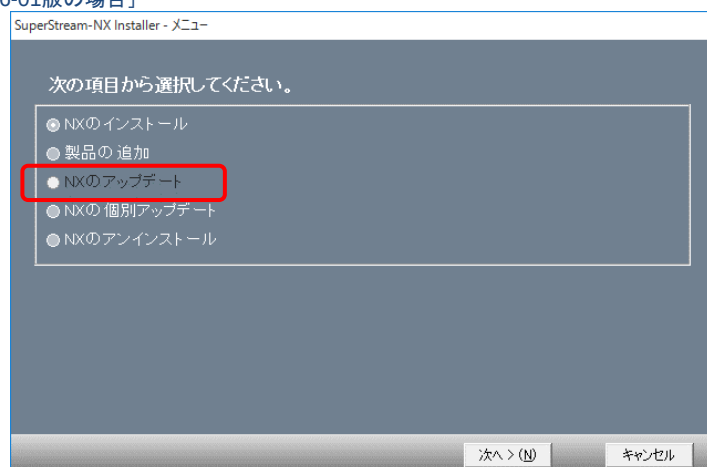


注意

実行する前に インストール先フォルダのバックアップを行ってください。

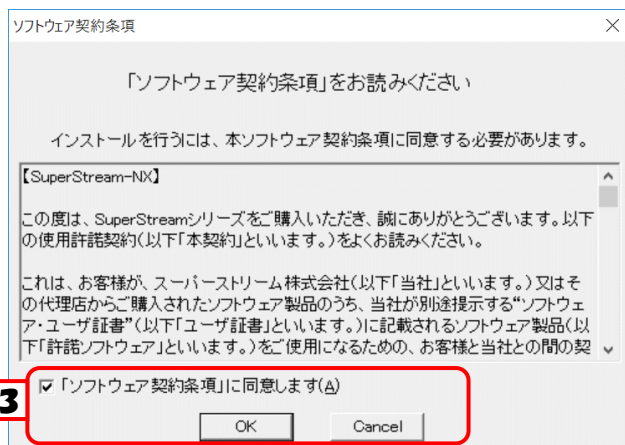
1. インストールCD内の Setup フォルダをアプリケーションサーバー（ローカル）にコピーし、[Setup.exe] を管理者として実行
⇒ SuperStream-NX サーバーインストーラーが起動する
2. [NXのアップデート] を選択後、【次へ】ボタンをクリック

[2017-06-01版の場合]



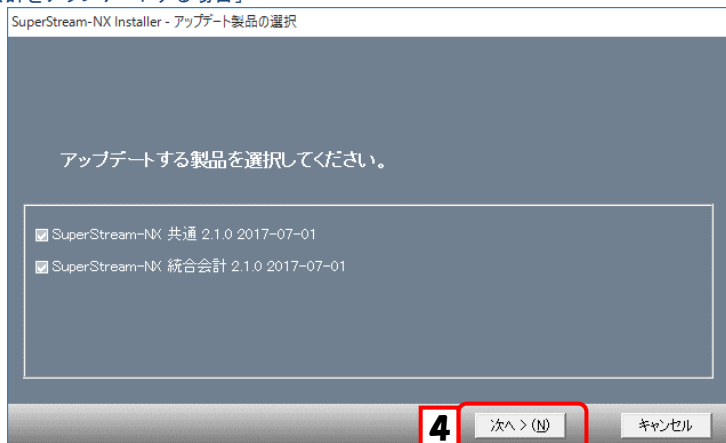
注意

2017-06-01 版では [NXのアップデート] メニューは無効化されています。



3. [「ソフトウェア契約条項」に同意します] をチェック後、【OK】ボタンをクリック

[統合会計をアップデートする場合]

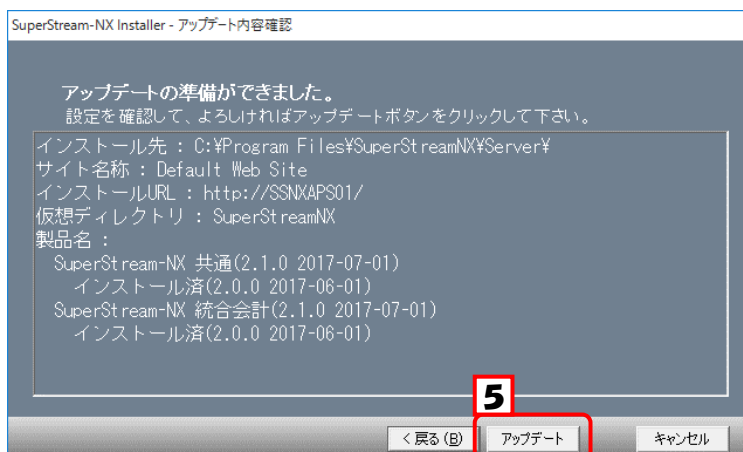
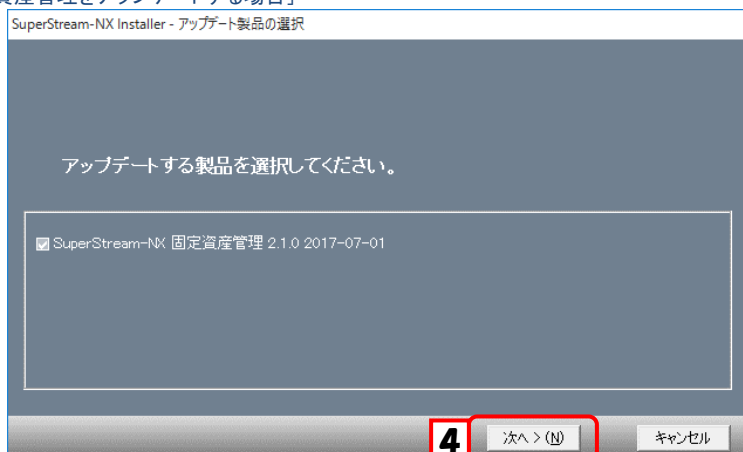


4. アップデートする製品を選択後、
【次へ】ボタンをクリック



統合会計のアップデート時はNX共通もアップデートします。

[固定資産管理をアップデートする場合]

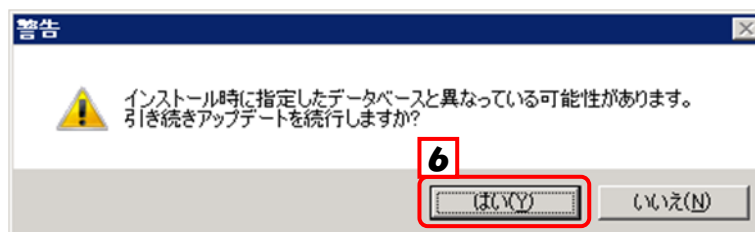
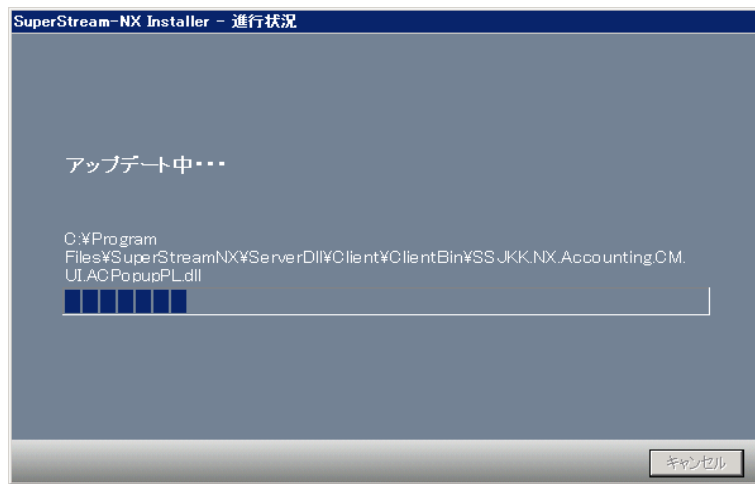


5. アップデート内容を確認後、
【アップデート】ボタンをクリック
⇒アップデートが開始される



注意
インストール済のバージョンを確認した上でアップデートを実行してください。

アップデートの進行状況が表示される



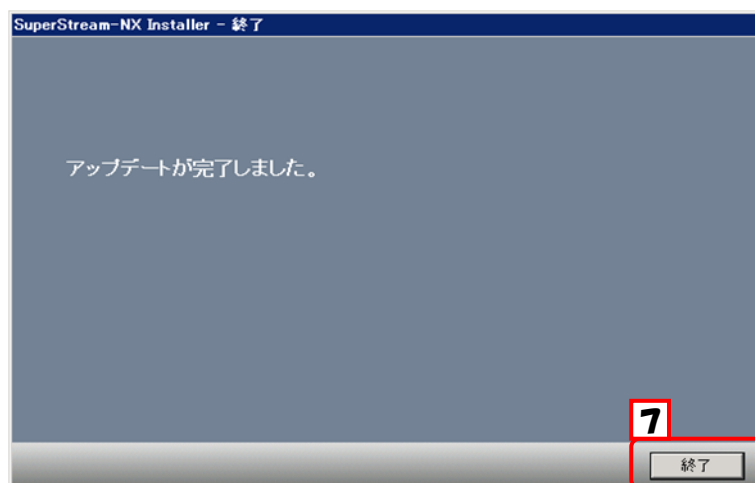
注意

元々サイトが接続していたデータベースが変更された場合など、インストール情報マスタに該当のサイトのデータが存在しない場合は、左のダイアログが表示されます。

【はい】をクリックした場合は、アップデートを開始します。

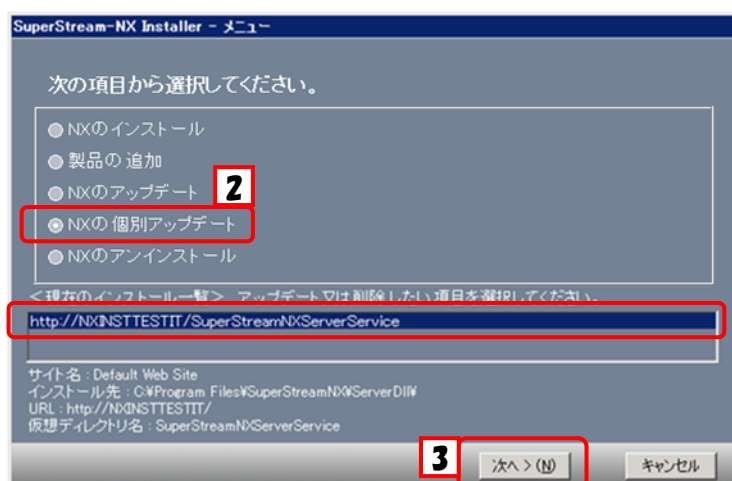
【いいえ】をクリックした場合は、アップデートを中断します。

6. 【はい】ボタンをクリック



7. アップデートが完了後、【終了】ボタンをクリック

2.3.2.5 サーバコンポーネントの個別アップデート (NX 共通・NX 統合会計・NX 固定資産管理)



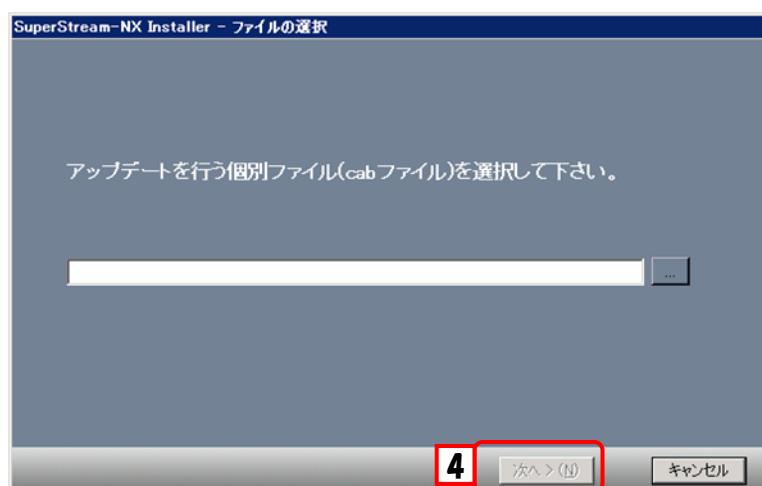
注意

実行する前に インストール先フォルダのパックアップを行ってください。

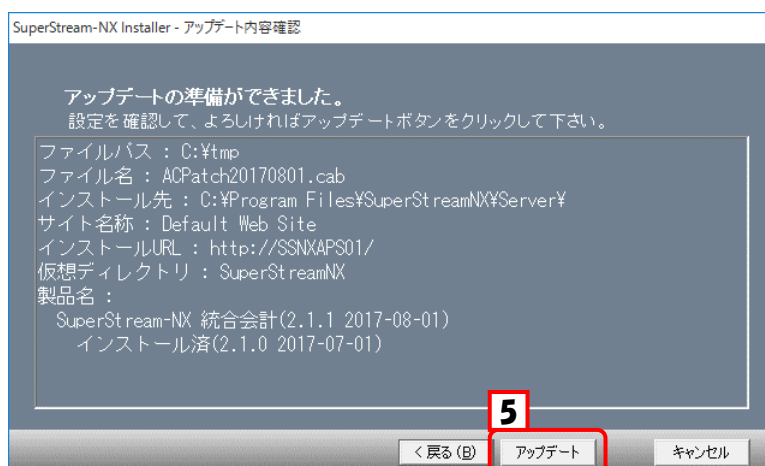
1. パッチモジュールを解凍後、Patchフォルダをアプリケーションサーバー（ローカル）にコピーし、
¥Patch¥Web¥Setup内にある
[Setup.exe]を管理者として実行
⇒SuperStream-NXサーバー
インストーラーが起動する

2. [NXの個別アップデート]を選択

3. 現在のインストーラー一覧から個別アップデートする項目を選択後、【次へ】ボタンをクリック



4. 参照ボタンで、アップデートするファイル(*.cab)を指定後、【次へ】ボタンをクリック



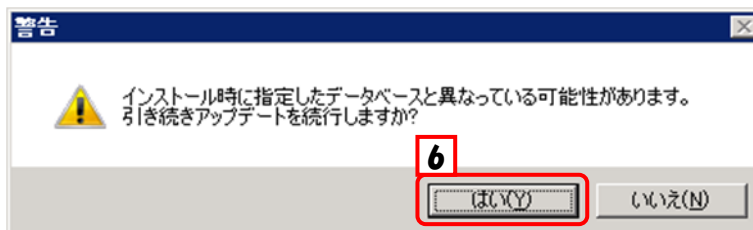
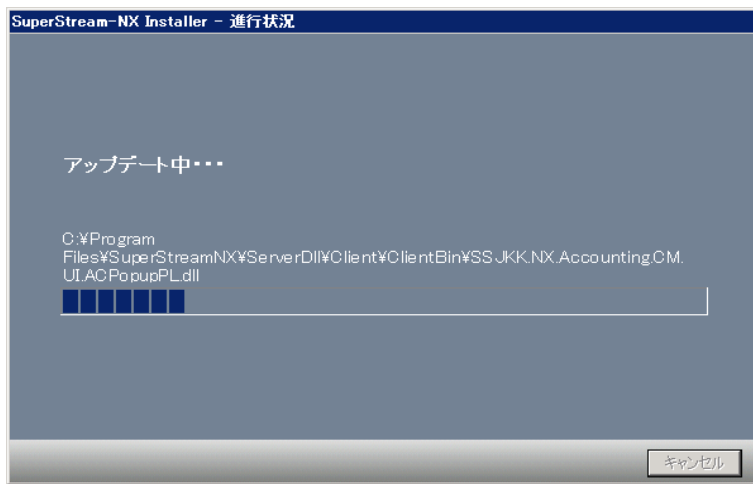
5. アップデート内容を確認後、【アップデート】ボタンをクリック
⇒アップデートが開始される



注意

インストール済のバージョンを確認した上でアップデートを実行してください。

アップデートの進行状況が表示される

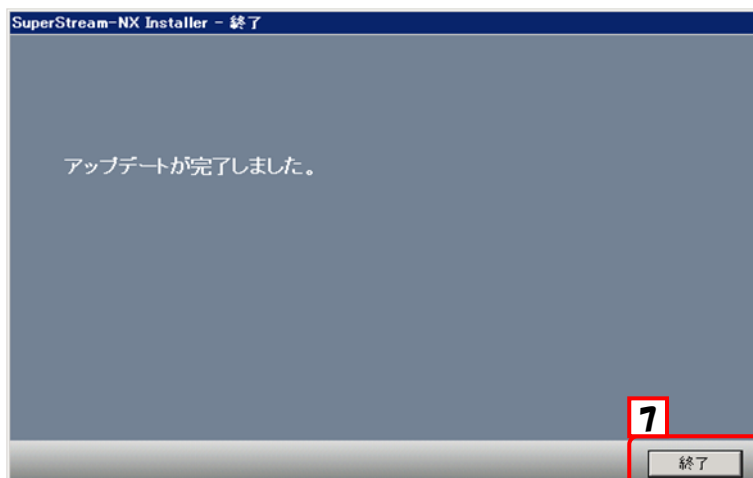


注意

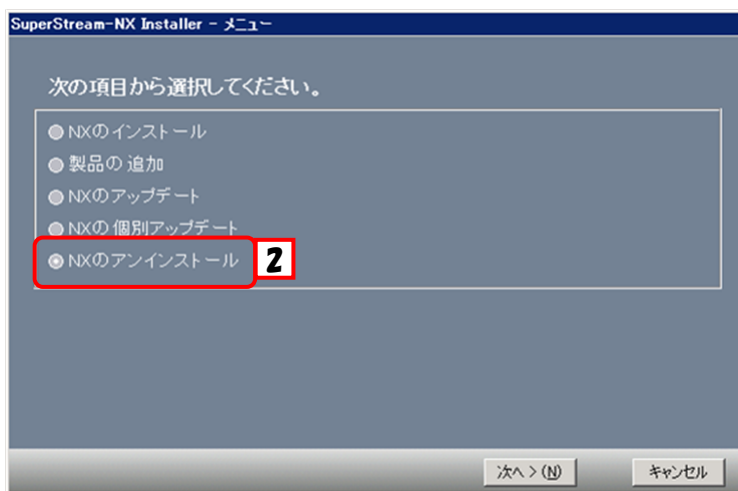
元々サイトが接続していたデータベースが変更された場合など、インストール情報マスタに該当のサイトのデータが存在しない場合は、左のダイアログが表示されます。
【はい】をクリックした場合は、アップデートを開始します。
【いいえ】をクリックした場合は、アップデートを中断します。

6. 【はい】ボタンをクリック

7. アップデートが完了後、【終了】ボタンをクリック

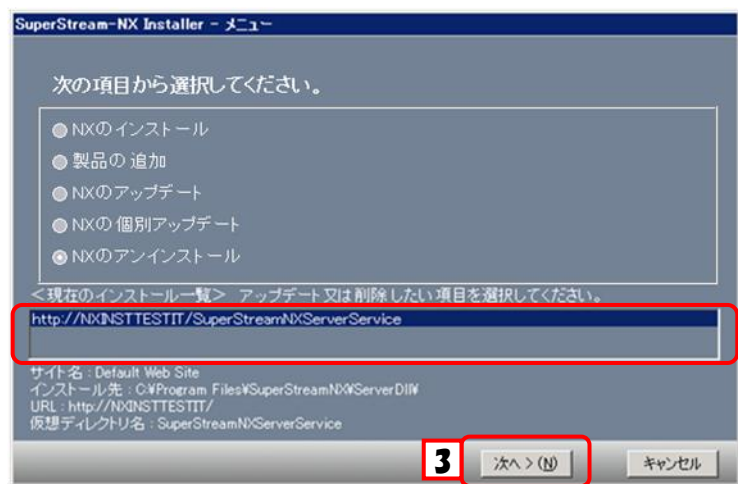


2.3.2.6 サーバコンポーネントのアンインストール

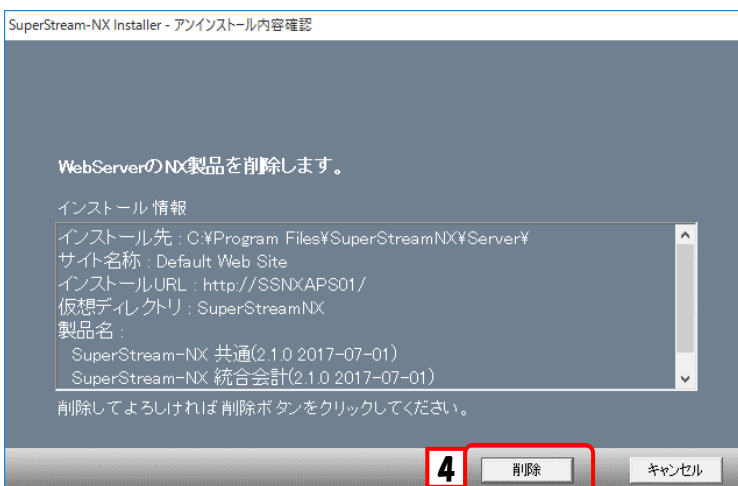


1. インストールCD内のSetupフォルダをアプリケーションサーバー(ローカル)にコピーし、[Setup.exe]を管理者として実行
⇒SuperStream-NXサーバーインストーラーが起動する

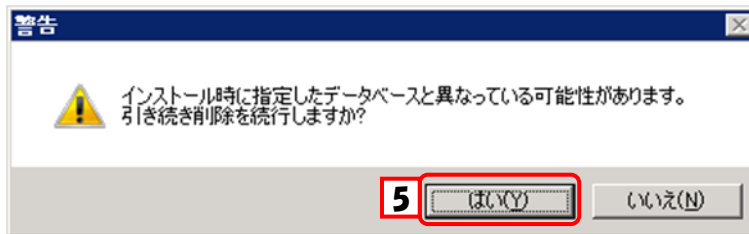
2. [NXのアンインストール]を選択



3. 現在のインストーラー一覧から削除する項目を選択後、【次へ】ボタンをクリック



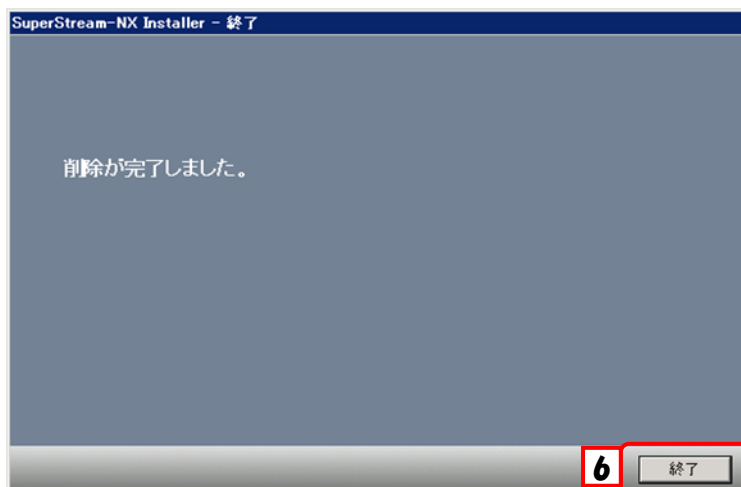
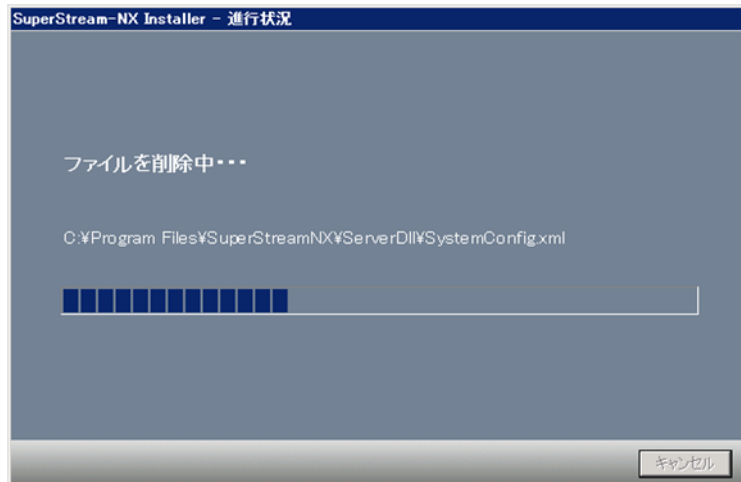
4. アンインストールの内容を確認後、【削除】ボタンをクリック



注意
元々サイトが接続していたデータベースが変更された場合など、インストール情報マスタに該当のサイトのデータが存在しない場合は、左のダイアログが表示されます。
【はい】をクリックした場合は、アンインストールを開始します。
【いいえ】をクリックした場合は、アンインストールを中断します。

5. 【はい】ボタンをクリック

アンインストールの進行状況が表示される

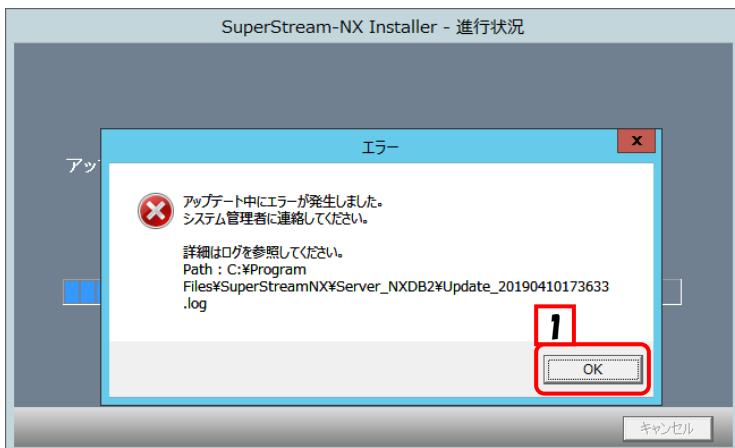


6. 削除が完了後、【終了】ボタンをクリック

2.3.2.7 インストールエラー（製品追加、アップデート、個別アップデート）

インストール中にエラーが発生した場合

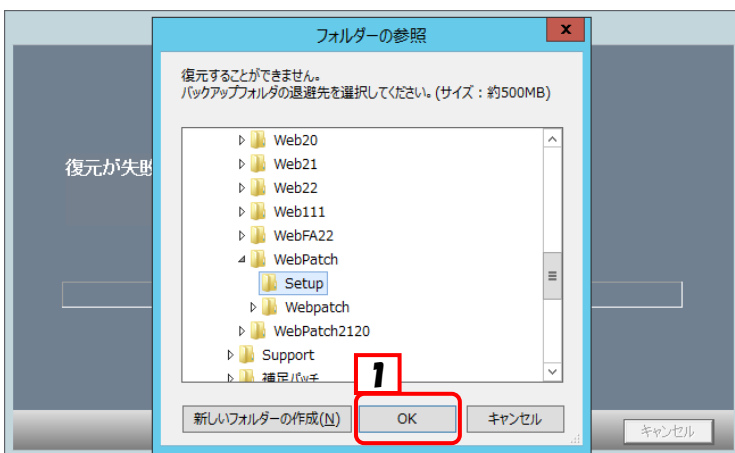
インストール中にエラーが発生すると、インストールを中断します。エラーの内容を確認し、適切に対処する必要があります。



1. エラー メッセージボックスで、【OK】ボタンをクリック



【OK】ボタンをクリックすると、内部的に行っていたバックアップからインストール前の状態に復元が行われます。一度終了し、ログファイルからエラー原因を特定して対処してください。その後、最初からやり直してください。

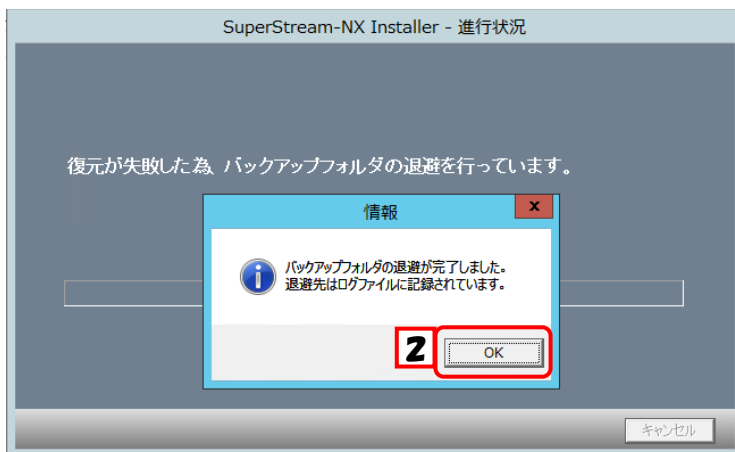


復元に失敗した場合
(インストールフォルダのファイルが使用中等の理由で、内部的に行われる復元が失敗した場合)

1. バックアップの退避先となる任意のフォルダを選択して、【OK】ボタンをクリック



インストールされたプロダクト数に比例して、数秒～数分のコピー時間が掛かります。



2. 【OK】ボタンをクリック
⇒処理が終了する



一度終了し、ログファイルからエラー原因を特定して対処してください。バックアップ退避先からインストールフォルダに手動コピーして復元を行ってください。その後、最初からやり直してください。

3. 各種機能

3.1 バックアップ機能

この章では、SuperStream-NX バックアップツールによるバックアップについて説明します。

バックアップの種類や頻度などのバックアップ方針は、導入先企業のポリシーやシステム環境によって異なるため、適宜検討の上決定してください。

SuperStream-NX バックアップツールは、SuperStream-NX データベースから指定したデータのエクスポート/インポートを行うツールです。ツールは画面形式とバッチ形式で構成されています。

使用前の準備として、インストール CD の Support フォルダ内にある BackupTool フォルダを、任意の場所にコピーしてください。BackupTool フォルダ内に実行ファイルが格納されています。

・バックアップツールは、フォルダ名にスペース・全角文字を含まないフォルダへモジュールを配置してください。

・Oracle12.1 プラガブルデータベースのバックアップを行う場合は、デフォルトのバックアップディレクトリ「DATA_PUMP_DIR」の再作成を行ってください。この操作を行わなかった場合、バックアップツールが異常終了する場合があります。

例)

DROP DIRECTORY DATA_PUMP_DIR;

CREATE or REPLACE DIRECTORY DATA_PUMP_DIR as 'C:\¥任意フォルダ名';

・Oracle12.2 / 18.3 プラガブルデータベースのバックアップは行えません。

Oracle12.2 / 18.3 でバックアップツールを使用する場合は、通常のデータベースでの運用を行ってください。



注意

・バックアップ元とインポート先の製品バージョンおよび導入状況が異なる場合、正常に動作しなくなる場合があります。環境を合わせた上で実行して下さい。

・バックアップツールで[会社コードがないテーブルも対象とする]にチェックをつけてエクスポートしたデータを、バックアップ元とは異なるデータベースにインポートした場合、SuperStream-NX へのログイン時に『指定されたユーザーではメニューの表示はできません。』

のエラーが発生します。

この場合、「サイト環境設定ツール」を利用して EntryID の値をレジストリとデータベースで一致させてください。

「サイト環境設定ツール」は、インストールメディアの下記のフォルダに格納されています。

¥Support¥Tools¥サイト環境設定ツール

本章では、下記の表記で記載します。

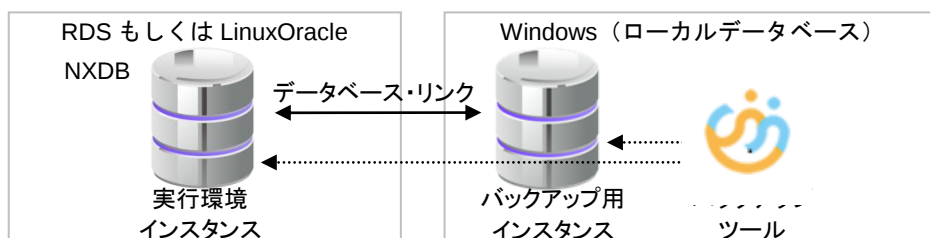
- Amazon Relational Database Service for Oracle Database を RDS と表記します。
- Linux 上の Oracle 環境を LinuxOracle 環境と表記します。
- 上記2環境を動作させるために必要な WindowsServer 上の Oracle 環境をローカルデータベースと表記します。

データベースサーバーOS が Windows の場合

- バックアップツールはデータベースサーバー上で実行してください。

RDS もしくは LinuxOracle 環境の場合（DBMS が Oracle の場合）

- 本ツールは Windows アプリケーションのため、RDS もしくは LinuxOracle 環境では実行できません。これらの環境でバックアップを行なうには、Windows 環境で動作する Oracle Database 11.2 / 12c のインスタンスが別途必要となります。バックアップツールは、ローカルデータベースを介して RDS もしくは LinuxOracle 環境に対してデータベース・リンクでやり取りを行ないます。



注意



複数のデータベースサーバー（インスタンス）に対してバックアップを行う場合は、ローカルデータベースのインスタンスとデータベースサーバーが1対1になるように、データベースサーバー数分のインスタンスをローカルデータベースに作成する必要があります。

ローカルデータベースは、インスタンスの作成のみ行ないます。
データベース・リンクはバックアップツール内部で作成されます。



コンポーネント

最低限下記2つのコンポーネントが必要です。

- ※ Oracle Net
- ※ Oracle Database11.2.0.4を使用する場合: Oracle Data Provider for .NET 11.2.0.4.0
- ※ Oracle Database12.1.0.2を使用する場合: Oracle Data Provider for .NET 12.1.0.2.0
- ※ Oracle Database12.2.0.1を使用する場合: Oracle Data Provider for .NET 12.2.0.1.0
- ※ Oracle Database18.3を使用する場合: Oracle Data Provider for .NET 12.2.0.2.0



注意

- ・Oracle のインストール前に機能の追加から.NET Framework 4.x(4.6 以上)を有効化する必要があります。
- ・Oracle のインストールは管理者として実行する必要があります。
- ・Oracle12.2 / 18.3 を使用する場合は ODP.NET 接続を手動で登録する必要があります。

データ

- エクスポートするデータはファイルで出力されます。
- エクスポート/インポートの際に、SuperStream-NX のサービスがデータに変更を加えていると整合性がとれなくなります。エクスポート/インポートはサービスが動いていない状態で実行してください。
- エクスポート後のバックアップファイルについては、バックアップツールでは管理しません。



注意



バックアップツールはサービス停止機能で、サービスが停止されている間に実行してください。
サービス停止設定でサービスを停止してください。

サービス停止設定の操作手順は『操作マニュアル・基本操作編』の[3.10.2 サービス停止設定]を参照してください。

エクスポート対象データの指定条件

- 下記の条件に関わらず、TranTableList.xml で指定されていないテーブルは対象となりません。
- 会社コードが無いテーブルを、対象に含めるかどうかを指定できます。
- 会社コードを持つテーブルは、指定された会社コードを持つデータが対象となります。



下記のテーブルに関しては、会社コードを保持していませんが、それぞれの条件にしたがい会社コードに紐付けられてバックアップされます。

テーブル	条件
ワークフロータグワーク (CMWFTWRK)	ワークフローデータ検索用会計情報ワーク (ACWFSWRK) で指定された会社コードを持つデータのワークフローID で抽出されたデータが対象となります。
ワークフローデータワーク (CMWFDWRK)	
ワークフロー実行ログ (CMWFALOG)	
ワークフロー添付ワーク (CMWFAWRK)	
ワークフロー主管承認ルートマスタ (CMSSRMST)	ワークフロー主管承認ルートヘッダマスタ (CMSSHMST) で指定された会社コードを持つデータの承認ルート ID で抽出されたデータが対象となります。
ワークフロー部門内承認ルートマスタ (CMBSRMST)	ワークフロー部門内承認ルートヘッダマスタ (CMBSHMST) で指定された会社コードを持つデータの承認ルート ID で抽出されたデータが対象となります。
ユーザーマスタ (CMUSR MST)	ユーザー別会社マスタ (CMUSKMST) で指定された会社コードを持つユーザーID で抽出されたデータが対象となります。
パスワード管理マスタ (CMPWDMST)	
パスワード履歴管理マスタ (CMPWHMST)	
残高拡張マスタ (GLZAKMST)	残高マスタ (GLZANMST) で指定された会社コードを持つ拡張キーで抽出されたデータが対象となります。
取引先・社員残高拡張マスタ (GLZNMST)	取引先・社員残高マスタ (GLZNTMST) で指定された会社コードを持つ拡張キーで抽出されたデータが対象となります。
残高拡張ワーク (GLZAKWRK)	残高ワーク (GLZANWRK) で指定された会社コードを持つ拡張キーで抽出されたデータが対象となります。
取引先・社員残高拡張ワーク (GLZNKWRK)	取引先・社員残高ワーク (GLZNTWRK) で指定された会社コードを持つ拡張キーで抽出されたデータが対象となります。
テーブル	条件
会社間取引処理パターンマスタ (ACKTSMST)	会社グループ内訳マスタ (CMKGUMST) で指定された会社コードを持つデータの会社グループコードで抽出されたデータが対象となります。
会社間取引振替科目マスタ (ACKFKMST)	
会社間項目変換マスタ (ACKICMST)	

下記のテーブルに関しては、指定会社コードに関わらず全件バックアップされます。

・会社グループ内訳マスタ (CMKGUMST)



- ・会社コードが無いテーブルを対象に含めた場合のみバックアップされます。
- ・バックアップデータを新規環境にインポートする目的の場合は、会社コードが無いテーブルを対象に含め、全てのテーブルを取得したバックアップデータを対象としてください。



インポート

エラーが発生した際に処理を中止するか、エラーを無視して処理を続行するかを選択できます。

バックアップツールのインポート時の仕様

対象となる会社コードのデータをいったん削除 (DELETE) してから追加 (INSERT) を行います。

従って、レコードは存在しないため一意制約に関連するエラーは通常、発生しません。

ただし、例えば処理実行中にネットワークが切断される等のシステムのエラーが発生した場合に備えて「エラーが発生したら処理を中止する」の区分を用意しています。

「エラーが発生したら処理を中止する」のチェックボックスによる制御は次の通りです。

・チェックボックス: 選択 (ON)

エラーが発生した時点で後続のテーブルに対する処理を中止します。

・チェックボックス: 選択しない (OFF)

エラーが発生した後も後続のテーブルに対して処理を継続します。

ただし、以下の13個のテーブルでエラーが発生した場合には後続の処理を中止します。

ワークフロータグワーク (CMWFTWRK)

ワークフローデータワーク (CMWFDWRK)

ワークフロー実行ログ (CMWFALOG)

ワークフロー添付ワーク (CMWFAWRK)

ワークフロー主管承認ルートマスタ (CMSSRMST)

ワークフロー部門内承認ルートマスタ (CMBSRMST)

ユーザマスタ (CMUSRMS)

パスワード管理マスタ (CMPWDMST)

パスワード履歴管理マスタ (CMPWHMST)

残高拡張マスタ (GLZAKMST)

取引先・社員残高拡張マスタ (GLZNMKST)

残高拡張ワーク (GLZAKWRK)

取引先・社員残高拡張ワーク (GLZNMWRK)



・インポート前にインポートするデータ量に応じて、データベースのトランザクションログ領域を確保してください。

(必要なログ領域は、全体で 6000 万レコードの場合 65 ギガバイト)

・会社ごとにバックアップを取得している場合、セキュリティオプションマスタ等全会社で共通のマスタ設定を変更した際は必ずバックアップの再取得を行ってください。

Oracle の内部バッファ不足によるエラー回避

- バックアップを行うと本ツールが利用している、Oracle の Datapump Export/Import ユーティリティの不具合により内部バッファが減り、バックアップを繰り返していると内部バッファが不足した状態になります。
- 内部バッファが不足した状態でバックアップを行うと、ORA-31626 又は ORA-39002 エラーが発生してバックアップに失敗します。

エラー発生例

ORA-31626: ジョブが存在しません

ORA-31638: ジョブ TEST(ユーザーSCOTT)に連結できません

ORA-06512: "SYS.DBMS_SYS_ERROR", 行 95

ORA-06512: "SYS.KUPV\$FT_INT", 行 377

ORA-39077: エージェント KUPC\$A_1_20071002025231 をキュー "KUPC\$C_1_20071002025230" にサブスクライブできません

ORA-06512: "SYS.DBMS_SYS_ERROR", 行 95

ORA-06512: "SYS.KUPC\$QUE_INT", 行 248

ORA-06502: PL/SQL: 数値または値のエラー: 文字列バッファが小さすぎます。が発生しました。

- 本事象を回避するには、定期的の下記の SQL を実行し、取得した値が 7 桁に達する前に、次に記す Data Pump オブジェクトの再作成方法を実行してください。

```
SELECT "SYS"."AQ$_KUPC$DATAPUMP_QUETAB_x_N".NEXTVAL FROM DUAL; (x: インスタンス番号)
```

- Data Pump オブジェクトの再作成方法

SYSDBA で対象のデータベースに接続して、下記のスクリプトを実行します。

```
@$ORACLE_HOME/rdbms/admin/catdph.sql
```

```
@$ORACLE_HOME/rdbms/admin/prvtdtde.plb
```

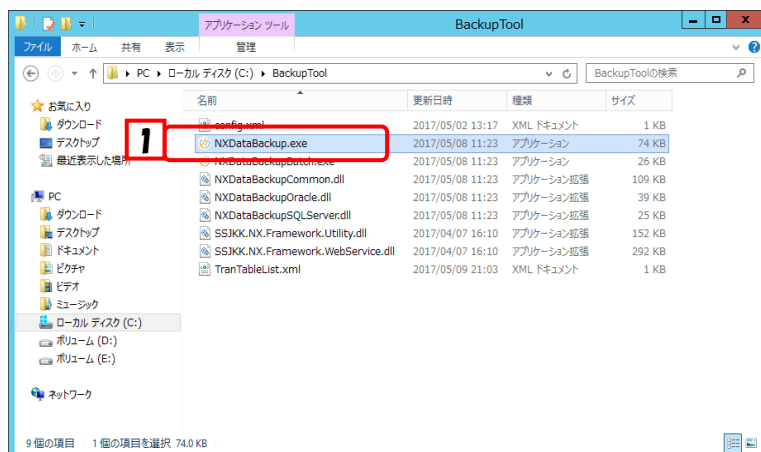
```
@$ORACLE_HOME/rdbms/admin/catdpb.sql
```

```
@$ORACLE_HOME/rdbms/admin/dbmspump.sql
```

```
@$ORACLE_HOME/rdbms/admin/utlrp.sql
```

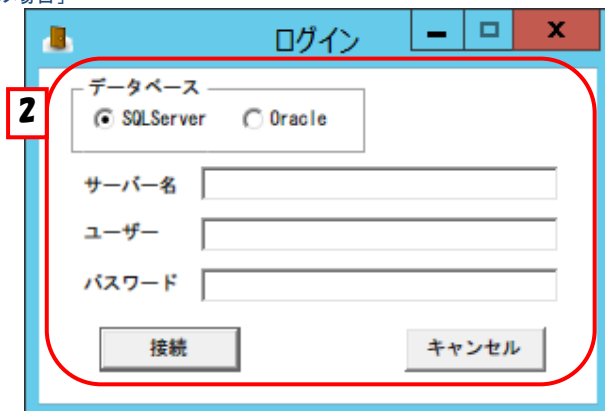
SuperStream-NX バックアップツール(画面)

SuperStream-NX バックアップツール(画面)の操作方法について説明します。



1. NXDataBackup.exeをダブルクリック
⇒ログイン画面が表示される

[SQL Serverの場合]



2. データベースの種類を選択し、ログイン情報を入力後、【接続】ボタンをクリック
⇒メニュー画面に遷移する

- SQL Serverの場合



注意
SQL Server のシステム管理者ユーザー(sa ユーザー)もしくは、bulkadmin権限を持ったユーザーでログインしてください。
サーバー名は登録しているサーバー名を直接入力してください。

[Oracleの場合]

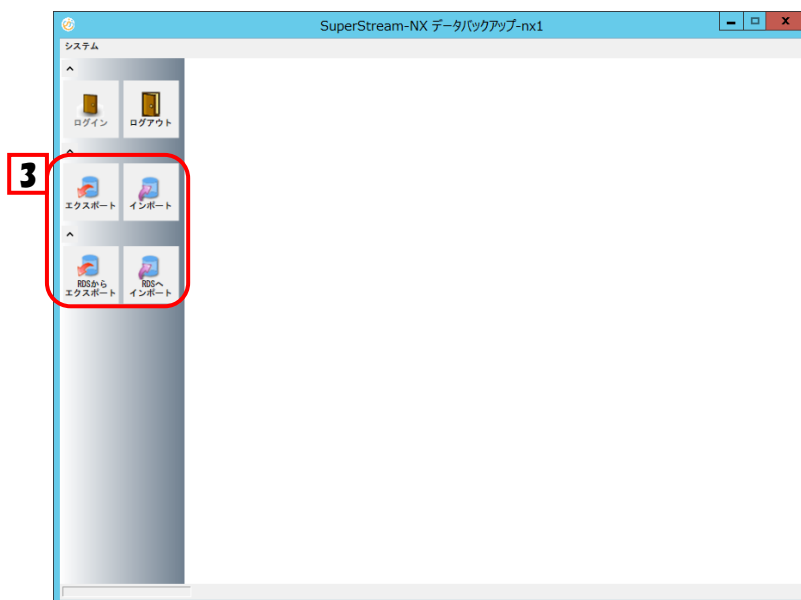


- Oracleの場合



注意
Oracle のシステム管理者ユーザー (SYSTEMユーザー)でログインしてください。
サーバー名は、Net Managerなどで設定する「サービス・ネーミング」に登録されているものを入力します。

RDSもしくはLinuxOracle環境の場合は、RDSもしくはLinuxOracle環境のシステム管理者ユーザーでログインしてください。



3. 必要な操作のボタンをクリック

- エクスポート
エクスポート画面を表示する
- インポート
インポート画面を表示する
- RDSからエクスポート
RDSからエクスポート画面を表示する
- RDSへインポート
RDSへインポート画面を表示する



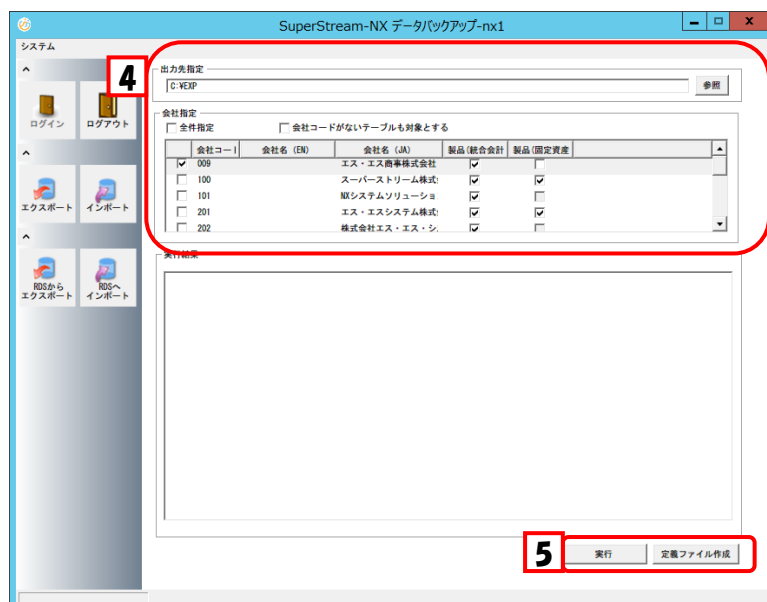
注意

RDSもしくは LinuxOracle環境の場合は必ず、RDSからエクスポート、RDSへインポートを使用してください、エクスポート、インポートは動作しません。

SQL Serverの場合は、RDSからエクスポートおよびRDSへインポートボタンは無効化されます。



エクスポートする場合
(手順3で【エクスポート】ボタンをクリックした場合)



4. エクスポート条件を入力

5. 必要な操作のボタンをクリック

- 実行
データをエクスポートする
- 定義ファイル作成
バッチ形式で使用するエクスポート用の定義ファイルを出力する



注意

NX統合会計のみの場合、'製品(固定資産)'列は表示されません。

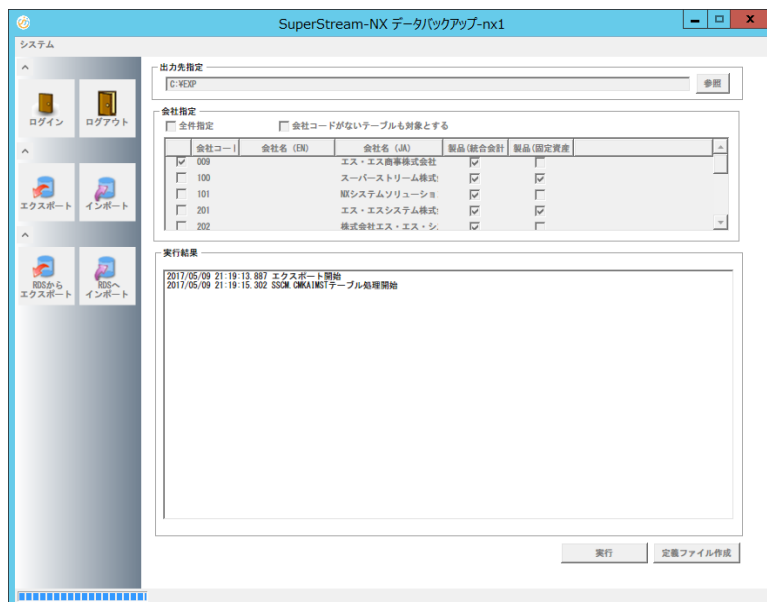
NX固定資産管理を含む場合、'製品(固定資産)'のみのエクスポートはできません。



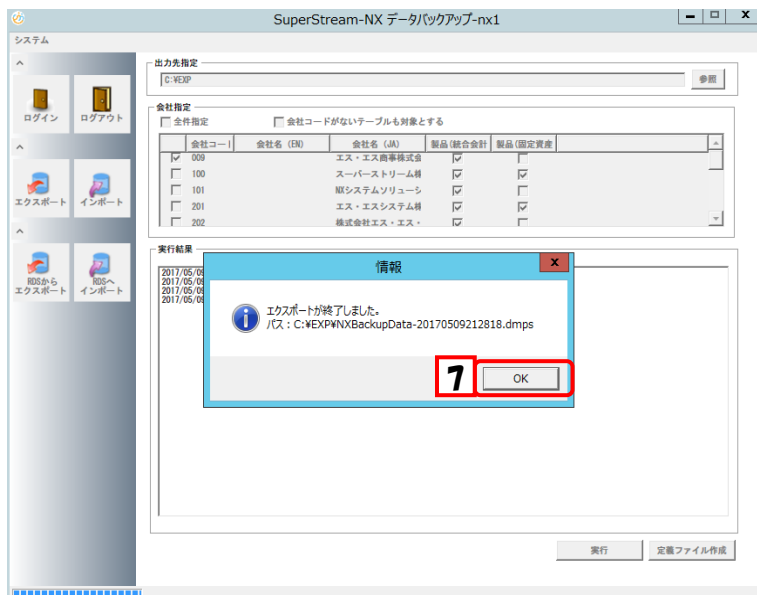
エクスポートを実行する場合
(手順5で【実行】ボタンをクリックした場合)



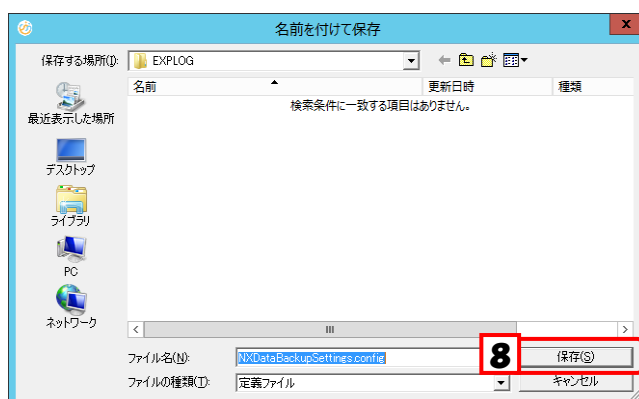
6. ログ保存場所を選択後、【保存】ボタンをクリック ⇒エクスポートが開始される



進捗状況を表示

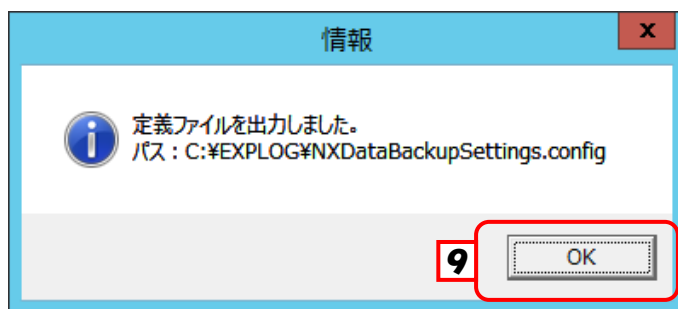


7. 【OK】ボタンをクリック

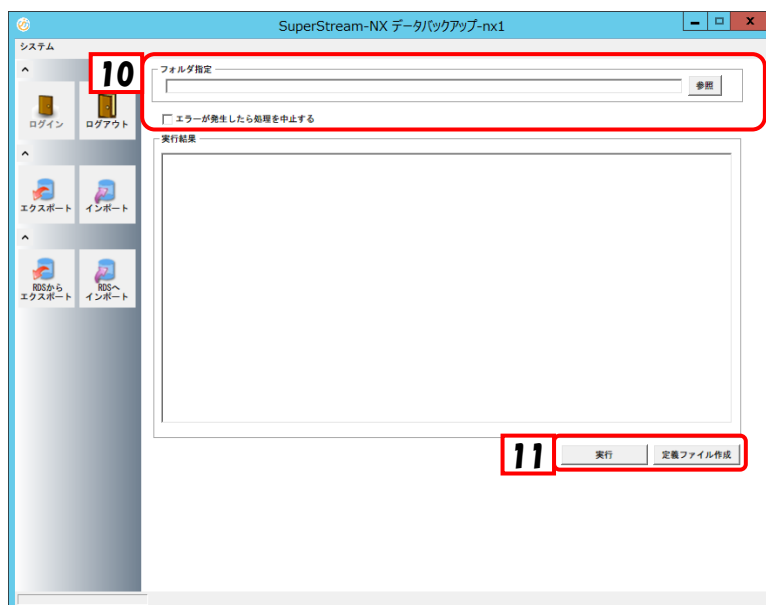


エクスポートの定義ファイルを出力する場合
(手順5で【定義ファイル作成】ボタンをクリックした場合)

8. 定義ファイル保存場所を選択後、
【保存】ボタンをクリック
⇒定義ファイルが出力される



9. 【OK】ボタンをクリック

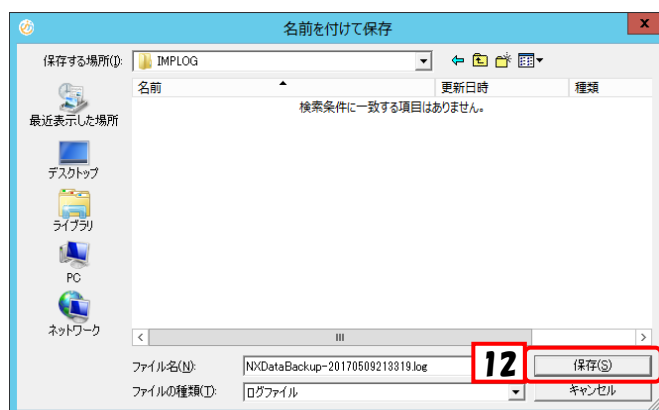


インポートする場合
(手順3で【インポート】ボタンをクリックした場合)

10. インポート条件を入力

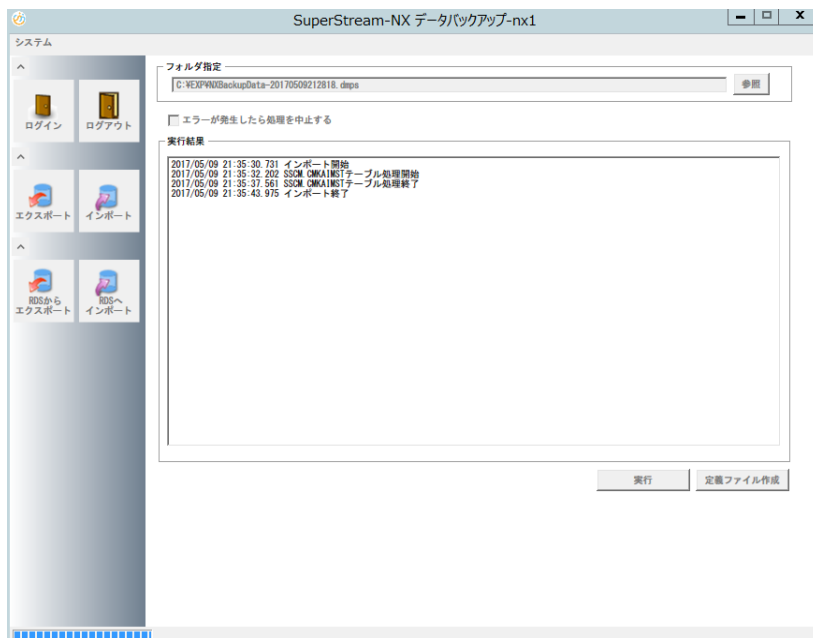
11. 必要な操作のボタンをクリック

- 実行
データをインポートする
- 定義ファイル作成
バッチ形式で使用するインポート用の定義ファイルを出力する

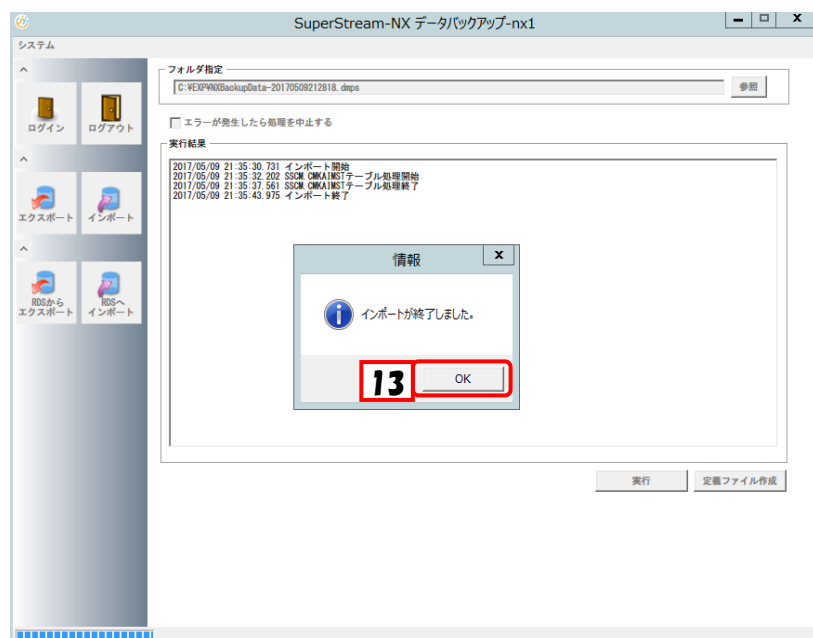


インポートを実行する場合
(手順11で【実行】ボタンをクリックした場合)

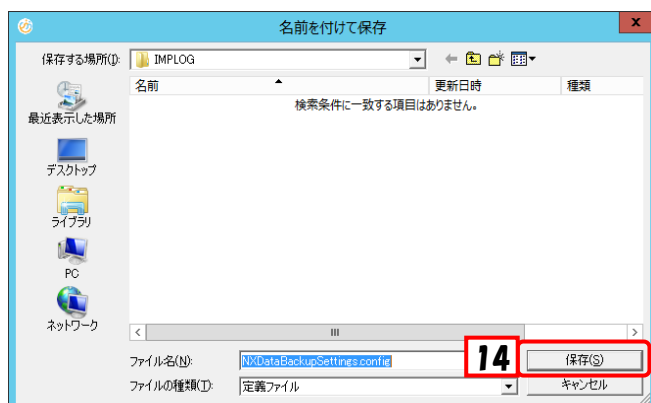
12. ログ保存場所を選択後、【保存】ボタンをクリック ⇒インポートが開始される



進捗状況を表示

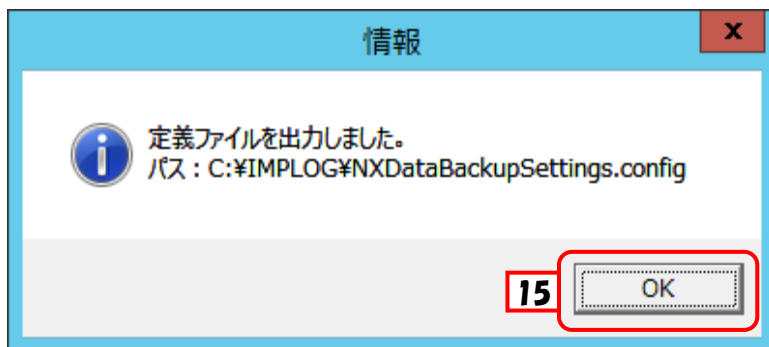


13. 【OK】ボタンをクリック

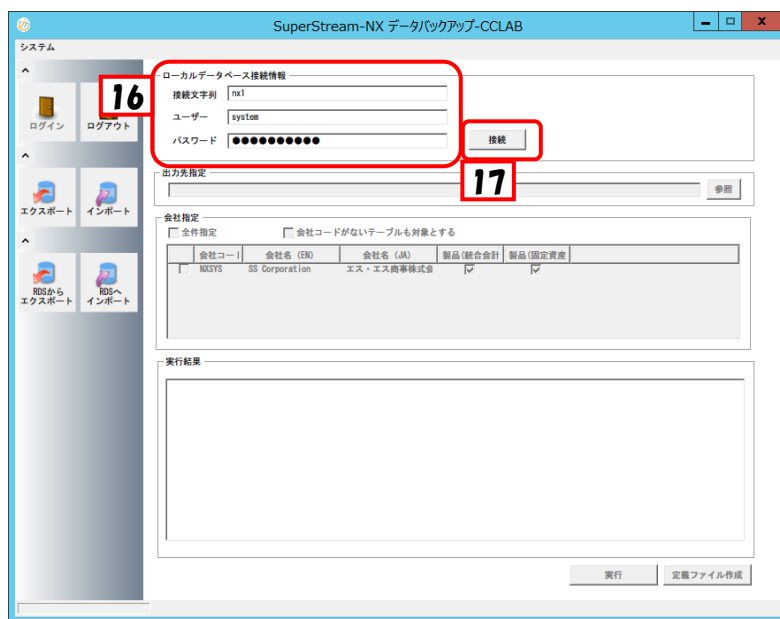


↑
インポートの定義ファイルを出力する場合
(手順11で【定義ファイル作成】ボタンを
クリックした場合)

14. 定義ファイル保存場所を選択後、
【保存】ボタンをクリック
⇒定義ファイルが出力される



15. 【OK】ボタンをクリック



RDSからエクスポートする場合
(手順3で【RDSからエクスポート】ボタンをクリックした場合)

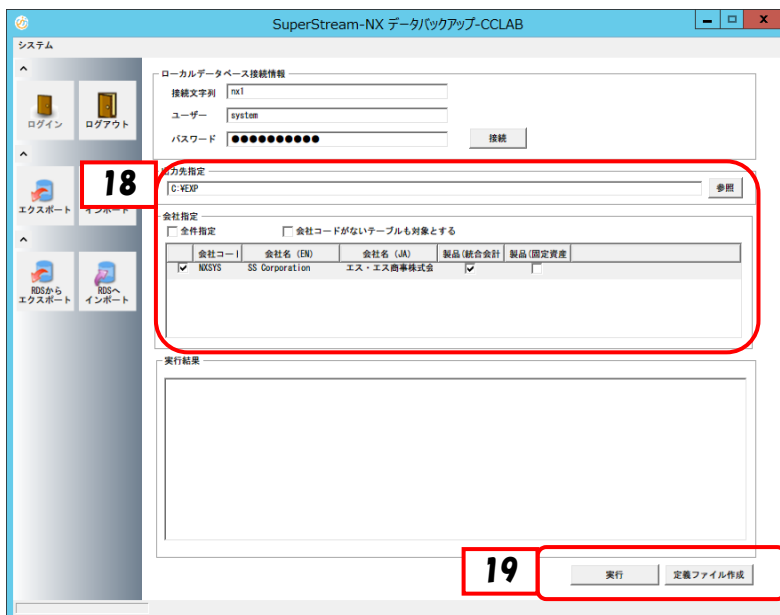
16. ローカルデータベース接続情報を入力

17. 接続ボタンをクリック



注意

ローカルデータベースのOracleシステム管理者ユーザー(SYSTEMユーザー)でログインしてください。接続文字列は、Net Managerなどで設定する「サービス・ネーミング」に登録されているものを入力します。



18. エクスポート条件を入力

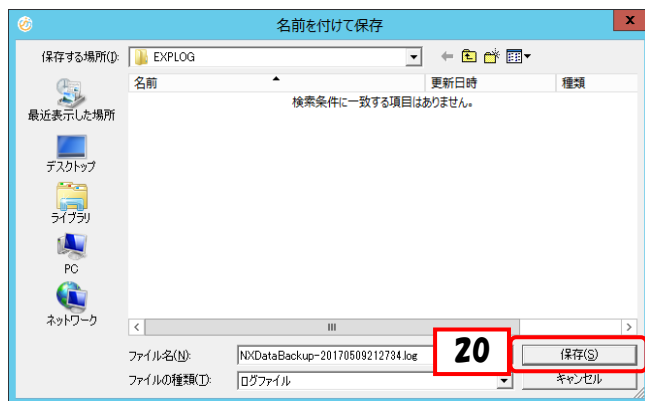
19. 必要な操作のボタンをクリック

- 実行
データをエクスポートする
- 定義ファイル作成
バッチ形式で使用するRDSからエクスポート用の定義ファイル出力する



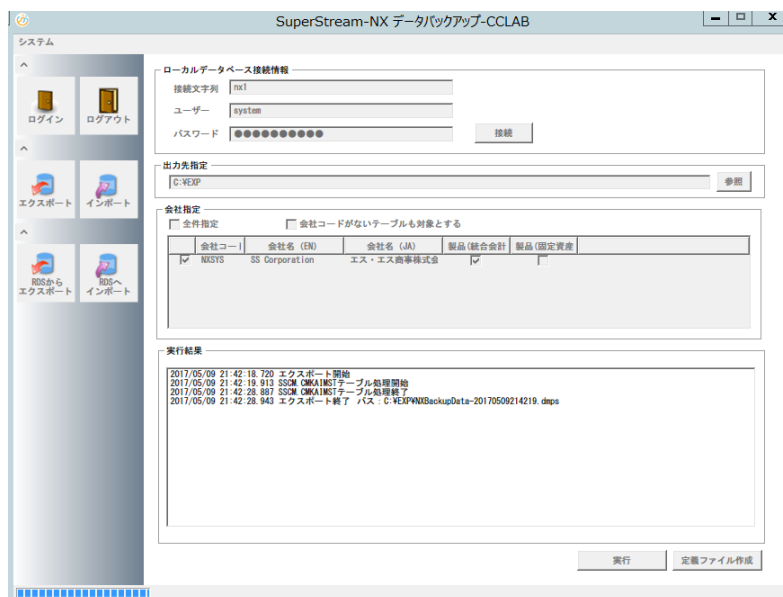
注意

NX統合会計のみの場合、'製品(固定資産)'列は表示されません。
NX固定資産管理を含む場合、'製品(固定資産)'のみのエクスポートはできません。

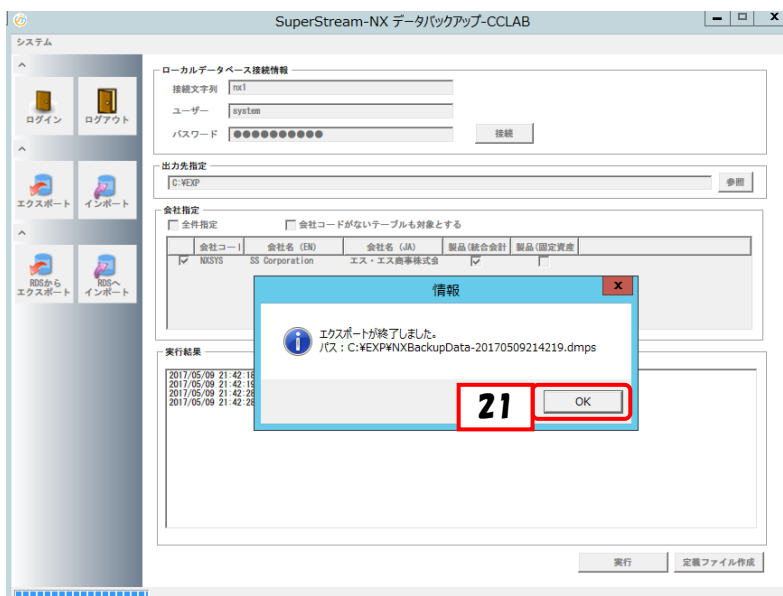


RDSからエクスポートを実行する場合
(手順19で【実行】ボタンをクリックした場合)

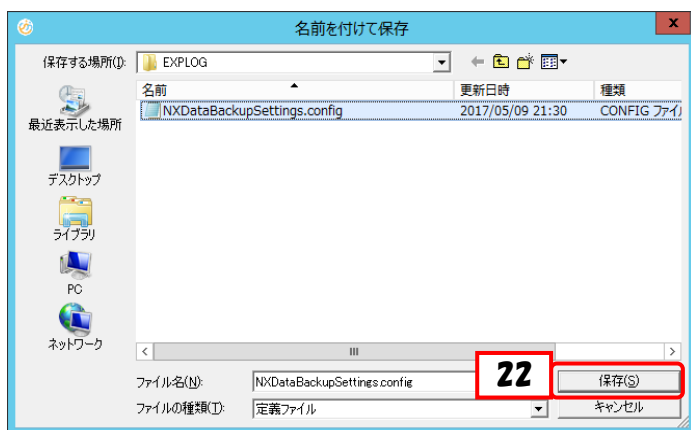
- 20.** ログ保存場所を選択後、【保存】ボタンをクリック
⇒エクスポートが開始される



進捗状況を表示

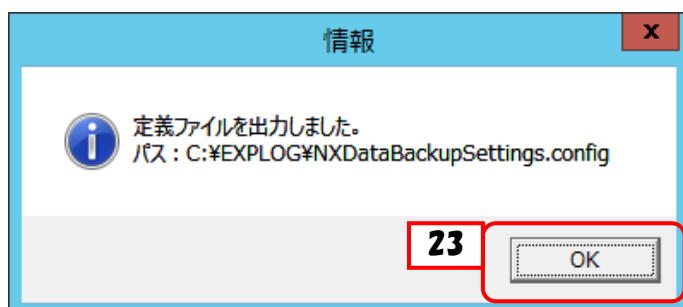


- 21.** 【OK】ボタンをクリック

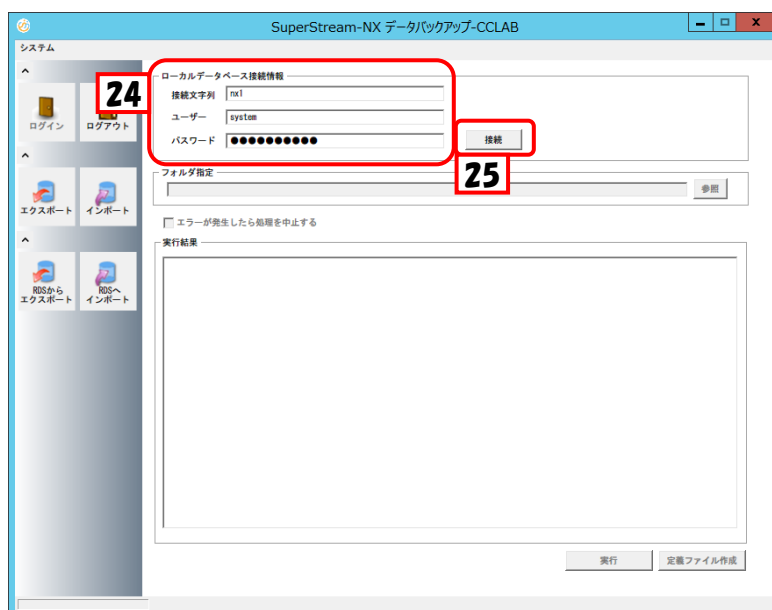


RDSからエクスポートの定義ファイルを出力する場合
(手順19で【定義ファイル作成】ボタンをクリックした場合)

- 22.** 定義ファイル保存場所を選択後、
【保存】ボタンをクリック
⇒定義ファイルが出力される



- 23.** 【OK】ボタンをクリック



RDSへインポートする場合
(手順3で【RDSへインポート】ボタンをクリックした場合)

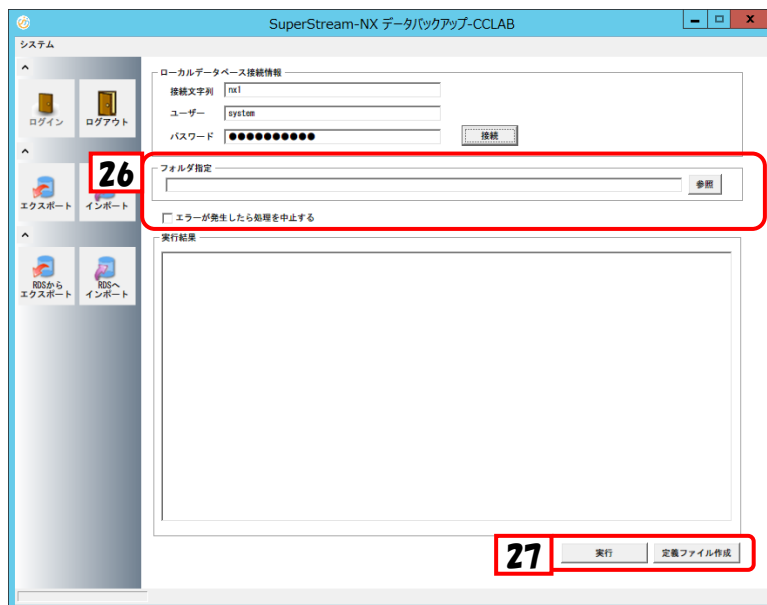
- 24.** ローカルデータベース接続情報を入力

- 25.** 接続ボタンをクリック



注意

ローカルデータベースのOracleシステム管理者ユーザー(SYSTEMユーザー)でログインしてください。接続文字列は、Net Managerなどで設定する「サービス・ネーミング」に登録されているものを入力します。

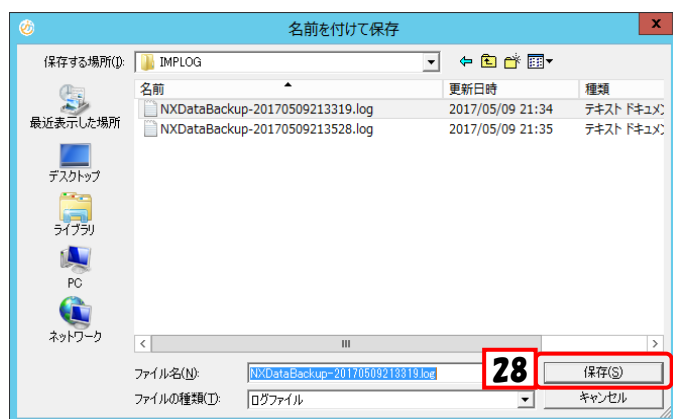


RDSヘインポートする場合
(手順3で【RDSヘインポート】ボタンをクリックした場合)

26. インポート条件を入力

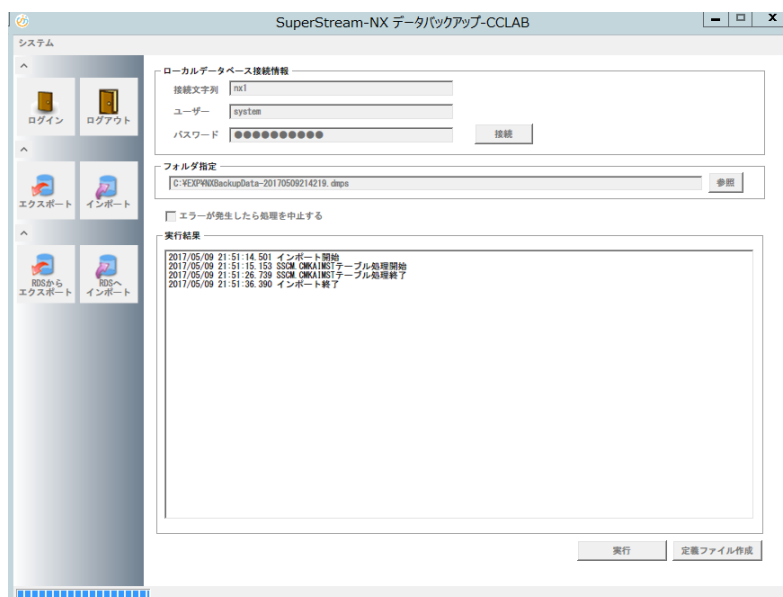
27. 必要な操作のボタンをクリック

- 実行
データをインポートする
- 定義ファイル作成
バッチ形式で使用するRDSヘインポート用の定義ファイルを出力する

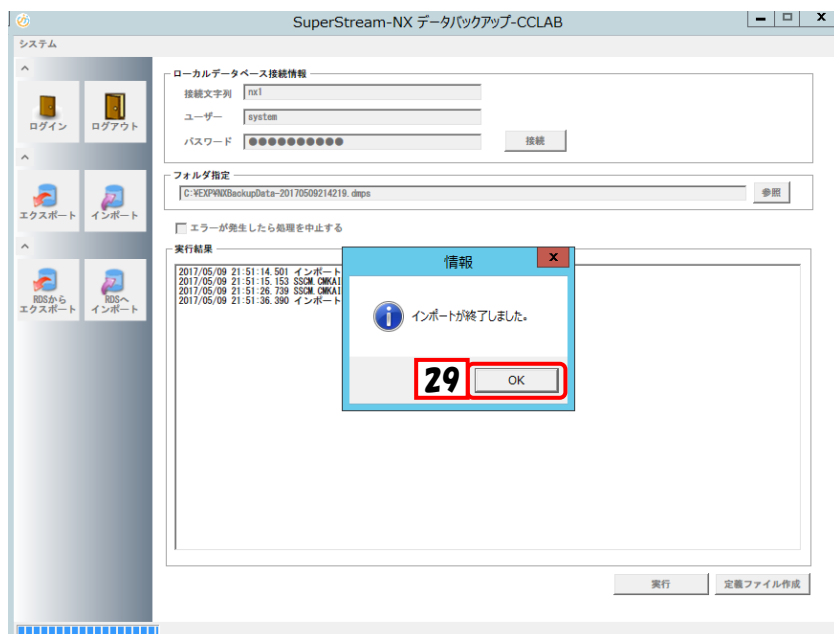


RDSヘインポートを実行する場合
(手順11で【実行】ボタンをクリックした場合)

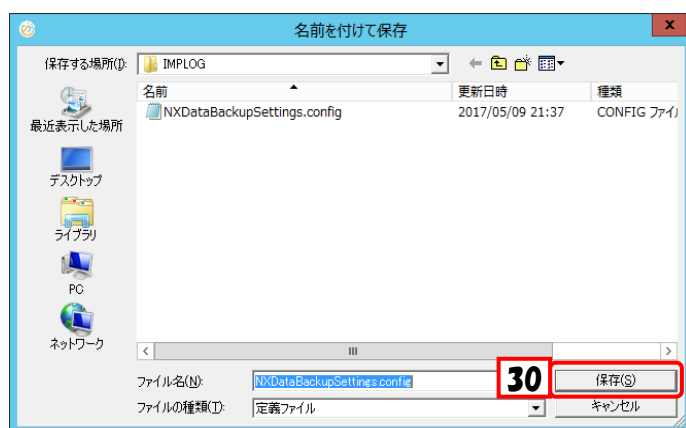
28. ログ保存場所を選択後、【保存】ボタンをクリック ⇒インポートが開始される



進捗状況を表示



29. 【OK】ボタンをクリック



インポートの定義ファイルを出力する場合
(手順11で【定義ファイル作成】ボタンをクリックした場合)

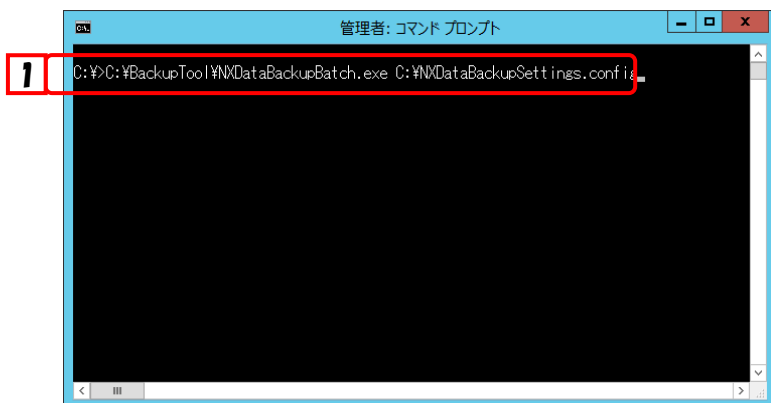
30. 定義ファイル保存場所を選択後、
【保存】ボタンをクリック
⇒定義ファイルが出力される



31. 【OK】ボタンをクリック

SuperStream-NX バックアップツール(バッチ)

SuperStream-NX バックアップツール(バッチ)の操作方法について説明します。



定義ファイルは XML 形式で下記の構成となっています。

1. NXDataBackupBatch.exe の引数に画面で出力した定義ファイルのフルパスを指定して実行
⇒定義ファイルに応じてエクスポート/インポートを実行
コマンド例:
C:\>BackupTool\NXDataBackupBatch.exe
C:\>NXDataBackupSettings.config



注意
バッチの実行はスケジューラやJOB管理ツールから行ってください。

エクスポート/インポートで共通の項目			
項目	タグ	内容	備考
機能区分	EXPORT_INPORT_KBN	0:エクスポート 1:インポート	
データベース名	DATABASE_FLG	0:SQL Server 1:Oracle	
サーバー名	SERVER_NAME	データベース名	
ユーザー名	USER	ユーザー名	使用可能なユーザーは、SQLServer の場合、データベースのシステム管理者ユーザー(sa ユーザー)もしくは、bulkadmin 権限を持ったユーザーです。Oracle の場合、データベースのシステム管理者ユーザー(SYSTEM ユーザー)です。
パスワード	PASSWORD	ユーザーのパスワード	
ログ出力区分	LOG_OUTPUT_KBN	0:ログファイルを作成します。 1:ログファイルを作成しません。	
ログ出力先	LOG_OUTPUT_PATH	ログファイル出力フォルダパス	指定されない場合、NXDataBackupBatch.exe と同じフォルダになります。

エクスポートで使用する項目			
項目	タグ	内容	備考
出力先	TRAN_PATH	バックアップフォルダを作成するフォルダパス	
会社コード(複数有)	KAI_CODE_LIST	会社システム情報の会社コードを","区切りにした値	会社コードが Null の場合は Empty
対象テーブル区分	TBL_KBN	0:会社コードが無いテーブルは対象としません。 1:会社コードが無いテーブルも対象とします。	
製品選択区分	PRDCT_SEL_LIST	会社コードごとの製品選択区分の親タグ	会社コードが Null の場合は Empty
	CODE_ + ※会社コード(複数有)	会社コードごとの製品選択区分が true のシステム ID を","区切りにした値	NX 統合会計と固定資産の両方の場合は"01,02"と指定

インポートで使用する項目			
項目	タグ	内容	備考
ファイル格納先	TRAN_PATH	バックアップフォルダのフルパス	
インポート方法区分	IMPORT_KBN	1:削除して追加	"1" 固定
インポートエラー発生停止区分	IMPORT_ERROR_CASE_STOP_KBN	0:エラー発生時処理続行 1:エラー発生時処理停止	

RDS からエクスポート、RDS ヘインポートで使用する項目			
項目	タグ	内容	備考
RDS 区分	RDS_KBN	0:通常 1:RDS	 Oracle の場合のみ使用します。
ローカルデータベースサーバー名	LOCAL_SERVER_NAME	ローカルデータベースサーバー名	 RDS 区分が"1"の場合のみ使用する。
ローカルデータベースユーザー名	LOCAL_USER	ローカルデータベースユーザー名	 RDS 区分が"1"の場合のみ使用する。 使用可能なユーザーはデータベースのシステム管理者ユーザー (SYSTEM ユーザー) です。
ローカルデータベースパスワード	LOCAL_PASSWORD	ローカルデータベースユーザーのパスワード	 RDS 区分が"1"の場合のみ使用する。



『RDS からエクスポート、RDS ヘインポートで使用する項目』の内容は SQL Server では定義不要です。
同項目が Oracle で定義されていない場合は、RDS 区分が 0(通常)として動作します。

定義ファイル例

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<CONFIG>
  <EXPORT_IMPORT_KBN>0</EXPORT_IMPORT_KBN>
  <DATABASE_INFO>
    <DATABASE_FLG>1</DATABASE_FLG>
    <SERVER_NAME>XXXX¥SUPERSTREAM</SERVER_NAME>
    <USER>system</USER>
    <PASSWORD>ABCDEFG</PASSWORD>
  </DATABASE_INFO>
  <TRAN_PATH>D:¥export</TRAN_PATH>
  <KAI_CODE_LIST>AAAAA,BBBBB,CCCCC</KAI_CODE_LIST>
  <PRDCT_SEL_LIST>
    <CODE_AAAAA>01</CODE_AAAAA>
    <CODE_BBBBB>01</CODE_BBBBB>
    <CODE_CCCCC>01,02</CODE_CCCCC>
  </PRDCT_SEL_LIST>
  <TBL_KBN>0</TBL_KBN>
  <IMPORT_KBN>1</IMPORT_KBN>
  <IMPORT_ERROR_CASE_STOP_KBN>0</IMPORT_ERROR_CASE_STOP_KBN>
  <LOG_OUTPUT_KBN>0</LOG_OUTPUT_KBN>
  <LOG_OUTPUT_PATH>D:¥log</LOG_OUTPUT_PATH>
  <RDS_KBN>1</RDS_KBN>
  <LOCAL_DATABASE_INFO>
    <LOCAL_SERVER_NAME>LOCALDB</LOCAL_SERVER_NAME>
    <LOCAL_USER>system</LOCAL_USER>
    <LOCAL_PASSWORD>GFDSA</LOCAL_PASSWORD>
  </LOCAL_DATABASE_INFO>
</CONFIG>
```

3.2 管理ツール

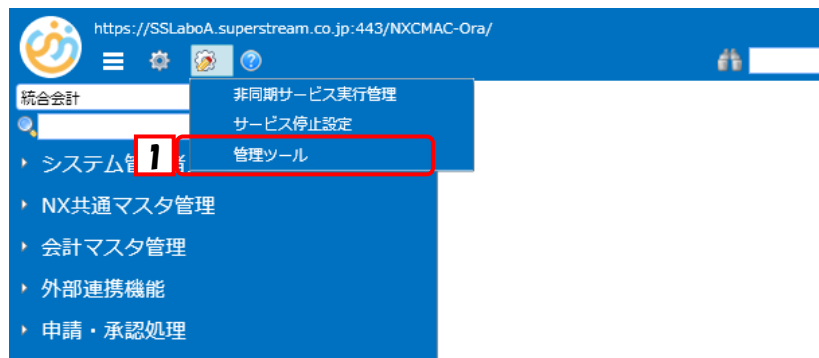


2016-11-01 版の「Log Manager」、「ログインユーザー監視ツール」、「オプションツール利用設定ツール」、「非同期設定ツール」についてはブラウザから操作していましたが、2017-06-01 版より管理ツールとして統合し.exe アプリケーションに変更しています。

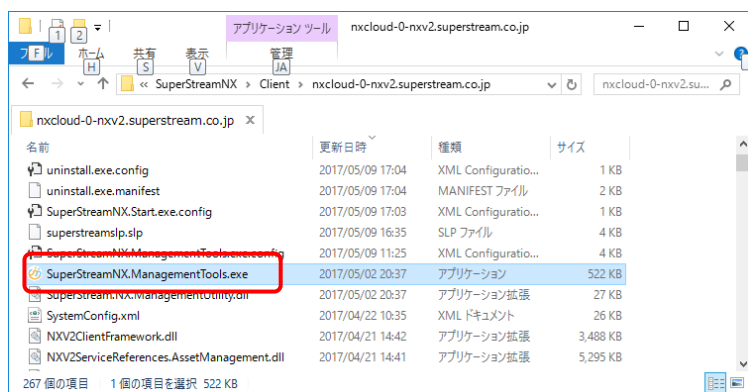
この章では、管理ツールによる各種機能について説明します。



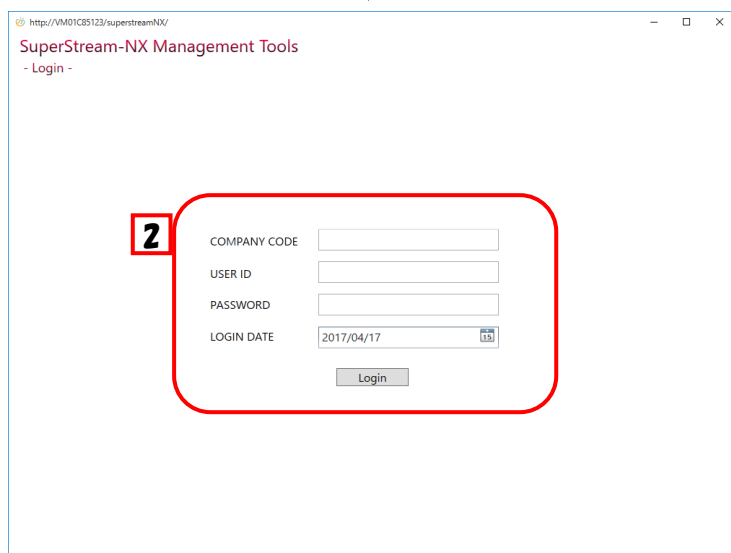
システム要件はクライアントに準拠します。



1. SuperStream-NXを管理者ユーザーとしてログインし、ヘッダーの[管理者メニュー]-[管理ツール]をクリックする。
⇒管理ツールのログイン画面が表示される。



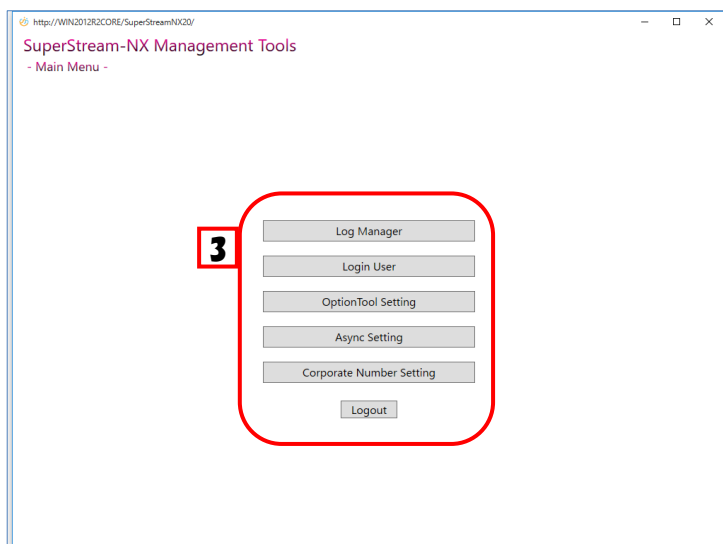
クライアントコンポーネントのインストール先にある[SuperStreamNX.ManagementTools.exe]をダブルクリックすることで管理ツールを起動することも可能です。



2. ログイン情報を入力後、【Login】ボタンをクリック
⇒メニュー画面に遷移する。



ログ採取機能は、ユーザー種別が[システム管理ユーザー]のユーザーでログインが可能です。



3. 使用する機能のボタンをクリック

- Log Manager
ログ採取機能を表示する
- Login User
ログインユーザー監視機能を表示する
- OptionTool Setting
オプションツール利用設定機能を表示する
- Async Setting
非同期設定機能を表示する
- Corporate Number Setting
法人番号設定、情報収集許諾機能を表示する
- Logout
ログアウトする
⇒ログイン画面に遷移する



各機能の設定範囲は以下の通りです。
全社共通の設定

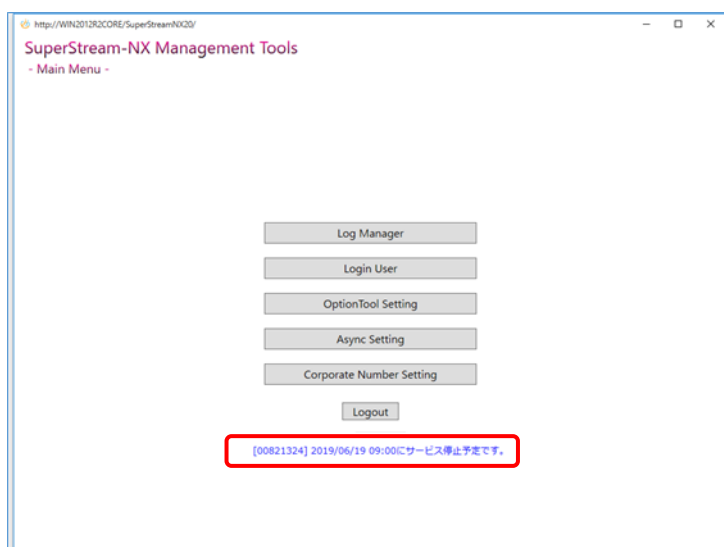
- Log Manager
- Login User
- Corporate Number Setting

会社単位の設定

- OptionTool Setting
- Async Setting



管理ツールのログインで警告が発生した場合、
警告メッセージはメニュー画面に表示されます。



3.2.1 ログ採取機能

SuperStream-NX で提供しているログ採取機能は、サーバー側でのログ採取を行うサーバーサイドログ機能と、クライアントから採取したログの監視・確認を行う Log Manager で構成されています。

サーバーサイドのログ機能

サーバー側でのログ採取について説明します。

採取可能なログは、障害等の発生時における原因究明やテスト時に必要となる「システム系ログ」と、内部統制等の監査時に必要となる「監査系ログ」とに大別されます。

ログの種類

	No.	ログ種類	概要
システム系ログ	1	トレースログ	障害追跡用にロジック内のデータをログファイルに出力します。 PC レイヤでの記述は必須となります。
	2	デバッグログ	開発時のデバッグ用にデータをログファイルに出力します。
	3	エラーログ	例外が発生した場合に例外の詳細をログファイルに出力します。 エラーログには、業務エラー用と業務エラー用以外の 2 種類があります。 ログファイルと同じタイミングでイベントログにも同様の内容を出力します。
監査系ログ	4	サービス実行ログ	サービスの起動・終了をテーブルに保管します。
	5	画面の起動/終了ログ	画面の起動・終了をテーブルに保管します。
	6	ログイン/ログアウトログ	NX シリーズのログイン・ログアウトをテーブルに保管します。
	7	データアクセスログ	データベースへのテーブルアクセス (UPDATE, INSERT, DELETE ステートメント) の更新履歴をテーブルに保管します。
	8	マイナンバー参照ログ	マイナンバーの参照を実行した、画面、ユーザーをテーブルに保管します。

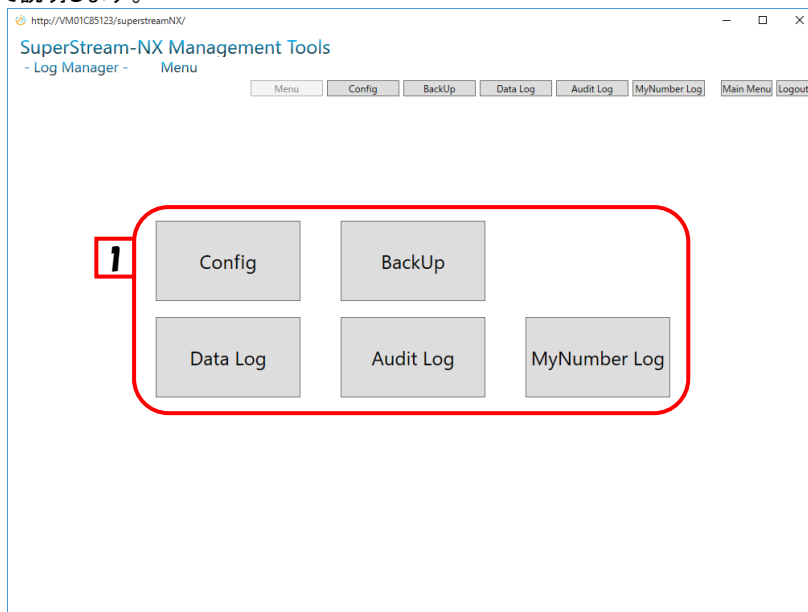
ログの出力制御および出力先

	No.	ログ種類	出力制御	出力先
システム系ログ	1	トレースログ	構成ファイル (SuperStream.ServerConfiguration.config)	<共通ファイル格納用フォルダ> ¥Log¥Debug ^(*)
	2	デバッグログ	の logging タグ内で出力の有無を設定します。  logging タグ内の設定項目については、システム共通設定の『3.4.2 ログ関連設定項目』を参照	<共通ファイル格納用フォルダ> ¥Log¥Debug
	3	エラーログ	業務エラー	<共通ファイル格納用フォルダ> ¥Log¥Error
			致命的業務エラー	<共通ファイル格納用フォルダ> ¥Log¥Error
			致命的エラー	<共通ファイル格納用フォルダ> ¥Log¥Error
	4	サービス実行ログ	SuperStream NX Log Manager を使用して	データベース
監査系ログ	5	画面の起動/終了ログ	出力の有無を設定してください。	データベース
	6	ログイン/ログアウトログ	 SuperStream NX Log Manager の	データベース
	7	データアクセスログ	操作方法については、『SuperStream-NX	データベース
	8	マイナンバー参照ログ	Log Manager』を参照	データベース

(*) 共通ファイル格納用フォルダは、インストール時にログファイルの保存先として指定したフォルダ

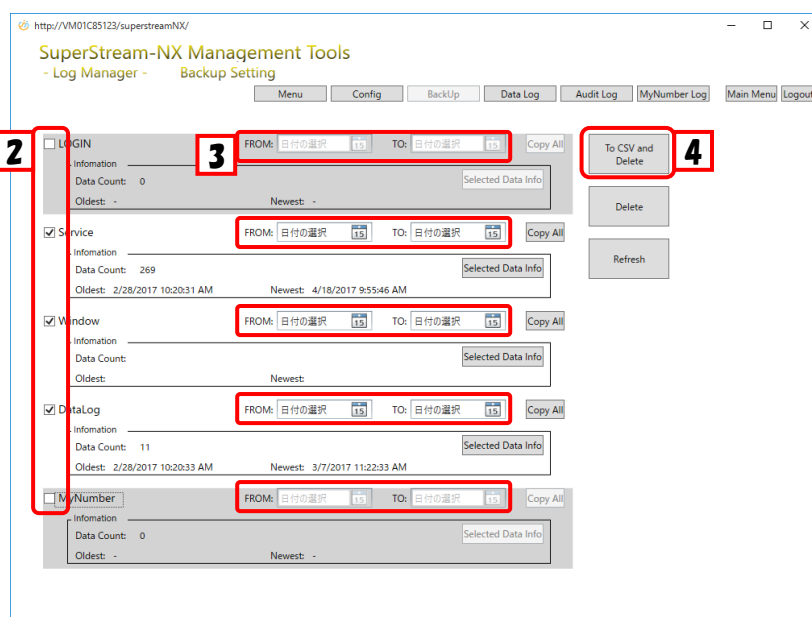
SuperStream-NX Log Manager

監査系ログの取得設定、およびログの閲覧に使用する SuperStream-NX Log Manager (以降、Log Manager) の操作方法について説明します。



1. 必要な操作のボタンをクリック

- Config
ログ出力を設定する
- BackUp
データベースに格納された監査系ログをバックアップとしてCSVファイルに出力する
- Data Log
データログを閲覧する
(前頁の表における「7. データアクセスログ」を指す)
- Audit Log
監査ログを閲覧する
(前頁の表における「4. サービス実行ログ～6. ログイン/ログアウトログ」を指す)
- MyNumberLog
マイナンバー参照ログを閲覧する
(前頁の表示における「8. マイナンバー参照ログ」を指す)



ログをバックアップする場合

(手順1で【BackUp】ボタンをクリックした場合)

2. バックアップするログをチェックボックスで選択

3. バックアップする期間を【FROM】、【TO】に入力



【FROM】が未入力の場合は、1900/1/1 0:00:00の扱いとなります。

【TO】が未入力の場合は、2999/12/31 23:59:59の扱いとなります。

4. 【To CSV and Delete】ボタンをクリック



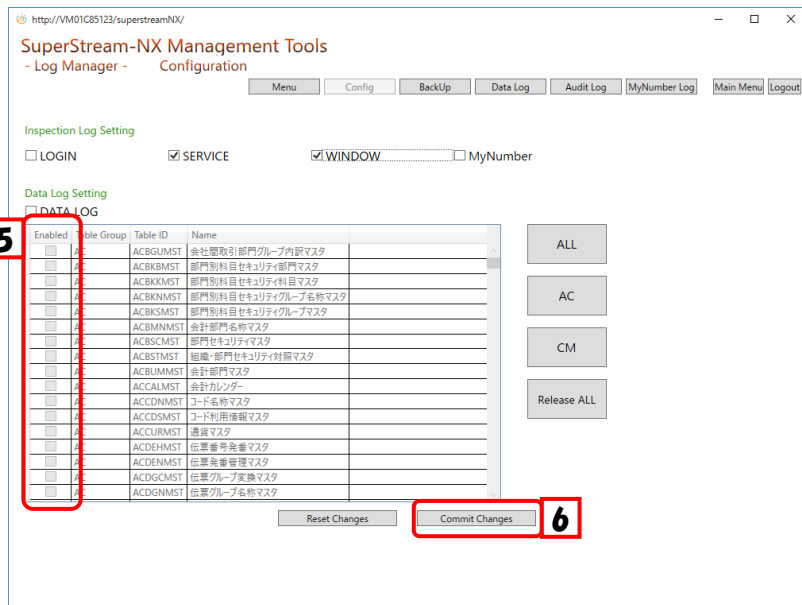
CSVファイルは、
<共通ファイル格納用フォルダ>¥Temp
に作成されます。

CSVファイルを作成せずに、テーブルからログを削除したい場合は、【Delete】ボタンをクリックします。

【Refresh】ボタンは、Information情報を再取得します。

【Copy All】ボタンは、【FROM】【TO】に指定した日付を他のログの条件にコピーします。

【Selected Data Info】ボタンは、【FROM】【TO】条件を付加した情報を取得します。



ログの出力を設定する場合

(手順1で【Config】ボタンをクリックした場合)

5. ログの出力対象を[Enabled]チェックボックスで選択



設定可能なログは下記となります。

【LOGIN】ログイン/ログアウトログ

【SERVICE】サービス実行ログ

【WINDOW】画面の起動/終了ログ

【MyNumber】マイナンバー参照ログ

【DATA LOG】データアクセスログ

テーブル種別ごとに対象のデータを選択する場合は、選択エリアの右側にあるボタンを使用することができます。

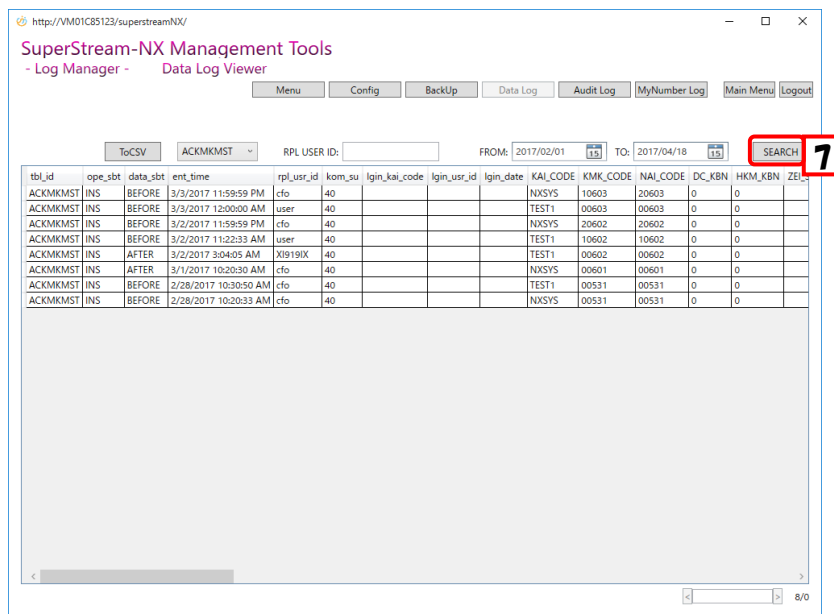
- 【ALL】ボタン
データログの全項目を選択する
- 【AC】ボタン
テーブル種別がACである全項目を選択する
- 【CM】ボタン
テーブル種別がCMの全項目を選択する
- 【Release ALL】ボタン
データログの全項目を選択解除する

6. 【Commit Changes】ボタンをクリック



データログを閲覧する場合

(手順1で【Data Log】ボタンをクリックした場合)

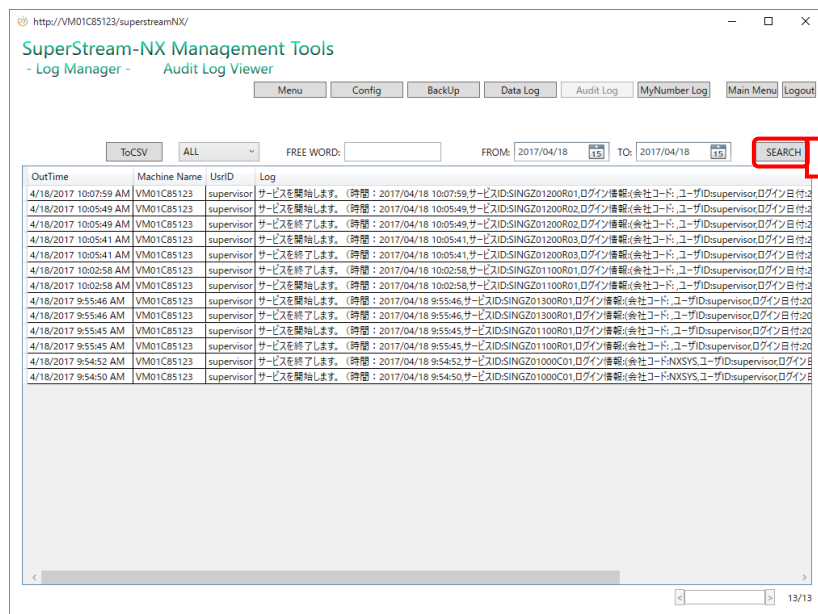


7. 検索条件を入力後、【SEARCH】ボタンをクリック

⇒検索条件に一致するログデータが表示される



【ToCSV】ボタンを押下すると表示されているデータをCSVに出力できます。



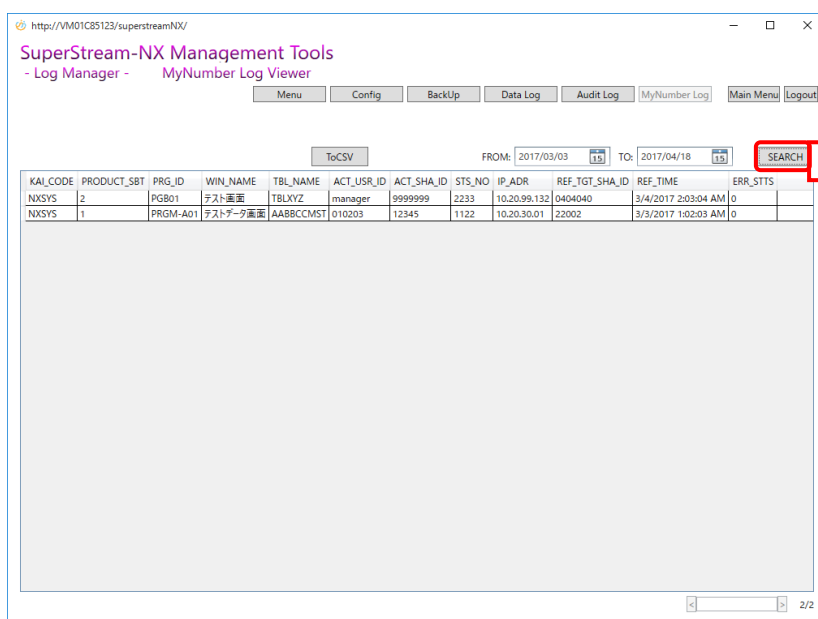
監査ログを閲覧する場合

(手順1で【Audit Log】ボタンをクリックした場合)

8. 検索条件を入力後、【SEARCH】ボタンをクリック
⇒検索条件に一致するログデータが表示される



【ToCSV】ボタンを押下すると表示されているデータをCSVに出力できます。



マイナンバー参照ログを閲覧する場合
(手順1で【MyNumber Log】ボタンをクリックした場合)

9. 検索条件を入力後、【SEARCH】ボタンをクリック
⇒検索条件に一致するログデータが表示される



【ToCSV】ボタンを押下すると表示されているデータをCSVに出力できます。



APKSIMST:経費精算入力制御マスタは列数が多く、全てのカラムの内容を個々に保持する事ができないので、APKSIMST:経費精算入力制御マスタのデータログについては、[基本情報項目1表示制御区分]～[子画面項目52表示制御区分]の値を連結して1つのカラムに格納しています。

ログアーカイブツール

監査ログデータを CSV に出力し、データを削除(TRUNCATE)するコンソールアプリケーションです。

1 D:\Temp\logarchive>ssnarchive /?

データベースのログデータをCSVに出力し、データベースから削除します。

```
SSNXArchive 出力先 DBMS種別 DB接続文字列 DB接続ユーザ DB接続パスワード
[/-T] [/S:テーブル番号] [/FS:ファイルサイズ]
[/LOG:実行ログ出力フォルダ]

出力先 出力先フォルダパスを指定します。
このフォルダの下にテーブルごとのフォルダが作成されます。
DBMS種別 DBMS種別 0:Oracle 1:SQL Server
DB接続文字列 ログを採取するDBの接続文字列
DB接続ユーザ ログを採取するDBの接続ユーザ (管理者権限)
DB接続パスワード ログを採取するDBの接続ユーザのパスワード
/-T データベースのログデータの削除を行いません。
/S:テーブル番号 ログテーブルを個別に指定して実行します。
<テーブル番号>
1: ログインログ (CMAUTLOG)
2: 画面起動ログ (CMPAGLOG)
3: サービス実行ログ (CMCOMLOG)
4: データアクセスログ (CMDACLOG)
/FS:ファイルサイズ 出力CSVファイルの最大サイズを数値で指定します。
単位はメガバイトです。
このオプションを指定しない場合は10MBとなります。
/LOG:実行ログ出力フォルダ
本ツールの実行ログを出力するフォルダを指定します。
このオプションを指定しない場合は本ツールと同じ場所に
出力します。
```

1. SSNXArchive.exeに引数を指定して実行

引数

項目	必須	内容	備考
出力先	○	CSV 出力先フォルダパスを指定します。	
DBMS 種別	○	0 または 1 (0:Oracle 1:SQL Server)	
DB 接続文字列	○	ログを採取する DB の接続文字列	
DB 接続ユーザー	○	ログを採取する DB の接続ユーザー (管理者権限)	
DB 接続パスワード	○	ログを採取する DB の接続ユーザーのパスワード	
/-T		DB のログデータを削除しません。	
/S:テーブル番号		ログテーブルを個別に指定して実行します。 <テーブル番号> 1:ログインログ(CMAUTLOG) 2:画面起動ログ(CMPAGLOG) 3:サービス実行ログ(CMCOMLOG) 4:データアクセスログ(CMDACLOG)	
/FS:ファイルサイズ		出力する CSV ファイルの最大サイズを指定します。 単位はメガバイトです。 デフォルトは 10MB です。	
/LOG:実行ログ出力フォルダ		本ツール実行ログを出力するフォルダを指定します。 このオプションを指定しない場合は、本ツールと同じ場所に出力します。	
/?		USAGE を表示します。	

実行例(ログファイルサイズ、実行ログ出力フォルダ指定)

NXArchive△D:\Temp\logarchive>ssnarchive /S:100 /LOG:/D:\Temp\logarchive\log

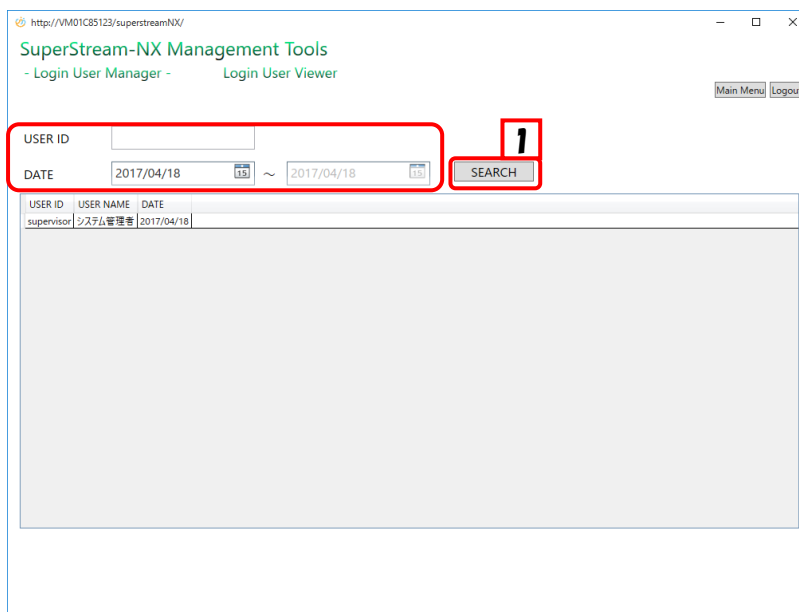


注意

接続するユーザーは管理者権限のユーザーである必要があります。
本ツールはデイリーでの実行を想定し、データの削除は TRUNCATE を実施します。
期間指定したい場合は、ログ管理ツールを利用してください。

3.2.2 ログインユーザー監視機能

ログインユーザー監視機能は、SuperStream-NX にログイン中のユーザー情報を表示する機能です。



SuperStream-NX Management Tools
- Login User Manager - Login User Viewer

USER ID:
DATE: 2017/04/18 ~ 2017/04/18
SEARCH

USER ID	USER NAME	DATE
supervisor	システム管理者	2017/04/18

1. 検索条件を入力し、【SEARCH】ボタンをクリック
⇒ 検索条件に一致するログインユーザーが表示される

ユーザーがログアウトを行っていない場合、ユーザー情報が残り、残った情報はデフォルトの設定では2日間でクリアされます。



ユーザー情報を残す日数を変更するには、構成ファイル (SuperStream.ServerApplicationConfiguration.config) の add タグ内で key="NSHKEYHOLDDAYS" の value の値を変更してください。



add タグ内の設定項目については、『3.4.1 システム共通設定項目』を参照

3.2.3 オプションツール利用設定機能

オプションツール利用設定機能は、「駅すばあと」「証憑管理」「従業員モバイル」の利用設定(する・しない・他)を行う機能です。会社毎に設定する必要があります。

1. 設定項目を入力し、【Fix】ボタンをクリック

⇒利用情報一覧に利用設定が追加(変更)される

2. 【Commit Changes】ボタンをクリック

設定内容

SuperStream-NX で利用できるオプションツール毎の設定項目です。
設定内容に誤りがある場合、正常に動作しませんので注意して設定してください。

Tool		Item1	Item2	Item3	Item4	Item5	Item6
コード	名称						
EXPT	駅すばあと	—	—	優先運賃	—	—	—
		Item7	Item8	Item9	Item10	※ハイフン(“—”)は未入力	
		—	—	—	—		



[Item3]の「優先運賃」は、経路検索画面・優先運賃のデフォルト値になります。
「優先運賃」には次の数値を指定します。
1:現金運賃のみ、2:IC 運賃優先、3:現金運賃優先、4:安い方優先

Tool		Item1	Item2	Item3	Item4	Item5	Item6
コード	名称						
SHLTR	証憑管理オプション	証憑管理オプションサーバーURL	連携用ユーザーID	連携用ユーザーIDパスワード	1～99 (※1)	QRコード生成用作業フォルダパス	(※2)
		Item7	Item8	Item9	Item10	※ハイフン(“—”)は未入力	
		—	—	—	—		

(※1)

拡張添付登録先の文書グループを指定(文書グループは、証憑管理オプションサーバーの管理画面で設定)

(※2)

- ・証憑管理 e 文書対応オプションを利用しない場合:未入力、または、0
- ・証憑管理 e 文書対応オプションを利用する場合:1

Tool		Item1	Item2	Item3	Item4	Item5	Item6
コード	名称						
MOBIL	従業員モバイルオプション	—	—	—	—	—	—
		Item7	Item8	Item9	Item10	※ハイフン(“—”)は未入力	
		—	—	—	—		

3.2.4 非同期設定機能

非同期設定機能は、SuperStream-NX クライアントと Web サービス間の接続を同期にするか非同期にするかの設定を行う機能です。



同期とは、NX Web サービスの処理が終了まで接続を維持します。

非同期とは、NX Web サービスに一定間隔で接続して処理状況を確認します。



非同期化対応の対象となるサービスについては、タイムアウトが頻発する等の処理に時間のかかるサービスとなります。
同一業務機能 ID のサービスでも処理にかかる時間に差異があるため、時間のかかるサービスのみを対象として非同期化の設定を行うようにしてください。

非同期・同期設定

非同期・同期の設定方法について説明します。

SuperStream-NX Management Tools
- Async Setting Tools - Function

COMPANY: NXSYS: S 商事株式会社
OPERATING FUNCTION ID: 1 結合会計 SEARCH 2

☐ Check All

ASYNC	OPERATING FUNCTION ID	OPERATING FUNCTION NAME	SERVICE ID	SERVICE NAME
☐	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100C01	承認/差戻
☐	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100C02	提出
☐	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100C03	削除
☐	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R01	ワークフロー-仕訳伝票提出
☐	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R02	ワークフロー-債権伝票提出
☐	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R03	ワークフロー-不良債権伝票提出
☐	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R04	ワークフロー-入金伝票提出
☐	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R05	ワークフロー-債権伝票提出
☐	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R06	ワークフロー-消込伝票提出
☐	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R07	ワークフロー-支払伝票提出
☐	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R08	ワークフロー-振込申請伝票提出
☐	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R09	ワークフロー-経費精算伝票提出
☐	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R10	ワークフロー-仕訳提出
☐	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R11	ワークフロー-承認データ提出
☐	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R12	ワークフロー-未承認仕訳伝票提出
☐	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R13	ワークフロー-債権計上伝票提出
☐	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R14	ワークフロー-前受金消込伝票提出
☐	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R15	ワークフロー-繰上債伝票提出
☐	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R16	ワークフロー-取込ファイル選択
☐	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R17	ワークフロー-会社間仕訳伝票提出
☐	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R18	ワークフロー-会社間支払伝票提出
☐	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R19	ワークフロー-会社間経費精算伝票提出
☐	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R20	ワークフロー-債権計上伝票提出

OUTPUT CSV UPDATE

1. 統合会計を選択します。

2. 業務機能IDを入力後、
【SEARCH】ボタンをクリック
⇒検索条件に一致するサービスが表示される。



以下の検索方法で検索ができます。

- ・全件検索(業務機能IDを入力しない)
- ・ワイルドカード検索(前方一致検索)



業務機能IDについては、各プロダクトの『システム設定Ⅱ_付録(画面一覧)』を参照

SuperStream-NX Management Tools
- Async Setting Tools - Function

COMPANY: NXSYS: S 商事株式会社
OPERATING FUNCTION ID: 結合会計 SEARCH

☐ Check All

ASYNC	OPERATING FUNCTION ID	OPERATING FUNCTION NAME	SERVICE ID	SERVICE NAME
☒	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100C01	承認/差戻
☒	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100C02	提出
☒	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100C03	削除
☒	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R01	ワークフロー-仕訳伝票提出
☒	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R02	ワークフロー-債権伝票提出
☒	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R03	ワークフロー-不良債権伝票提出
☒	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R04	ワークフロー-入金伝票提出
☒	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R05	ワークフロー-債権伝票提出
☒	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R06	ワークフロー-消込伝票提出
☒	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R07	ワークフロー-支払伝票提出
☒	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R08	ワークフロー-振込申請伝票提出
☒	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R09	ワークフロー-経費精算伝票提出
☒	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R10	ワークフロー-仕訳提出
☒	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R11	ワークフロー-承認データ提出
☒	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R12	ワークフロー-未承認仕訳伝票提出
☒	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R13	ワークフロー-債権計上伝票提出
☒	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R14	ワークフロー-前受金消込伝票提出
☒	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R15	ワークフロー-繰上債伝票提出
☒	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R16	ワークフロー-取込ファイル選択
☒	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R17	ワークフロー-会社間仕訳伝票提出
☒	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R18	ワークフロー-会社間支払伝票提出
☒	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R19	ワークフロー-会社間経費精算伝票提出
☒	ACA00100	ワークフロー-承認	SIACA00100R20	ワークフロー-債権計上伝票提出

OUTPUT CSV UPDATE 4

3. 非同期処理対象を
【ASYNC】チェックボックスで選択



全サービスを非同期あるいは同期に設定する場合は、【Check All】チェックボックスを使用することができます。

- ・ チェックを入れた場合
全サービスの【ASYNC】チェックボックスが選択される。
- ・ チェックを外した場合
全サービスの【ASYNC】チェックボックスが未選択になる。

4. 【UPDATE】ボタンをクリック



非同期設定の確認方法としては、再度同一の業務機能 ID にて検索を行うか、非同期・同期の設定内容一覧を出力して該当するサービスの設定を確認してください。



非同期・同期の設定内容一覧の出力方法に関しては、『非同期・同期設定内容一覧』を参照



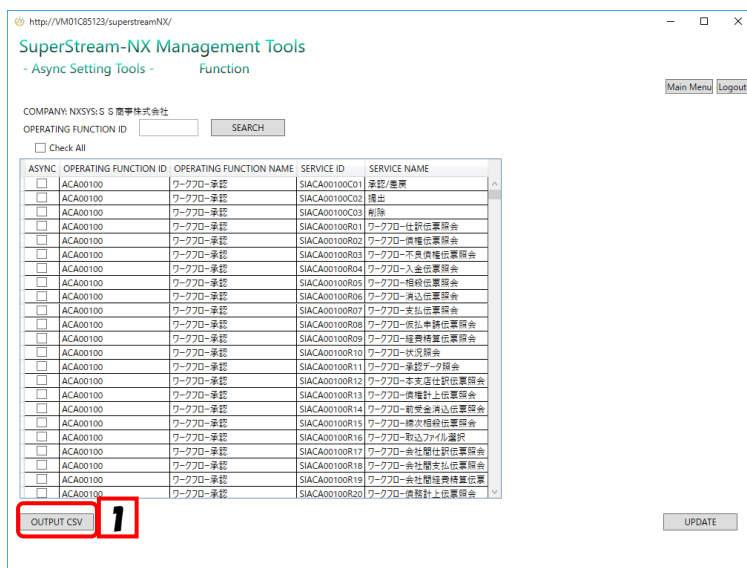
非同期設定を行った場合、クライアントへの受け渡しデータの作成のため、サーバーコンポーネントのインストール時に指定する「共通ファイル格納用フォルダ」において、ファイル I/O が発生します。

非同期設定を行う場合は、他のファイル I/O との競合によるパフォーマンスへの影響を考慮して「共通ファイル格納用フォルダ」を指定してください。

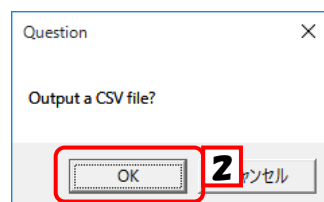
(例: 「共通ファイル格納用フォルダ」を DB サーバーに設定する場合、表領域とは別のディスクに設定する等)

非同期・同期設定内容一覧

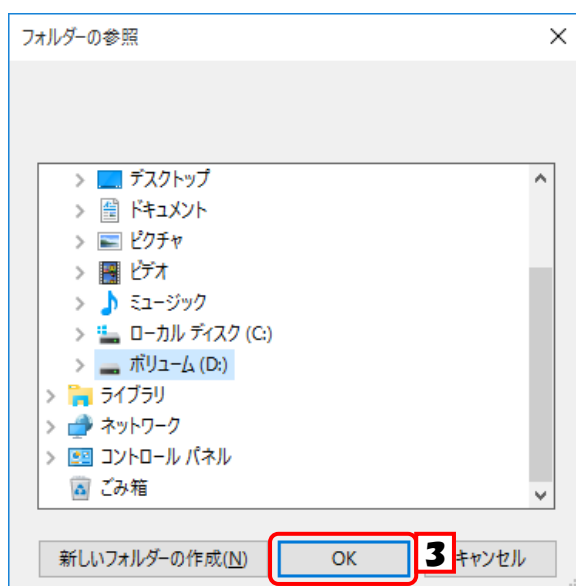
非同期・同期の設定内容一覧を出力する方法について説明します。



1. 【OUTPUT CSV】ボタンをクリック
⇒CSV出力完了ダイアログが表示される。



2. 【OK】ボタンをクリック
⇒ファイルのダウンロードダイアログが表示される。



3. 保存場所を選択後、
【OK】ボタンをクリック
⇒CSVファイルが出力される。

3.2.5 法人番号登録&情報収集許諾機能

概要

法人番号登録&情報収集許諾機能は、情報収集を行う際にキー情報となる法人番号の登録と、情報収集の同意を行うための機能です。同意した場合は、情報収集(※)が行われます。



当機能で法人番号の設定を行い、情報収集に許諾いただくことで、業務画面からのマニュアル検索、SuperStream-NX ダウンロードサイト(SDS)での製品ダウンロードがご利用いただけます。

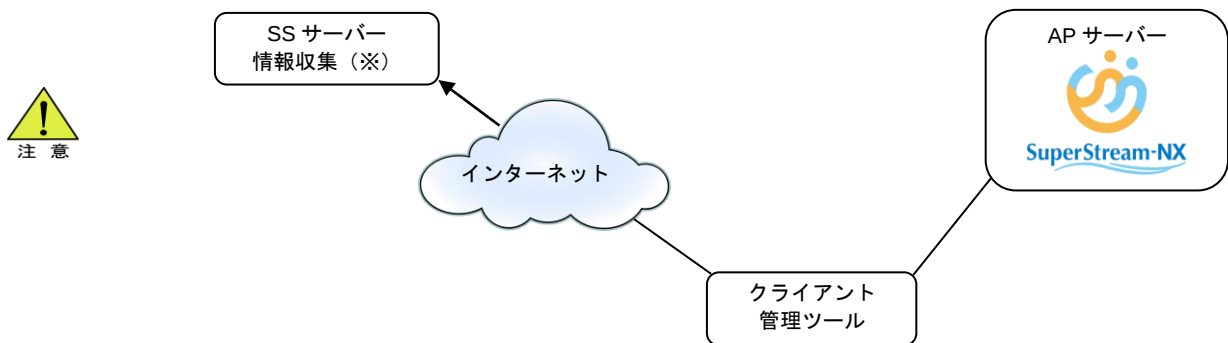
当機能は会社セットアップを行った後に行うようにしてください。

当機能を行うために、ユーザー・キー証書をお手元にご用意ください。

当機能は外部のSSサーバーへアクセスを行いますのでインターネット接続が可能なクライアント環境で実行してください。

情報収集サーバー接続先: <https://ssdownload.superstream.co.jp>

(イメージ図)



※収集する情報は当機能で表示される「情報収集に関する事前同意書 第1条(対象情報)」をご確認ください。

法人番号設定

法人番号の設定方法について説明します。

The screenshot shows the '法人番号登録' (Corporate Number Registration) section. It includes fields for 'ユーザーKey' (User Key), '代表会社コード' (Representative Company Code), and '法人番号' (Corporate Number). The '確定' (Confirm) button is highlighted with a red box and the number 1.

1. ユーザーKeyを入力後、
【確定】ボタンをクリック
⇒登録されている代表法人番号と会社マスタに定義されている会社一覧が表示される。



[ユーザーKey]はSuperStream-NX2.0以降、初回出荷時に同梱されている「ユーザー・キー証書」から転記してください。

尚、本番稼働以外の検証等で設定を行う場合は「自社検証／プリセールス／その他用 ユーザー・キー証書」をご使用ください。



「自社検証／プリセールス／その他用 ユーザー・キー証書」では、SuperStream-NXダウンロードサイト(SDS)でのアカウント作成は行えません。

SuperStream-NX Management Tools
- Corporate Number Setting -

法人番号登録 ※ 当処理は会社セットアップ後に行ってください

ユーザーKey: 50848BDDF23C44E79A1101845409189A

代表会社コード: KAI01: エス・エス商事株式会社 (法人番号入力あり) 代表法人番号 (輸入社): 2010701026126

関連会社コード: 法人番号

変更 会社コード 会社名称 法人番号

☐	KAI02	エス・エス商事株式会社 (法人番号入力なし)	
☐	KAI12	International Test Company	
☐	NXSYS	エス・エス商事株式会社	

法人番号検索サイト

2. 表示されている[代表法人番号(購入社)]に対応する会社コードを[代表会社コード]コンボボックスで選択する。



[代表会社コード]の設定は必須となります。選択した会社により[統合会計][人事][給与]のチェックボックスが切り替わります。

SuperStream-NX Management Tools
- Corporate Number Setting -

法人番号登録 ※ 当処理は会社セットアップ後に行ってください

ユーザーKey: 50848BDDF23C44E79A1101845409189A

代表会社コード: KAI01: エス・エス商事株式会社 (法人番号入力あり) 代表法人番号 (輸入社): 2010701026126

関連会社コード: 法人番号

変更 会社コード 会社名称 法人番号

☐	KAI02	エス・エス商事株式会社 (法人番号入力なし)	
☐	KAI12	International Test Company	
☐	NXSYS	エス・エス商事株式会社	

法人番号検索サイト

3. データグリッドから設定したい会社を選択する。



データグリッドの選択はマウスカーソルで行ってください。選択した会社により[統合会計][人事][給与]のチェックボックスが切り替わります。

4. 対応する法人番号を入力する。



画面右下の[法人番号検索サイト]をクリックすると、国税庁法人番号検索サイトが表示されます。関連会社が外国法人で法人番号が存在しない場合は、代表法人番号を入力してください。なお、代表法人が外国法人の場合は、法人番号に99で始まる番号が表示され、関連会社には自動で法人番号が振られます。そのまま【次へ】ボタンで進んでください。

5. 【確定】ボタンをクリックする。
⇒データグリッドに入力した法人番号が反映される。



基本的にすべての会社コードに対して法人番号を設定してください。設定を行った会社でログインを行った場合にマニュアル検索が可能となります。

SuperStream-NX Management Tools
- Corporate Number Setting -

法人番号登録 ※ 当処理は会社セットアップ後に行ってください

ユーザーKey: 508488D0F23C44E79A1101845409189A

代表会社コード: KAI01 エス・エス・エス株式会社 (法人番号入力あり) 代表法人番号 (輸入社): 2010701026126

関連会社コード: NXSYS エス・エス・エス株式会社 法人番号: 9360001012223

代表会社コード	会社名称	法人番号
✓ KAI02	エス・エス・エス株式会社 (法人番号入力なし)	6010701025982
✓ KAI12	International Test Company	3010705001768
✓ NXSYS	エス・エス・エス株式会社	9360001012223

6 次へ



SuperStream-NX Management Tools
- Corporate Number Setting -

インターネット情報収集条項をお読みください。

情報収集に関する事前同意書

スーパーシステム株式会社 (以下、「当社」といいます) は、当社所定の統合会計・固定資産・人事給与システム「SuperStream-NX」(以下、「本製品」といいます) を利用されているお客様 (以下、「お客様」といいます) 向けに、本製品の利便性向上を促進・支援するための情報提供サイト「SuperStream Download Site (SDS)」(以下、「本サイト」といいます) を運営しております。

お客様による本サイトの利用及び当社による運営にあたり、当社は、本同意書 (以下、「本書」といいます) 第1条に定める対象情報を必要とします。お客様は、当社による対象情報の取得・利用等について、本書に予め同意いただくものとします。本書に同意されたお客様のみが、本サイトを利用することができます。本書に同意いただいたお客様は「同意する」チェックをクリックして操作を続けてください。

第1条 (対象情報)

1. 当社は、お客様が本製品をインストール後、管理ツールから本書に同意いただくと、次に定めるお客様固有の法人情報 (以下、「対象情報」といいます) を取得し、これを第2条に定める利用目的に必要な範囲内で、本製品の利用期間中及びその終了後も、利用等 (複製、改変、修正、加工及びこれらの行為により生じた二次的著作物の利用等を含みますが、これらに限定されません。以下同じ) できるものとします。お客様はこれに同意するものとします。
 - ① 本製品の初期インストール又は利用開始時に登録されたお客様の法人番号
 - ② 本製品のバージョン情報
 - ③ 本製品がインストールされているハードディスクの容量情報
 - ④ 本製品が稼働・連携するWebサーバのバージョン・スペック情報
 - ⑤ 本製品が稼働・連携するDBサーバのバージョン・スペック情報
 - ⑥ お客様による本製品で利用されている機能の詳細
 - ⑦ 本製品のうち統合会計機能を使用された場合に発生する仕訳明細数
 - ⑧ 本製品のうち固定資産機能を使用された場合に発生する資産数
 - ⑨ 本製品のうち人事給与機能を使用された場合に発生する従業員数
 - ⑩ 本製品のエラー発生時のエラーログ
2. お客様と当社が別途書面で合意している場合を除き、いかなる場合であっても、当社は、お客様による本サイトの利用に関連して、お客様の従業員その他本製品を使用する個人に関する個人情報やマイナンバー (個人情報保護法に定めるものをいう。以下同じ) を取得しません。

第2条 (利用目的)

当社は、次に定める利用目的 (以下、「利用目的」といいます) に関し、お客様が前条に定める対象情報を取得し、利用等するものとします。

- ① 本製品および本サイトの品質、利便性及びサービス内容の向上
- ② 本製品がお客様のシステム要件に適合しているかの確認

7 8 OK

6. 【次へ】ボタンをクリックする。



法人番号の更新を行った場合は「当画面入力法の法人番号を会社マスタに反映します。よろしいですか?」のメッセージが表示されます。

- 「はい」を選択した場合
会社マスタ(※)を更新後に次の画面へ移動します。
- 「いいえ」を選択した場合
会社マスタ(※)を更新せずに次の画面へ移動します。

※会社マスタとは下記を示します。

統合会計: 会社マスタ(CMKAIMST)

人事: 会社定義マスタ(HRKAIMST)

給与: 会社定義3マスタ(PRKA3MST)

7. 「情報収集に関する事前同意書」をご確認いただき、同意される場合はチェックする。



2回目以降の設定では、前回行われた設定がチェックボックスに反映されます。「情報収集に関する事前同意書」に同意された場合にマニュアル検索が行えます。

8. 【OK】ボタンをクリックする。

- 「7」でチェックを入れた場合
同意書内の対象情報が送信される。
- 「7」でチェックを外した場合
同意書内の対象情報は送信されずに情報収集を行わないという設定のみが行われる。

3.3 ログインスキップ機能

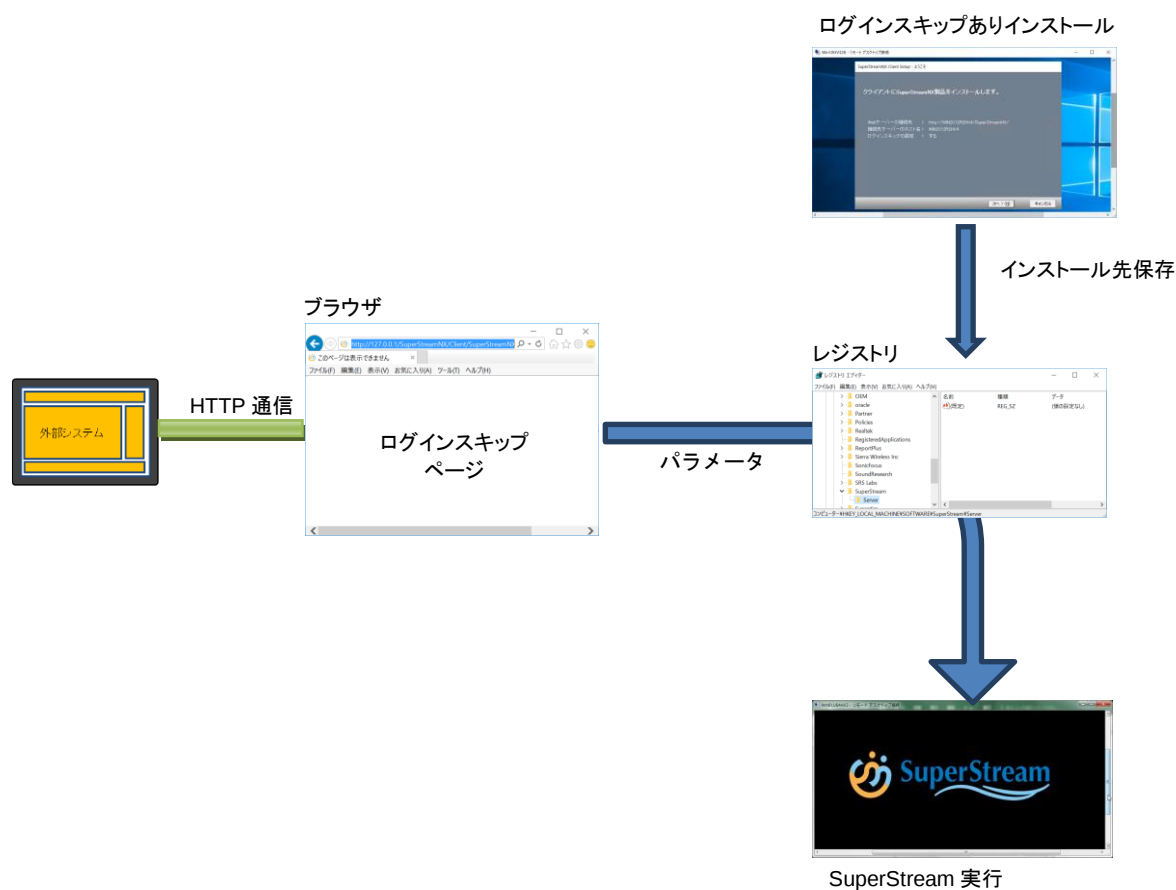
概要

この章では、SuperStream-NX ログインスキップ機能について説明します。

ログインスキップ機能とは外部システムなどから HTTP 通信にて送られてきたパラメータを元に SuperStream-NX アプリケーション内のログイン画面の自動選択を行い業務画面まで遷移する機能です。

最終の遷移先画面についてはパラメータの内容によって異なります。

図 4 ログインスキップの概要図



詳細

ログインスキップ機能の詳細について説明をします。

プロトコル

対応する HTTP 通信のプロトコルは HTTP と HTTPS です。

メソッド

対応する HTTP 通信のメソッドは POST と GET です。

受信するメソッドの可否制御を NX システム共通の設定ファイル(※1)で定義します。

インストール後の初期値は POST です。

初期値のまま利用すると POST のみ受信可能となります。

※1 SuperStream.ServerApplicationConfiguration.config ファイルの AUTOLOGINPARAMMETHOEDNAME 項目

パラメータ

各項目の内容を下記に示します。

項目			設定内容
パラメータ	論理名	分類	
KaiCode	会社コード	ログイン情報	会社コード(5 桁) 例、NXSYS
UserId	ユーザーID	ログイン情報	
Password	パスワード	ログイン情報	暗号化文字列、又は平文を設定。 設定方針が決まったらNXシステム共通の設定ファイルの AUTOLOGINPSWDENCRYPT項目にどちらを利用するか設定が必要。
LogInDate	ログイン日付	ログイン情報	フォーマットは"yyyymmdd"又は"yyyy/mm/dd"又は"Today" "Today"の場合は本日付が設定される。
ProductId	製品 ID	製品情報	01:統合会計、02:固定資産管理
Pageld	画面 ID	製品情報	業務機能 ID(XXX99999) 例、AGF01000 業務機能 ID については、各プロダクトの『システム設定 II_付録(画面一覧)』を参照。 ただし、指定できる業務機能 ID はメニューから選択できるものに限る。

最終遷移先画面

最終の遷移先画面はパラメータのパターンによって異なります。

【会社コード、ユーザーID、パスワード、ログイン日付が未入力の場合】

ログイン画面を表示し、画面遷移を止めます。

未入力部分を入力しログイン成功後のフローは【製品 ID と画面 ID のケースの場合】の動作に準拠。

【会社コード、ユーザーID、パスワード、ログイン日付が不正の場合】

ログイン認証エラーメッセージを表示してログイン画面を表示。画面遷移を止めます。

不正部分を正常に入力しログイン成功後のフローは【製品 ID と画面 ID のケースの場合】の動作に準拠。

【製品 ID と画面 ID のケースの場合(ログイン情報は正しい前提)】

製品 ID と画面 ID のケースで遷移先画面が異なります。

製品 ID と画面 ID のパターンを以下に示します。

パラメータ	パターン		
	1	2	3
製品 ID	○	○	×
画面 ID	○	×	×

○: 指定有り

×: 指定なし

パターン毎の画面動作を以下に示します。

パターン	最終画面状態
1	指定した業務画面
2	メニュー画面
3	メニュー画面

SaaS 環境で利用する場合は特にセキュリティの観点からログインスキップ機能を利用する場合は以下の設定を推奨します。

スキーム:HTTPS (SSL 環境)

メソッド:POST

パラメータのパスワード:暗号化文字列

パスワードの暗号化文字列の作成は NX 暗号化ツールを使用してください。

NX 暗号化ツールはダウンロードサイトより取得してください。

ログインスキップ機能を使用した後、ログアウトを行い続けての再ログイン後の動作は通常起動(操作)時と同じになります。(自動遷移は行いません。)



利用方法例

ログインスキップ機能を外部から利用する場合の設定例を説明します。

例で記載している URL は office のハイパーリンク機能などで指定する場合の URL です。(HTML のリンクで設定する URL も同様です。)

前提事項:

NX システム共通の設定ファイルは以下で設定

属性名	設定値
AUTOLOGINPSWDENCRYPT	true(パスワードは平文で渡ってくる)
AUTOLOGINPARAMMETHOEDNAME	GET

パラメータ

項目	設定値
会社コード	NXSYS
ユーザーID	testUser
パスワード	testPswd
ログイン日付	20130131
製品ID	01 (統合会計)
画面ID	ACM03100 (社員マスタ登録)

① メニュー画面を表示させる場合の URL:

[http://\(ホスト名\)/\(サイト名\)/Client/SuperStreamNXAuto.aspx](http://(ホスト名)/(サイト名)/Client/SuperStreamNXAuto.aspx)

② 社員マスタ登録画面を表示させる場合 URL:

[http://\(ホスト名\)/\(サイト名\)/Client/SuperStreamNXAuto.aspx?KaiCode=NXSYS&UserId=testUser
&Password=testPswd&LoginDate=20130131&ProductId=01&PageId=ACM03100](http://(ホスト名)/(サイト名)/Client/SuperStreamNXAuto.aspx?KaiCode=NXSYS&UserId=testUser&Password=testPswd&LoginDate=20130131&ProductId=01&PageId=ACM03100)



上記サンプル URL のような URL にクエリパラメータを付加する場合はパラメータ値に対して URL エンコードを行った値を設定(指定)してください。

暗号化されたパスワードの文字列には特殊文字(プラス(+),イコール(=))が含まれている事があります。

その場合、暗号化されたパスワードをそのまま指定してしまうと URL エンコードがされず Web サーバー側(IIS)で URL デコードされてしまい実際の値と異なって処理されてしまいます。



ブラウザの設定において、ポップアップブロックを有効に設定している場合、ログインスキップ機能が動作しない場合があります。その際は、ポップアップブロックを無効に設定してください。



クエリパラメータは大文字／小文字を判別します。

(正) LoginDate

(誤) LoginDate

※左記例は大文字「I」を小文字「i」と記述している個所が誤りです

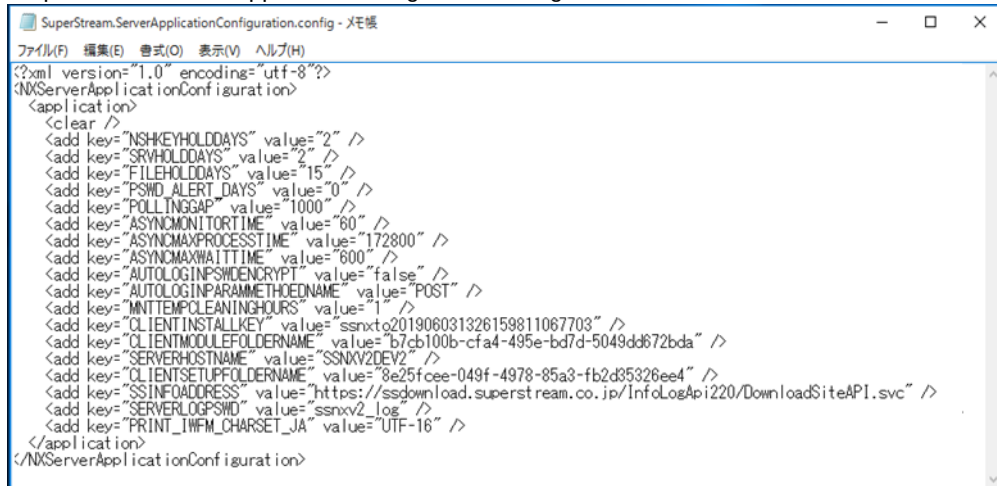
3.4 サーバー側の設定ファイル

3.4.1 システム共通設定項目

SuperStream.ServerApplicationConfiguration.config ファイル

- 本ファイルは NX システム共通の設定を行うファイルです。
- 本ファイルは”インストール先フォルダ¥config”配下に格納されています。
- 本ファイルの変更点を反映するには IIS の再起動が必要です。

【SuperStream.ServerApplicationConfiguration.config ファイルのイメージ】



本ファイルの application タグ内の各項目を設定します。
各項目の内容を下記に示します。

項目タグ名	属性名	設定内容
Add	NSHKEYHOLDDAYS	ログインしているユーザーの認証キーを残す日数を設定します。(単位: 日)
	SRVHOLDDAYS	業務排他制御に使用する「サービス実行管理マスタ」の有効期間を設定します。
	FILEHOLDDAYS	共通ファイル格納用フォルダおよび内部フォルダのテンポラリファイルの保存期間を設定します。 ※保存期間を超えたファイルは、IIS のアプリケーションプールのプロセス起動時に自動で削除されます。
	PSWD_ALERT_DAYS	パスワードの有効期限切れの警告するメッセージを、何日前から表示するかを設定します。(単位: 日) 未設定の場合は、0 日(当日)に設定されます。 ※初期パスワードの有効期限切れについても警告が表示されます。
	POLLINGGAP	ポーリング間隔を設定します。(単位: ミリ秒) 未設定の場合は、1000 ミリ秒に設定されます。
	ASYNCMONITORTIME	監視間隔を設定します。(単位: 秒) 未設定の場合は、60 秒に設定されます。
	ASYNCMAXPROCESSTIME	非同期実行 EXE が開始してから、強制終了されるまでの時間を設定します。(単位: 秒) 未設定の場合は、172800 秒(48 時間)に設定されます。
	ASYNCMAXWAITTIME	非同期実行 EXE が終了してから、非同期ブリッジで実行結果の取得が完了するまでの待ち時間を設定します。(単位: 秒) この時間を超過した場合は、結果取得に失敗したものと扱われます。 未設定の場合は、600 秒に設定されます。

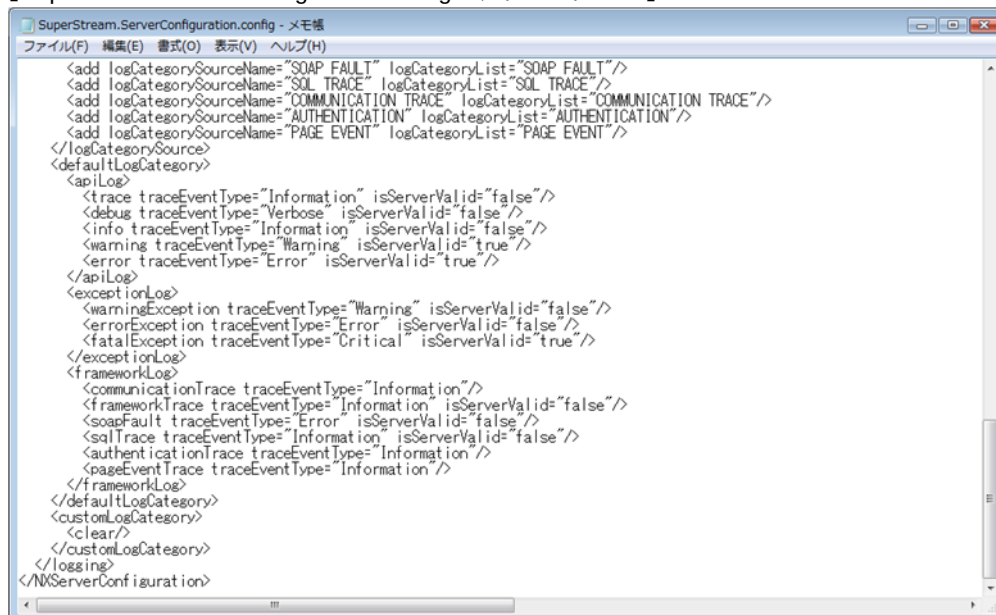
項目タグ名	属性名	設定内容
	AUTOLOGINPSWDENCRYPT	ログインスキップ機能にて外部より渡されてきたパスワードデータを暗号化する or しないかの設定をします。 true と設定した場合は平文で渡されてきたと判断しパスワードデータを暗号化します。 false(初期値)と設定した場合は暗号化されたパスワードが渡されてきたと判断しパスワードデータの暗号化は行いません。
	AUTOLOGINPARAMMETHOEDNAME	ログインスキップ機能にて受信を行う HTTP 通信メソッドを設定します。 設定可能値は POST、又は GET です。 初期値は POST です。
	MNTEMPCLEANINGHOURS	マイナンバー対象帳票作成用テンポラリファイルの削除間隔を設定します。1~48 の数値を設定します。(単位: 時間) デフォルトは 1 時間です。
	CLIENTINSTALLKEY	アプリケーションサーバーインストーラーが生成したクライアントインストールキーが設定されます。 システムが使用しますので値を変更しないでください。
	CLIENTMODULEFOLDERNAME	アプリケーションサーバーインストーラーが生成したクライアントモジュールの格納先フォルダ名となる GUID が設定されます。 システムが使用しますので値を変更しないでください。
	SERVERHOSTNAME	アプリケーションサーバーインストーラーの「IIS の設定」画面で指定した[サイトのホスト名]が設定されます。 システムが使用しますので値を変更しないでください。
	CLIENTSETUPFOLDERNAME	アプリケーションサーバーインストーラーが生成したクライアントインストーラーの格納先フォルダ名となる GUID が設定されます。 システムが使用しますので値を変更しないでください。
	SSINFOADDRESS	情報収集サイトが設定されます。 システムが使用しますので値を変更しないでください。
	SERVERLOGPSWD	ログ収集機能で作成される書庫(zip)の解凍パスワードを設定します。初期値は ssnxv2_log です。 ログ収集機能を使用する際には初期値を変更してください。
	PRINT_IWFM_CHARSET_JA	日本語で出力される帳票の文字コードが設定されます。imageWARE Form Manager 専用の設定値です。 初期値は UTF-16 です。

3.4.2 ログ関連設定項目

SuperStream.ServerConfiguration.config ファイル

- 本ファイルはサーバー側のログ出力設定を行うファイルです。
- 本ファイルは”インストール先フォルダ¥config”配下に格納されています。
- 本ファイルの変更点を反映するには IIS の再起動が必要です。

【SuperStream.ServerConfiguration.config ファイルのイメージ】



本ファイルの< logging >< defaultLogCategory >タグ内の各項目を設定します。
各項目の内容を下記に示します。

項目タグ名		属性	
		traceEventType (変更不可)	isServerValid 設定内容および初期値 (true:出力されます、false:出力されません)
apiLog	trace	Information	トレースログのサーバー側の出力可否を設定します。 false
	debug	Verbose	デバッグログのサーバー側の出力可否を設定します。 false (変更不可)
	error	Error	エラーログのサーバー側の出力可否を設定します。 true (変更不可)
exceptionLog	exception	Error	業務エラー例外ログのサーバー側の出力可否を設定します。 false
	fatalException	Critical	致命的エラー例外ログのサーバー側の出力可否を設定します。 true (変更不可)

属性 traceEventType 設定内容一覧



列挙値	内容
Critical	致命的なエラーまたはアプリケーションのクラッシュ。
Error	回復可能なエラー。
Information	情報メッセージ。
Verbose	トレースのデバッグ。

3.4.3 サービス停止設定項目

SSNXServiceStopInformationV2.xml ファイル

- 本ファイルは NX システムのサービス停止設定の情報を定義するファイルです。
- 本ファイルは”インストール先フォルダ¥settings”配下に格納されています。
- サービス停止設定画面から編集されるため、**手動での編集は禁止です**。
- サービス停止設定画面から編集すると、更新前状態のファイルでバックアップファイル(※)を生成します。
※ SSNXServiceStopInformationV2.ssback.xml



[サービス停止設定]の操作手順は
『操作マニュアル・基本操作編』の[3.10.2 サービス停止設定]を参照してください。



注 意

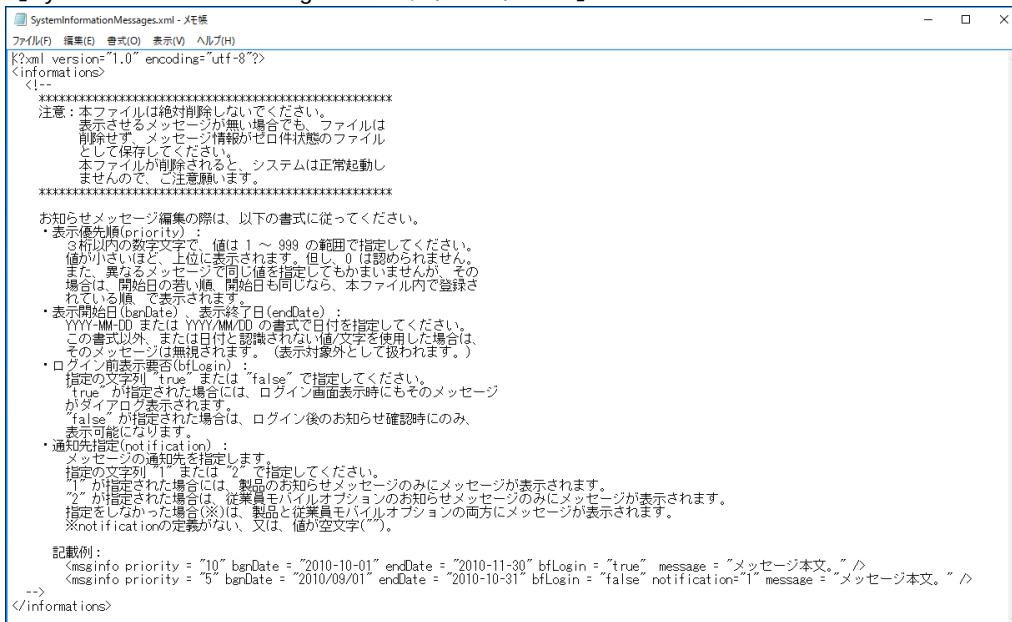
SSNXServiceStopInformation.xml ファイルの利用は 2019-10-01 版より廃止となります。

3.4.4 お知らせメッセージの設定

SystemInformationMessages.xml ファイル

- 本ファイルは、メンテナンス情報などのお知らせ通知機能として、ログイン前やログイン後に自由にメッセージを表示するために定義するファイルです。
- 本ファイルを直接エディタで編集することで、指定の期間、指定のメッセージを表示することが可能です。
- 本ファイルは”インストール先フォルダ¥config”配下に格納されています。

【SystemInformationMessages.xml ファイルのイメージ】



本ファイルの msginfo タグ内の各項目を設定します。
各項目の内容を下記に示します。

項目名	設定内容
priority	表示優先順(1～999) 値が小さいほど、上位に表示されます。
bgnDate	表示開始日(YYYY-MM-DD または YYYY/MM/DD)
endDate	表示終了日(YYYY-MM-DD または YYYY/MM/DD)
bfLogin	ログイン前表示要否(true または false) true: ログイン画面表示時(ログイン前)にも、指定のメッセージが表示されます。 false: ログイン後のお知らせ確認時にのみ、指定のメッセージが表示されます。
notification	通知先指定(1 または 2) 1: 製品のお知らせメッセージのみに表示されます。 2: 従業員モバイルオプションのお知らせメッセージのみに表示されます。 未定義の場合は、製品と従業員モバイルオプションの両方に表示されます。
message	お知らせメッセージ本文

記入例

<msginfo priority = "1" bgnDate = "2010-11-01" endDate = "2010-11-01" bfLogin = "true" message = "本日 18:00～19:00 に、臨時のシステムメンテナンスを行います。" />

<msginfo priority = "2" bgnDate = "2010/11/01" endDate = "2010/11/30" bfLogin = "false" notification="1" message = "30 日 27:00～28:00 は、システムメンテナンスのため一部 SaaS サービスがご利用頂けません。" />



本ファイル内にも、記述方法が載っていますので、参考してください。

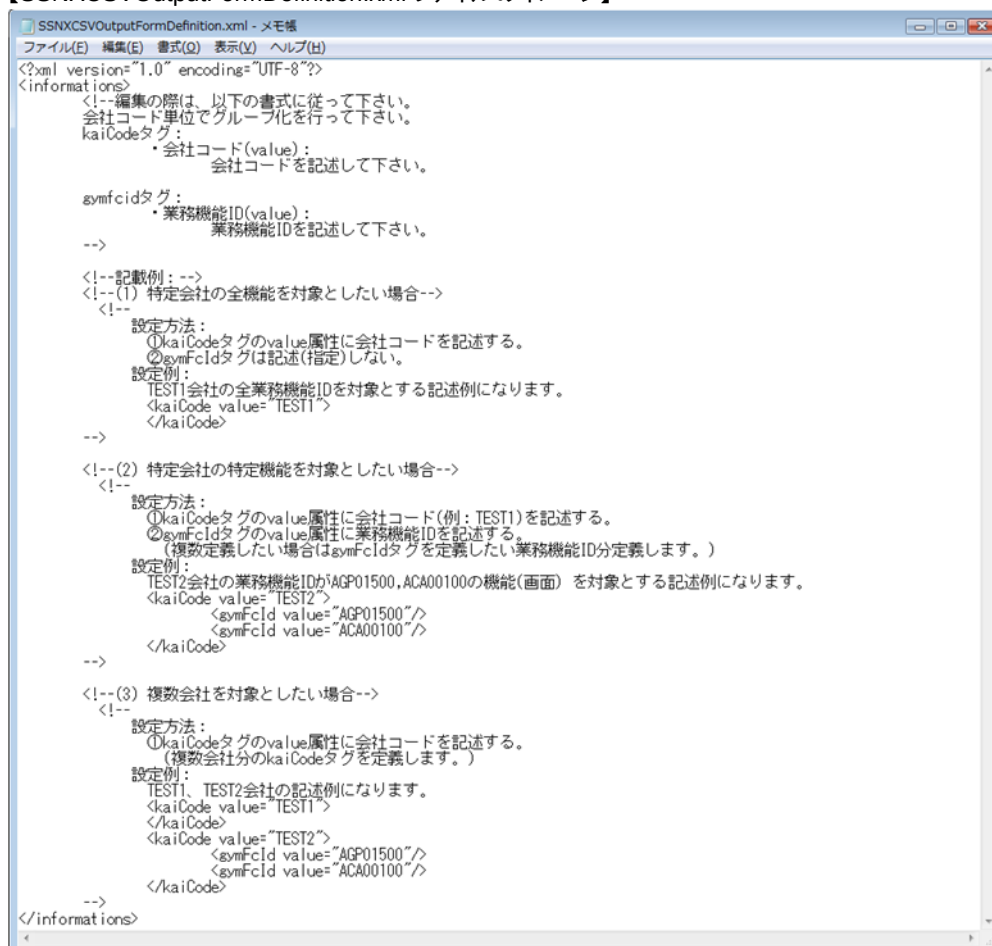
本ファイルは削除しないように注意してください。削除すると、正常にシステムが起動しなくなります。
メッセージが無い場合は、メッセージ 0 件の状態(msginfo タグが無い状態)で保存するようにしてください。

3.4.5 出力 CSV ファイルのフォーマットの設定

SSNXCSVOutputFormDefinition.xml ファイル

- 本ファイルは、出力する CSV ファイルのフォーマットを定義するファイルです。
- 初期設定(本ファイルに定義しない場合)は、シングルクォーテーションで囲まずに出力されます。シングルクォーテーションで囲む場合のみ本ファイルの設定を行います。
- 本ファイルを直接エディタで編集することで、「会社単位」または「会社＋業務機能 ID」単位で出力 CSV ファイルの各項目をシングルクォーテーションで囲む設定を行うことが可能です。
- 本ファイルは「インストール先フォルダ¥config」配下に格納されています。

【SSNXCSVOutputFormDefinition.xml ファイルのイメージ】



本ファイルの kaiCode タグ内の各項目を設定します。
各項目の内容を下記に示します。

項目名	設定内容
kaiCode	会社コード(5桁) 例、NXSYS
gymFclD	業務機能 ID(XXX99999) 例、AGF01000 業務機能 ID については、各プロダクトの『システム設定 II_付録(画面一覧)』を参照。 ※外部連携サービスを指定する場合は、NCW00100 を指定

記入例

<会社単位で設定する場合>

```
<kaiCode value="NXSYS">
</kaiCode>
<kaiCode value="NX001">
</kaiCode>
```

<会社＋業務機能 ID 単位で設定する場合>

```
<kaiCode value="NXSYS">
  <gymFcId value="AGF01000"/>
  <gymFcId value="FFF00300"/>
</kaiCode>
<kaiCode value="NX001">
  <gymFcId value=" AGF01000"/>
</kaiCode>
```



本ファイル内にも、記述方法が載っていますので、参考にしてください。

- ・ 初期設定（本ファイルに定義しない場合）は、シングルクォーテーションで囲まずに出力されます。
- ・ NX 統合会計の予算登録（AGF01000）の「雛形作成」、資金繰予定データ取込（AGF02000）の「雛形作成」、NX 固定資産管理の外部取込用異動データ作成（FFF00300）は、出力した CSV ファイルを編集して取り込みを行うための機能です。



注 意

出力した CSV ファイルを Excel で編集する場合、シングルクォーテーションで囲まれていないとコード値が数値に変換（0100→100）されてしまいます。出力した CSV ファイルを Excel で編集する場合は、NX 統合会計の予算登録（AGF01000）、NX 固定資産管理の外部取込用異動データ作成（FFF00300）については、本定義を必ず行ってください。

- ・ Grid-CSV におけるヘッダー部分は、本ファイルの定義によらず、シングルクォーテーションで囲まずに出力されます。
- ・ NX 固定資産管理の償却資産申告書（FFP00400）で電子申告用に作成する CSV ファイルは、初期設定（本ファイルに定義しない）で出力してください。

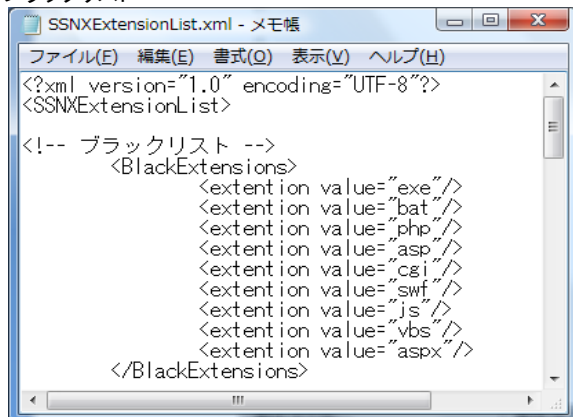
3.4.6 ファイルアップロード制限の設定

SSNXExtensionList.xml ファイル

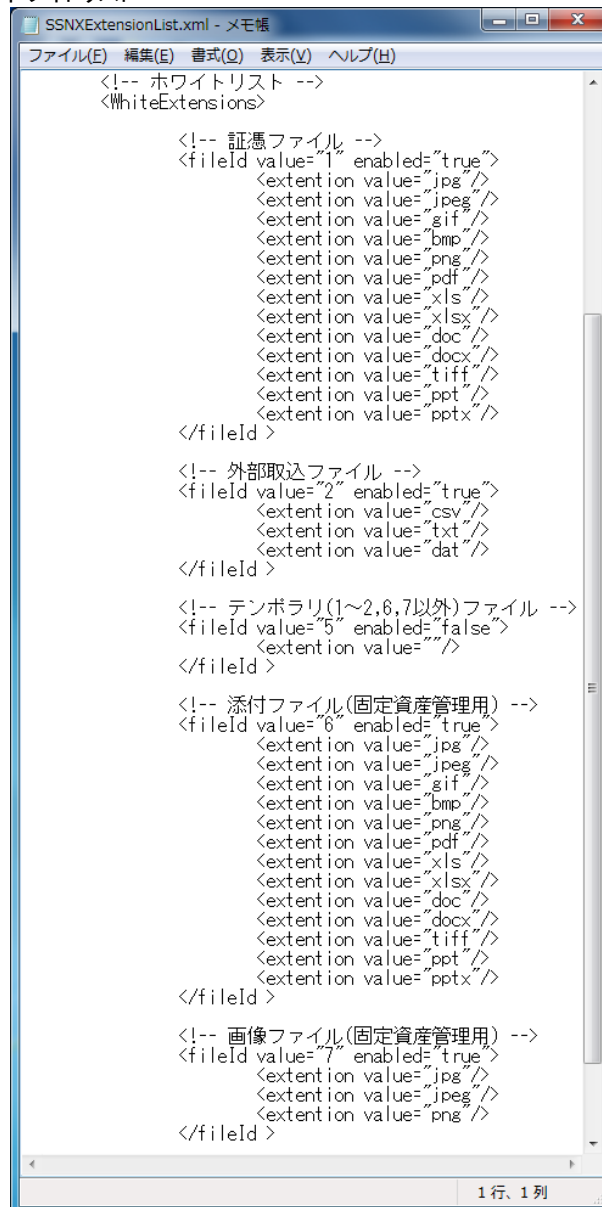
- 本ファイルは、アップロードするファイルの拡張子を制限する定義ファイルです。
- ホワイトリストに定義された拡張子のファイルのみアップロードが許可されます。
- ホワイトリストが無効の設定の場合には、ブラックリストに設定された拡張子のファイルはアップロードできません。
- 拡張子なしのファイルを設定するには、「<extention value=""/>」を追加してください。
- ホワイトリストはアップロードファイルの種類ごとの設定ですが、ブラックリストは共通設定です。
- 拡張子は大文字小文字を区別しません。
- 本ファイルは「インストール先フォルダ¥config」配下に格納されています。

【SSNXExtensionList.xml ファイルのイメージ】

ブラックリスト



ホワイトリスト



各項目の内容を下記に示します。
ブラックリスト (BlackExtensions)

項目タグ名	属性名	設定内容
BlackExtensions	extention	value
		アップロード禁止の拡張子を設定します。 ホワイトリストで fileId タグの enabled が false の場合に適用されます。 ブラックリストの項目を追加するには extention タグを追加してください。

ホワイトリスト(WhiteExtensions)

項目タグ名		属性名	設定内容
WhiteExtensions	fileId	value	アップロードファイルの種類を設定します。 項目削除、項目変更はしないでください。 1: 証憑ファイル 2: 外部取込ファイル 5: テンポラリ(1~2,6,7 以外)ファイル 6: 添付ファイル(固定資産管理用) 7: 画像ファイル(固定資産管理用)
		enabled	項目設定の有効無効を設定します。 true: ホワイトリストが有効になります。 false: ホワイトリストが無効になりブラックリストが有効になります。
	extention	value	アップロード許可の拡張子を設定します。 ホワイトリストの項目を追加するには extention タグを追加してください。

初期設定値は次の通りです。

ブラックリスト(BlackExtensions)

exe / bat / php / asp / cgi / swf / js / vbs / aspx

ホワイトリスト(WhiteExtensions)

File ID	種類名	有効無効 (enabled)	拡張子 (extention)
1	証憑ファイル	有効(true)	jpg / jpeg / gif / bmp / png / pdf / xls / xlsx / doc / docx / tiff / ppt / pptx
2	外部取込ファイル	有効(true)	csv / txt / dat
5	テンポラリ(1~2,6,7 以外)ファイル (NX の画面からは使用されません)	無効(false)	なし
6	添付ファイル(固定資産管理用)	有効(true)	jpg / jpeg / gif / bmp / png / pdf / xls / xlsx / doc / docx / tiff / ppt / pptx
7	画像ファイル(固定資産管理用)	有効(true) (変更不可)	jpg / jpeg / png (上記拡張子以外は設定不可)



・拡張子なしのファイルをアップロードする場合

拡張子なしを許可する場合は、ホワイトリストに「<extention value=""/>」を追加してください。
もしくは、fileId タグの enabled を false に設定しホワイトリストを無効にしてください。

・拡張子が動的に変更されるファイルをアップロードする場合

拡張子が動的に変更される場合にはホワイトリストは利用できません。
fileId タグの enabled を false に設定しブラックリストのみで運用してください。



ホワイトリストの画像ファイル(固定資産管理用)については、有効無効は変更しないでください。
また、設定する拡張子は、jpg / jpeg / png 以外は設定しないでください。



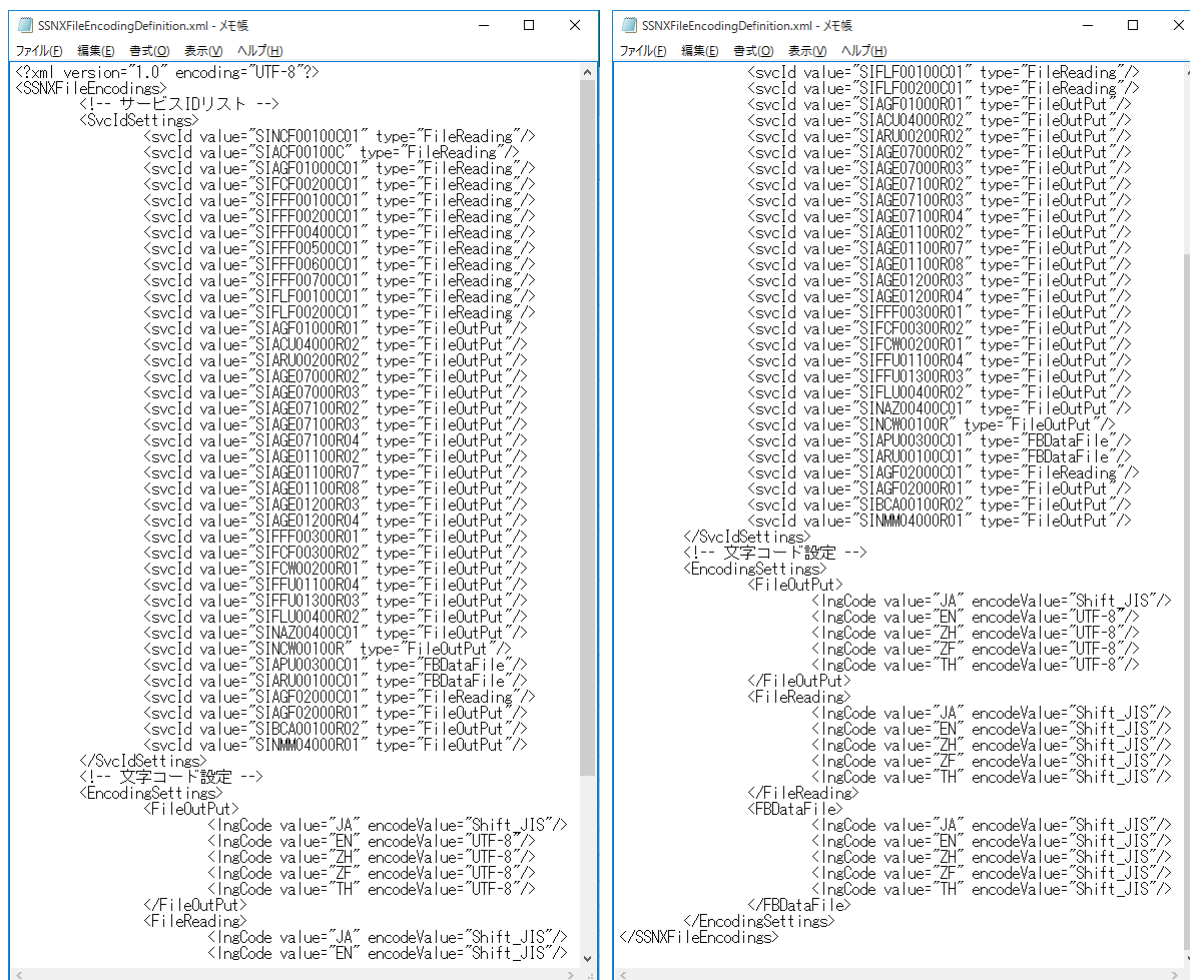
本ファイルは削除しないように注意してください。削除するとファイルアップロードができなくなります。

3.4.7 入出力ファイルの文字コードの設定

SSNXFileEncodingDefinition.xml ファイル

- 本ファイルは、NX システムで扱う出力ファイルおよび読込ファイルの文字コードを指定する定義ファイルです。
- ユーザーの言語単位でファイルの文字コードを定義できます。
- 定義可能な文字コードは「Shift_JIS」もしくは「UTF-8」となります。
- 本ファイルは「インストール先フォルダ¥config」配下に格納されています。

【SSNXFileEncodingDefinition.xml ファイルのイメージ】



各項目の内容を下記に示します。

項目タグ名		属性名	設定内容
SvcIdSettings	svcId	value	ファイル操作を行うサービス ID を設定します。 (※)前方一致での指定も可能です。 例えば、「SINCW00100R」を設定した場合、「SINCW00100R01」～「SINCW00100R36」のサービス ID に対して有効になります。
		type	ファイル操作の種類を設定します。 ・FileOutPut(ファイル出力系) ・FileReading(ファイル読込系) ・FBDataFile (FB データ系)

項目タグ名			属性名	設定内容
EncodingSettings	FileOutPut	IngCode	value	言語コードを設定します。
			encodeValue	出力ファイルの文字コードを設定します。 value で設定した言語コードでログインした場合に適用されます。 ・Shift_JIS ・UTF-8
	FileReading	IngCode	value	言語コードを設定します。
			encodeValue	読込ファイルの文字コードを設定します。 value で設定した言語コードでログインした場合に適用されます。 ・Shift_JIS ・UTF-8
	FBDataFile	IngCode	value	言語コードを設定します。
			encodeValue	FB データファイルの文字コードを設定します。 value で設定した言語コードでログインした場合に適用されます。 ・Shift_JIS ・UTF-8

初期設定値は次の通りです。

サービス ID リスト(SvcIdSettings)		
分類	サービス ID	備考
ファイル読込系 (FileReading)	SINCF00100C01	外部マスタ取込
	SIACF00100C01 ～SIACF00100C09	外部データ取込 (※)設定ファイルには「SIACF00100C」で定義
	SIAGF01000C01	予算登録
	SIAGF02000C01	資金繰予定データ取込
	SIFCF00200C01	マスタデータ一括取込
	SIFFF00100C01	固定資産異動データ取込
	SIFFF00200C01	償却資産税残高取込
	SIFFF00400C01	固定資産管理情報一括取込
	SIFFF00500C01	固定資産異動履歴取込
	SIFFF00600C01	過年度データ取込
	SIFFF00700C01	異動予定データ取込
	SIFLF00100C01	リース資産異動データ取込
	SIFLF00200C01	リース資産管理情報一括取込
	SIFKF00100C01	建仮異動データ取込
ファイル出力系 (FileOutPut)	SIAGF01000R01	予算登録
	SIAGF02000R01	資金繰予定データ取込
	SIAGE01100R02	CF 増減表入力
	SIAGE01100R07	
	SIAGE01100R08	
	SIAGE01200R03	為替評価替データ作成
	SIAGE01200R04	
	SIAGE07000R02	配賦データ作成
	SIAGE07000R03	
	SIAGE07100R02	セグメント配賦データ作成
	SIAGE07100R03	
	SIAGE07100R04	
	SIARU00200R02	残高消込
	SIACU04000R02	外部データ・配賦データ一括取消
	SINMM04000R01	ユーザーマスタ登録
	SIBCA00100R02	証憑管理(拡張添付)
	SIFFF00300R01	外部取込用異動データ作成
	SIFCF00300R02	異動取込データ取消
	SIFCW00200R01	外部データ作成
	SIFFU01300R03	予測計算指示
	SIFFU01100R04	資産データ削除
	SIFLU00400R02	個別リース削除
	SINAZ00400C01	GridCSV 出力サービス
	SINCW00100R01 ～SINCW00100R37	外部連携サービス (※)設定ファイルには「SINCW00100R」で定義
FB データ系 (FBDataFile)	SIAPU00300C01	FB データ作成
	SIARU00100C01	FB 入金データ取込

文字コード設定 (EncodingSetting)		
分類	言語コード	文字コード
ファイル読込系 (FileReading)	JA	Shift_JIS
	EN	Shift_JIS
	ZH	Shift_JIS
	ZF	Shift_JIS
	TH	Shift_JIS
ファイル出力系 (FileOutPut)	JA	Shift_JIS
	EN	UTF-8
	ZH	UTF-8
	ZF	UTF-8
	TH	UTF-8
FB データ系 (FBDataFile)	JA	Shift_JIS
	EN	Shift_JIS
	ZH	Shift_JIS
	ZF	Shift_JIS
	TH	Shift_JIS



注意

このファイルはクライアントにダウンロードされ利用されますので、
サーバーフォルダとクライアントフォルダの両方に存在することになります。

・定義ファイルに設定のないサービスが実行された場合、NX システムで扱うファイルの文字コードは次のようになります。

※ ファイル読込系のサービスの場合:「Shift_JIS」

※ ファイル出力系のサービスの場合:

・ユーザーの言語コードが「日本語」の場合:「Shift_JIS」

・ユーザーの言語コードが「日本語」以外の場合:「UTF-8」



・帳票機能の CSV 出力について

CSV 出力(帳票)については定義ファイルの設定有無に関係なく有効となります。

CSV 出力(帳票)機能の識別はサービス ID の先頭から 5 桁目(業務機能 ID の 3 桁目)が「P」(帳票処理)、「R」(照会処理)の値が対象となります。

3.4.8 フリーレイアウト使用可否の設定

SSNXFreeLayoutInformation.xml ファイル

- 本ファイルは、NX システムでフリーレイアウトの使用可否を指定する定義ファイルです。
- 対象外とする会社を個別、または一括(すべて)に指定できます。
- 本ファイルは”インストール先フォルダ¥config”配下に格納されています。

【SSNXFreeLayoutInformation.xml ファイルのイメージ】

[全ての会社を対象外にする場合]

```

SSNXFreeLayoutInformation.xml - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
<freeLayoutInfo>
  <!-- 全ての会社を対象外にする場合はall="True"を記載してください。 -->
  <blackList all="True" />
</freeLayoutInfo>

```

[個別に会社を指定する場合]

```

SSNXFreeLayoutInformation.xml - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
<freeLayoutInfo>
  <!-- 個別に対象外にする会社コードを指定してください。 -->
  <blackList>
    <kaiCode>NXSYS</kaiCode>
  </blackList>
</freeLayoutInfo>

```

3.4.9 クライアント情報の設定

SSNXClientInformation.xml ファイル

- 本ファイルは、NX システムでクライアントの情報を設定する定義ファイルです。
- downloadlist にはアプリケーションサーバーインストーラーが生成したダウンロード用のキーとダウンロードモジュールが格納されるフォルダが設定されます。
- 本ファイルを直接エディタで編集することで、ログイン画面の「ログイン情報を保持する」機能の利用可否を設定することが可能です。
- 本ファイルは”インストール先フォルダ¥config”配下に格納されています。
- 本ファイルの変更点を反映するには IIS の再起動が必要です。

【SSNXClientInformation.xml ファイルのイメージ】

```

SSNXClientInformation.xml - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<config>
  <downloadlist key="b91fa090-ae08-455e-b402-553d08a6db97" downloadFolder="5946c62c-b174-4c51-b284-a71d5bc50292">
    ...
  </downloadlist>
  <downloadAction>
    ...
  </downloadAction>
  <LoginSave>
    <Use value="true" />
  </LoginSave>
</config>

```

本ファイルの LoginSave/Use タグ内の value 属性を設定します。

項目タグ名		属性名	設定内容
LoginSave	Use	value	true:「ログイン情報を保持する」機能を利用する(デフォルト) false:「ログイン情報を保持する」機能を利用しない



注意

他の項目は SuperStream-NX の動作の為の内部設定です。
値の変更、削除等を行わないでください。

他社の登録商標または商標に関する注記

・記載された社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

SuperStream-NX 2019-10-01版

インフラガイド

2009年12月01日発行

2019年12月20日改訂

発行所 スーパーストリーム株式会社

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

Printed in Japan